

科目名	社会人入門		
担当教員名			
ナンバリング	KKe145		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部共通科目学位授与方針キャリア教育 に該当する。

初年次の段階から働くことに対する勤労観・職業観を自ら養うことができる。同時に、社会人として必要になる基礎的・汎用的能力を高め、社会的・職業的自立を志向することができる。

科目の概要

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人としての基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

働くことと豊かな人生とは何かを考え、自己成長を促進させ、学び続ける力を身につけることの理解を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

アクティブラーニングによる参加型授業。授業での様々な学びを通して共感と発見を目指し、自らのアクションを促す。

- 1回 オリエンテーション、「社会人入門」での学びの構え、型を学ぶ
- 2回 人生100年時代の幸福学「幸せ」と「豊かさ」について考える1
- 3回 人生100年時代の幸福学「幸せ」と「豊かさ」について考える2
- 4回 ソーシャルスキルを学ぶ1 今からのリーダーシップ
- 5回 ソーシャルスキルを学ぶ2
- 6回 ソーシャルスキルを学ぶ3
- 7回 ライフデザインを考える
- 8回 ライフデザインワークショップ (モデルを探す)
- 9回 ライフデザインワークショップ (イメージから実践へ)
- 10回 情報サービスとリテラシー・ソーシャルメディア活用術
- 11回 ソーシャルマナーを考える
- 12回 お金・マネー講座
- 13回 お金・マネー講座
- 14回 演習

15回 振り返り、まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前教材の確認。

【事後学修】* 毎回授業後48時間以内にgoogle フォームに まとめ(何を学べたか)&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に説明します。

『女性の視点で見直す人材育成』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	KKe246		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部共通科目学位授与方針キャリア教育 に該当する。

働くことに対する勤労観・職業観を自ら養うことができる。同時に、社会人として必要になる基礎的・汎用的能力を高め、社会的・職業的自立を志向することができる。

科目の概要

即戦力の人材がもとめられている現在、専門知識と同時に、様々な問題を解決する力や、実行力、協調性などの「社会人としての基礎力」を学生に身につけてもらうための授業。

企業で活躍する女性ををお招きし、仕事への取り組みやワークライフバランスなど職業生活をどのようにデザインしているかを学ぶ。社会人からの学習を自分につなげ、自分自身のキャリアデザインを行う。

授業の方法（ALを含む）

グループでのワークショップスタイルで進める。

3回の外部のゲストスピーカーをお招きしてのワークショップも行う。

到達目標

1. 社会人からの学びを基本に、自分の職業イメージ形成とキャリアプラン作りを行う。
2. 働くことと豊かな人生とは何かを考え、自己成長を促進させ、学び続ける力を身につけることの理解を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

1	オリエンテーション、「キャリアサポート」での学びの構え、型を学ぶ
2	ワークショップの型を学ぶ、ファシリテーション技術を学ぶ
3	キャリアと人生について考える（人の幸せとは）
4	女性として働くとは（様々な働き方の選択を考える）
5	なでしこジャパン佐々木則夫流ソーシャルスキルを学ぶ 1
6	ゲストから学ぶ 1
7	理想の自分像をデザインする
8	ゲストから学ぶ 2
9	なでしこジャパン佐々木則夫流ソーシャルスキルを学ぶ 2
10	ゲストから学ぶ 3
11	理想の自分になるためのアクション
12	ゲストから学ぶ 4
13	フューチャーマッピング
14	ゲストから学ぶ 5
15	キャリアサポート学びの振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回の事前課題教材の学習。

【事後学修】振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをGoogleフォームでの提出。フォーマットはインストラクションで解説。

（事前・事後ともに各回60分）

評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中原淳・『女性の視点で見直す人材育成』・ダイヤモンド社

【推薦図書】授業時に関連の本や資料を紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	インターンシップ短期		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KKe247		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計5日(35時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 : 自己を理解する力、 - 6 : 就業観を養う力、 - 9 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ短期		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KKe247		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計5日(35時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 : 自己を理解する力、 - 6 : 就業観を養う力、 - 9 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KKe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計10日(65時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 協働する力、 - 6 : 就業力を養う力、 - 9 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KKe248		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

インターンシップ受け入れ先の担当者は、それぞれの実務経験を踏まえて、就労体験のプログラム編成と活動の指導支援にあたる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域に配置された選択科目である。「キャリア教育」領域のなかでは、実社会をフィールドとして、就業体験を通して学修する実践的な科目である。社会で活躍していくための資質や能力について、学習者自身が認識を深め、開発への意欲を高めることを目指す。なお、多様なフィールドでの体験を可能とするために、繰り返し受講可能とする。

科目の概要

本科目では、受け入れ先の企業や自治体において、計10日(65時間)以上の就業体験等の活動に従事する。受け入れ先が設定するプログラムに従って、主体的かつ意欲的に活動に従事することで、社会の動きや組織的な活動に対する認識と理解を深める。また、就業体験のなかでの成果や報告、および活動後の報告や振り返りを通して、自らに備わった資質や能力を活かす方略、および今後育成すべき資質や能力について、認識を深め、取り組もうとする態度を養う。

授業の方法 (ALを含む)

本科目の学修活動は、受け入れ先での就業体験が主である。従って、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、PBL型活動を中心とした学修が展開される。

到達目標

- 1.これまでの学修で得た知識や技術を、社会における諸活動のなかで実践できる
- 2.学習者自身の資質や能力を、社会における諸活動において、効果的に発揮する方略を工夫できる
- 3.本科目での学修成果をもとに、進路選択や人生設計をより具体的に検討する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 : 協働する力、 - 6 : 就業力を養う力、 - 9 : 実践する力

内容

本科目におけるインターンシップへの参加には次の3タイプが想定される。

1. 特定の企業における勤務体験に主眼をおいた「企業体験型」
2. 特定職種での勤務体験に主眼をおいた「職業体験型」
3. 企業(業界)や職種を限定することなく、就業体験を重視する「労働体験型」

学習者は、自らの職業観の成熟状態や体験目的に基づいて、より適切なタイプを選択すること。

受け入れ先での活動は、設定されたプログラムに従って行う。プログラム全体の趣旨、および個々の活動目的を的確に理解した上で、自らの資質能力を認識し、さらに高めることを目指して、意欲的に取り組むことが求められる。異なる人々との連携や協働を体験し実践する貴重な機会としてとらえること。

本科目の履修においては、受け入れ先での体験だけではなく、インターンシップに関して就職支援課が主催する事前説明会および事後報告会なども学修活動の一環である。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

開始前：受け入れ先（企業、自治体）に対する基本的理解を深める。理解が困難な点も明らかにして言語化する[90分]。さらに、自分自身の能力・資質・特性について、これまでの様々な経験を振り返り、できる限り客観的に言語による説明ができるようにすること[90分]。

インターンシップ中：翌日の活動に必要な準備をすること[30分]。

【事後学修】

インターンシップ中：当日の活動をもとに、1)その日活動したことを時系列的に整理する、2)その日の活動のなかで気づいたことや感じたこと、新たに理解したことを文章としてまとめる、3)自らの成長したと感じたことを言語によって表現する、などの振り返りを行う [30分]。

インターンシップ終了後：到達目標の3項目に即して、自らの到達程度を具体的根拠とともにまとめる[60分]。

評価方法および評価の基準

受け入れ先から提出された評価(40%)、インターンシップレポート(40%)、事後報告会(20%)で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．評価(20%/40%)、レポート(5%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標2．評価(15%/40%)、レポート(25%/40%)、報告会(8%/20%)

到達目標3．評価(5%/40%)、レポート(10%/40%)、報告会(4%/20%)

【フィードバック】レポートについてはコメントを返却する。報告会については、その会場において、高騰によるコメントを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

興味をもった業界・企業・職種でのインターンシップが基本となることが想定される。その一方で、未知の業界・企業・職種でのインターンシップを体験することは、資質や能力を大きく伸ばし、職業観や進路選択に関する視野を広げる機会となることが考えられる。

科目名	自主社会活動		
担当教員名	綿井 雅康、松永 修一		
ナンバリング	KKe249		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目キャリア教育領域の選択科目である。自らの意志で学外のプロジェクトやその他の社会的な活動に参加し、授業内の体験では経験できないことからの気づきや学びを獲得する。

科目の概要

学内外での以下にあげるような条件に合う経験にもとづく学びに対して単位が認定される科目であるため、定時の授業は行わない。しかし、事前・事後のレクチャーならびに打ち合わせ、活動日誌・レポートの作成・提出、報告会での発表は、単位認定に必要な条件である。活動の場と内容は、学外においては、地域活性化のプロジェクト、社会福祉施設、児童館などの教育施設の活動、NGO・NPO、国際NGOなどが行うイベントのサポートなど様々なボランティア活動、学内については、留学生支援ボランティアなどがこれに該当する。

授業の方法 (ALを含む)

事前・事後のレクチャーへの参加と、学内外における社会的な活動を35時間以上、無償で行い、それについて活動日誌・レポートを作成・提出する。さらに活動成果について学内の報告会で発表した場合に、担任など担当教員が評価して1単位を与える。

【実習】【サービスマーケティング】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 参加した社会活動での経験を通して、現場や実社会での課題に対する興味・関心を醸成する。
2. 参加した社会活動での経験を通して、大学の授業からは体験できない気づきや学びを獲得する。
3. 社会活動への参加経験から学んだことや喚起された問題意識について、自分の言葉でそれを他者に向けて発信することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の能力・資質を育成することを目的とする。

- 3 : 3協働する力、
- 5 : 自己を理解する力、
- 9 : 実践する力

内容

学内、学外における無償の利他的なプロジェクトへの参加、社会的活動などを、以下の3つの条件に合わせて行うこと。

35時間以上の活動であり、活動を通したゴール設定がなされている。(活動先に評価を依頼)【実習】【サービスラーニング】

その内容、自分自身が学んだこと、提案などについて活動日誌・レポートを作成し、提出すること。【レポート(表現)】

学内の発表会で報告すること。【プレゼンテーション】

履修に際して、事前・事後のレクチャーと打ち合わせを行う。

活動日誌・レポート:所定の書式に沿ってまとめる。構成・フォーマット、提出先、発表会の日程などについては、就職支援課に確認すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの概要を理解し、その活動から何を体験し学びに結び付けられるかを考え、目標設定を行う。体験によるリスクについて考え、その回避法や管理について明確にし報告する。(60分)

【事後学修】活動の概要と学びについての報告をまとめ、発表報告会を行う。(60分)

評価方法および評価の基準

受入れ先から提出された評価(20%)、本人が作成した活動日誌・レポートの内容(60%)、学内発表会での報告(20%)により総合的な評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 . 評価(10%/20%)、日誌(20%/60%)、報告(5%/20%)

到達目標2 . 評価(5%/20%)、日誌(30%/60%)、報告(5%/20%)

到達目標3 . 評価(5%/20%)、日誌(10%/60%)、報告(10%/20%)

【フィードバック】提出された活動日誌・レポートを含め、口頭発表後にコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々に応じて説明を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	自主社会活動		
担当教員名	綿井 雅康、松永 修一		
ナンバリング	KKe249		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目キャリア教育領域の選択科目である。自らの意志で学外のプロジェクトやその他の社会的な活動に参加し、授業内の体験では経験できないことからの気づきや学びを獲得する。

科目の概要

学内外での以下にあげるような条件に合う経験にもとづく学びに対して単位が認定される科目であるため、定時の授業は行わない。しかし、事前・事後のレクチャーならびに打ち合わせ、活動日誌・レポートの作成・提出、報告会での発表は、単位認定に必要な条件である。活動の場と内容は、学外においては、地域活性化のプロジェクト、社会福祉施設、児童館などの教育施設の活動、NGO・NPO、国際NGOなどが行うイベントのサポートなど様々なボランティア活動、学内については、留学生支援ボランティアなどがこれに該当する。

授業の方法 (ALを含む)

事前・事後のレクチャーへの参加と、学内外における社会的な活動を35時間以上、無償で行い、それについて活動日誌・レポートを作成・提出する。さらに活動成果について学内の報告会で発表した場合に、担任など担当教員が評価して1単位を与える。

【実習】【サービスマーケティング】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 参加した社会活動での経験を通して、現場や実社会での課題に対する興味・関心を醸成する。
2. 参加した社会活動での経験を通して、大学の授業からは体験できない気づきや学びを獲得する。
3. 社会活動への参加経験から学んだことや喚起された問題意識について、自分の言葉でそれを他者に向けて発信することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の能力・資質を育成することを目的とする。

- 3 : 協働する力、
- 5 : 自己を理解する力、
- 9 : 実践する力

内容

学内、学外における無償の利他的なプロジェクトへの参加、社会的活動などを、以下の3つの条件に合わせて行うこと。

35時間以上の活動であり、活動を通したゴール設定がなされている。(活動先に評価を依頼)【実習】【サービスラーニング】

その内容、自分自身が学んだこと、提案などについて活動日誌・レポートを作成し、提出すること。【レポート(表現)】

学内の発表会で報告すること。【プレゼンテーション】

履修に際して、事前・事後のレクチャーと打ち合わせを行う。

活動日誌・レポート:所定の書式に沿ってまとめる。構成・フォーマット、提出先、発表会の日程などについては、就職支援課に確認すること。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】活動やプロジェクトの概要を理解し、その活動から何を体験し学びに結び付けられるかを考え、目標設定を行う。体験によるリスクについて考え、その回避法や管理について明確にし報告する。(60分)

【事後学修】活動の概要と学びについての報告をまとめ、発表報告会を行う。(60分)

評価方法および評価の基準

受入れ先から提出された評価(20%)、本人が作成した活動日誌・レポートの内容(60%)、学内発表会での報告(20%)により総合的な評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 . 評価(10%/20%)、日誌(20%/60%)、報告(5%/20%)

到達目標2 . 評価(5%/20%)、日誌(30%/60%)、報告(5%/20%)

到達目標3 . 評価(5%/20%)、日誌(10%/60%)、報告(10%/20%)

【フィードバック】提出された活動日誌・レポートを含め、口頭発表後にコメントする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

個々に応じて説明を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	企業に学ぶキャリアデザイン 課題解決プロジェクト		
担当教員名	見吉 英彦、松永 修一		
ナンバリング	KKe251		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部共通科目学位授与方針キャリア教育 に該当する。初年次の段階から働くことに対する勤労観・職業観を自ら養うことができる。同時に、社会人として必要になる基礎的・汎用的能力を高め、社会的・職業的自立を志向することができる。就職に関する早期の職業観を醸成し、埼玉県内企業で就労する魅力を伝えるものである。埼玉県の連携補助事業として実施する。

科目の概要

- ・県内企業の社員が授業に参加し、企業が直面する経営課題を学生に提示する。
- ・グループワークにより学生が提案する解決策を企業が評価する。

授業の方法（ALを含む）

企業（2社を予定）から課題を提示してもらい、その解決策をグループごとに提案し、企業の方に評価してもらう。

【グループワーク】【PBL】

到達目標

- 1：学生が「社会で必要な力」と「自分の持っている力」との違いを認識し、自らが必要とする能力を伸ばす。
- 2：実際の企業における課題を認識し、新しい解決方法を考えることができる。
- 3：物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。
- 4：早期の職業観を醸成し、自らのキャリア形成において主体的に選択ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 社会人基礎力・ジェネリックスキル

内容

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。企業側との日程調整により予定は変更になる場合もある。

1	オリエンテーション、ルールなどの説明・「社会人基礎力」とは
2	課題解決とは？ ディスカッション練習

3	A企業からの課題の提示
4	チームによる活動
5	A企業への一時提案
6	チームによる活動
7	A企業への最終提案、評価
8	振り返り、チーム再編
9	B企業からの課題の提示
10	チームによる活動
11	B企業への一時提案
12	チームによる活動
13	B企業への最終提案、評価
14	全体の振り返り
15	まとめ、効果測定

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前教材の確認。事前学習のための課題を各自で行う。(45分以上)

【事後学修】課題についてのグループでの協同活動。(60分以上)

* 毎回授業後48時間以内に まとめ(何を学べたか) & 感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」を提出。

評価方法および評価の基準

1: 学生が「社会で必要な力」と「自分の持っている力」との違いを認識し、自らが必要とする能力を伸ばす。

(リフレクション: 20% 課題: 10% 最終テスト: 5%)

2: 実際の企業における課題を認識し、新しい解決方法を考えることができる。

(リフレクション: 25% 課題: 0% 最終テスト: 0%)

3: 物事を多面的にかつ論理的に考察し、表現できる。

(リフレクション: 10% 課題: 15% 最終テスト: 0%)

4: 早期の職業観を醸成し、自らのキャリア形成において主体的に選択ができる。

(リフレクション: 5% 課題: 5% 最終テスト: 5%)

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】Google formでインターラクティブに適宜フィードバックを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プロジェクト・サポート・ノートブック

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	企業に学ぶキャリアデザイン 社会人インタビュー		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KKe252		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

新聞社での編集業務、採用担当の経験あり。授業は企業訪問を通じてインタビューの実践と企業の魅力をまとめることがメインであり、将来的なキャリア形成に結び付くことを目的にしている。実務経験を活かし、効果的なインタビュー、原稿まとめを解説するとともに、就職活動に当たり学生に企業側の考え方などを伝えることができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

他のキャリア教育科目と連動しながら早期の職業観と前向きな就労意欲を養い、就職活動の効果的な取り組みを伝えるものである。

埼玉県内の全面的な協力を得て実施し、埼玉県内の企業への関心を高める。

科目の概要

1. 就職活動に取り組む際の企業研究など情報収集方法を学ぶ。
2. 埼玉県内の企業を訪問し、社員にインタビューを実施する。
3. インタビューを題材に学生がキャリアデザインを考え、学生間で共有することで職業観を養う。
4. 「埼玉県 企業ガイド2021」の原稿を執筆する、最終的には埼玉県内で配布される予定。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は、基本的な知識、基礎的な情報収集の方法を講義で伝えた上で、グループによる調査、ディスカッションを通して課題を深堀する。企業訪問の準備、インタビュー、企業の魅力まとめまでの過程を実践的に取り組む。【グループワーク】

【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

到達目標

1. 情報収集、グループワーク、フィールドワークに取り組むことで主体的に学び、行動できる。
2. 早期の就業観を身につけることができる。
3. 埼玉県内の企業を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会人基礎力・ジェネリックスキル - 4 創造する力 - 6 就業観を養う力

内容

企業側との日程調整により予定は変更になる場合もある。

1	オリエンテーション
2	業界研究・企業研究の方法を学ぶ
3	現在の職業観のプレゼンテーション

4	ビジネスマナーの理解と実践
5	研究企業の決定と計画
6	企業研究の手法を学ぶ
7	企業研究テーマのプレゼンテーション
8	効果的な質問を考える・インタビュー手法
9	企業インタビューの実践と報告
10	企業インタビューの実践と報告
11	企業インタビュー報告会の準備
12	企業インタビュー報告会
13	グループワーク・振り返り
14	行動計画プレゼンテーション
15	まとめ、効果測定

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】企業訪問などの校外活動に主体的に参加する姿勢が必要である。事前に課題を提示するのでまとめてくること。(おおむね60分ほど)

【事後学修】グループでの活動が必要になる。事前学習と授業内容を基に学んだことをまとめる(各授業に対して60分ほど)

評価方法および評価の基準

毎回の授業への参加度50%、企業訪問の取り組み20%、原稿制作10%、グループワークへの貢献度20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で振り返りをまとめ翌週に返却、授業の最終回で全体の振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】マイキャリアノート、埼玉県企業ガイド2020(いずれも授業内で配布)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	留学生のためのキャリアデザイン		
担当教員名	新嶋 良恵、松永 修一		
ナンバリング	KKe253		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

留学生が日本での就職活動をする上で必要なことを学習し、日本での就職活動を進めていける力を身につけさせることを目標とする。また、大学院、研究生、専門学校への進学を考えている学生に対しては別途指導する。

科目の概要

日本での就職活動の方法を学習し、また、業界研究や日本経済の現状について、学習する。さらに、就職活動におけるマナー、面接、グループディスカッションの練習を行う。

授業の方法 (ALを含む)

実践的なワークシート演習や、グループワークとしてディスカッションや発表といった主体的な活動が中心となる。

到達目標

1. 自己分析に必要な「問う」能力を伸ばし主体的に考えることができる。
2. 人前でスムーズに話すことができる。
3. 必要なツールを使いこなし日本での就職を含めキャリアパスを描くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 前を向く力
- 2 事故を理解する力
- 1 キャリアデザイン力

内容

1	ガイダンス, 授業の進め方
2	日本における就職活動の方法
3	自己分析、自己PR
4	自己分析、自己PR

5	自己分析、自己PR
6	履歴書、希望調査書の記入
7	模擬面接
8	模擬面接
9	模擬面接（該当者がいれば内定者体験談）
10	グループディスカッション
11	面接・マナーを学ぼう
12	面接・マナーを学ぼう
13	企業研究、職種研究について
14	就職サイト登録、ビザ・求人の探し方
15	就職ガイダンス、まとめ（進路調査アンケート、授業アンケート）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日本の新聞やテレビなどを見る。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を復習する。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

各回の課題（50%）と最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標3点について、課題では文章から、発表やグループ活動での活躍を通して到達度を評価する。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	キャリア基礎力入門		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KKe250		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するための基礎科目である。

科目の概要

就職活動に関わる具体的な基礎力向上のために、特に非言語領域、数学、算数 の授業、問題演習を到達度別クラスに分かれて2年次に行う。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

基礎的な非言語領域、数学、算数および言語領域の演習を中心に行い、基礎的な学力の向上を図る。

学習單元ごとに「考え方」を理解し攻略のコツを覚えることが出来る。

就職活動時には必要となる学習であるため、苦手だと感じている学生は後期のキャリア基礎力応用と継続して受講することが望まれる。

3年次には、授業「現代社会理解」を履修して就職試験に対応する力を養う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

当科目の目標はキャリア教育のディプロマポリシー1、「初年次の段階から働くことに対する勤労観・職業観を自ら養うことができる。同時に、社会人として必要になる基礎的・汎用的能力を高め、社会的・職業的自立を志向することができる」に該当する。

内容

本授業は下表に示す各分野の問題の解き方を説明し、関連する問題を学生が自分で解くことにより、その意味や解き方を理解する。

1	ガイダンス、チェックテスト 必ず受験してください。 内容の順番はクラス毎に異なります。
2	非言語分野1 (計算と文字式：四則計算、正負の計算、少数と分数、因数分解)
3	非言語分野2 (計算と文字式：四則計算、正負の計算、少数と分数、因数分解)
4	非言語分野3 (数の性質：倍数、約数、素因数分解、平方根)
5	非言語分野4 (数の性質：倍数、約数、素因数分解、平方根)
6	非言語分野5 (文章題の基礎：1次方程式、比例、割合)
7	非言語分野6 (文章題の基礎：連立方程式、等式と不等式)
8	非言語分野7 (文章題の基礎：利益、濃度 (食塩水)、速さ)

9	非言語分野8 (関数とグラフ: 2次方程式、解の公式)
10	非言語分野9 (関数とグラフ: 1次関数とグラフ、1次関数と図形)
11	非言語分野10 (関数とグラフ: 2次関数の基礎、グラフと領域)
12	言語分野1 (熟語)
13	言語分野2 (故事成語、慣用句)
14	言語分野3 (長文読解)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストの未修ポイントの学習1時間

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習 1時間

評価方法および評価の基準

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に回答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】2回目の授業前に販売

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	キャリア基礎力応用		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KKe350		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の学位授与方針「キャリア教育」1に該当する。

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。

科目の概要

就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指す。

ディプロマ・ポリシーとの関係

当科目の目標はキャリア教育のディプロマポリシー1、「初年次の段階から働くことに対する勤労観・職業観を自ら養うことができる。同時に、社会人として必要になる基礎的・汎用的能力を高め、社会的・職業的自立を志向することができる」に該当する。

内容

能力別にクラス分けを行い、講義形式で講義を行なう。講義の時間の中でミニテストを実施、各科目ごとの習熟度を測る。

1	非言語分野 1 (推論)
2	非言語分野 2 (推論)
3	非言語分野 3 (集合)
4	非言語分野 4 (表・資料の読み取り)
5	非言語分野 5 (場合の数)

6	非言語分野 6 (確率)
7	非言語分野 7 (速さ)
8	非言語分野 8 (損益算、割引)
9	非言語分野 9 (分割払い、代金の計算)
10	非言語分野 10 (割合)
11	言語分野 1 (二語の関係、熟語)
12	言語分野 2 (長文読解、空欄補充)
13	一般常識 1 (社会、英語)
14	一般常識 2 (文化、時事、理科)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストの未修ポイントの予習、疑問点をメモ (1時間)

【事後学修】テキストを中心とした練習問題学習、疑問解決を書き込み (1時間)

評価方法および評価の基準

小テスト50点、期末テスト50点などをもとに、総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に回答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】1回目の授業前に販売

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会理解		
担当教員名	綿井 雅康、松永 修一		
ナンバリング	KKe351		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - キャリア教育		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

人材養成や能力育成を業務とする民間企業での勤務経験を有する者が、本科目における学修活動の指導・支援を担い、受講生の能力育成につとめる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「キャリア教育」領域における「就業力を身につける」区分に配置された科目である。大学での学修全般に資する基礎的な能力、進路選択における就業力を向上させる能力、さらには、社会における活動に必要となる能力の育成と向上を支援する科目である。

科目の概要

2年次の「キャリア基礎力入門 / 応用」で修得した知識や技能をもとに、さらなる知識形成と能力向上を目指した学修活動を展開する。

授業の方法 (ALを含む)

授業内に配布される課題に解答すること、および、その後に行われる解説を通して、課題の趣旨や仕組みを理解し、解答に必要な基礎知識を形成し、学修を通して獲得した知識や考え方が、別の課題解決にも適用可能にする。

到達目標

1. 汎用的な言語能力を高め、課題に即して柔軟に能力や知識を活用できる力を備える
2. 汎用的な数的・空間操作能力を高め、課題に即して、適切な解決を求める力を備える

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通教育のディプロマ・ポリシーにおける次の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 : 社会人基礎力・ジェネリックスキル

内容

1	学習の進め方、方程式の復習
2	文章題の基本
3	場合の数、確率の基本
4	割合の基本
5	分割払いの問題
6	図表の読み方の基本
7	レベル1模擬試験
8	順列、組み合わせ
9	推論の基本

10	推論の応用
11	推論の応用2
12	割合の応用
13	損益算の基本
14	集合
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1～14回：トオルゾウの「確認テスト」を受験して、授業で学習する課題や内容の概略を把握する[50分]。

15回：14回までの全ての学習内容を振り返り、新たな課題にも対応できるようまとめ直す[80分]。

【事後学修】

1～14回：トオルゾウを用いて、授業で学んだ領域の課題に再度取り組む[120分]。本事後学修に取り組むことで能力向上と知識形成が実現される。

評価方法および評価の基準

授業内で実施する課題への取り組み（70%）、最終回の課題（30%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1．授業内課題(35% / 70%)、最終課題（15% / 30%）

到達目標 2．授業内課題(35% / 70%)、最終課題（15% / 30%）

【フィードバック】授業内課題、最終回の課題ともに正解についてはフィードバックし、受講生自身による学び直しを促進する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。

【その他】SPI対策のEラーニングソフト「トオルゾウ」を利用する。パソコンまたはスマートフォンを用いて、授業と並行して学習する。その他、必要に応じてトオルゾウに関連する資料を各自がプリントして用いる。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ハンゲル		
担当教員名	チョ ヒ		
ナンバリング	KKc227		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - ハンゲル		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1. 共通科目の外国語科目のうち選択必須の通年科目である。
2. 韓国の文化や社会のトレンドを理解し、文化の多様性を理解した上でグローバル社会で活躍できる資質と能力を身につける。

科目の概要

1. 基本文字を復習したあと、重要文型や多様な表現を用いて対話文の練習を行う。
2. 日常会話が話せるように対話文の練習を重ねてコミュニケーションの力を付けることを目指す。
3. ドラマのセリフや歌詞を訳しながら表現の比較から両国の文化の違いを理解する。

授業の方法 (ALを含む)

1. アクティブ・ラーニングとして、対話文のCDを聴いてペアで自然に話せる訓練を行う。
2. 各単元に入る前は単語・語彙テストを行う。
3. 学習した文法を活用し作文を作って発表を行うことでより理解と知識を深める。

到達目標

1. 対話文の練習を通じて基本的な日常会話ができる。
2. 韓国語の基礎文法を理解した上で、作文を通じて文章力を身につける。
3. 「韓国語能力試験TOPIK 1・ 」「ハンゲル能力試験4・3級」にもチャレンジしてみる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 1 外国語基礎理解 -2 異文化の理解・尊重 -3 外国語コミュニケーション

内容

この授業は講義を基本に、基本的な会話文や事柄を韓国語で発表ができるようにしながら進めていく。

1	Unit 1 文法/対話 (敬語・謙譲語)
---	-----------------------

2	Unit 1 課題/聞いて話す
3	Unit 1 読んで話す/作文
4	Unit 2 文法/対話(～現在進行形)(～した後)(～しようと)
5	Unit 2 課題/聞いて話す
6	Unit 2 読んで話す/作文
7	Unit 3 文法/対話(～する時)(～する前)(～して)
8	Unit 3 課題/聞いて話す/前期まとめ
9	Unit 3 読んで話す/作文
10	Unit 4 文法/対話(～すると)(～でしょうか)
11	Unit 4 課題/聞いて話す
12	Unit 4 読んで話す/作文
13	Unit 5 文法/対話(～すること)(～なので)(～しましょう)
14	Unit 5 課題/聞いて話す
15	後期まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各課の新しい単語と語彙を予習した上で、学習する内容の対話文や長文のCDを聴いてくる。あと、ドラマのセリフや歌詞を訳して文書の構成を考えておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回学習した文法や表現を復習してノートにまとめておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

平常点50%(授業参加度・発表・課題提出)、定期試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とする。

1. 授業参加度(15%/50%)・発表(20%/50%)・課題提出(15%/50%)
2. 単語テスト(20%/50%)・期末試験(30%/50%)

【フィードバック】授業の前に前回の復習や質疑に返答し、学習の理解をより深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「Sogan Korean New Series 2A Student's Book」西江大学韓国

語教育院著 西江大学国際文化教育院出版 2018年

(その他プリントや資料を配布する。)

【推薦書】「第35回・36回・37回・41回 韓国語能力試験過去問題集TOPIK」NIIED(韓国国立国際教育院)著 公益財団法人韓国教育財団編集

「2019年版 ハングル能力検定試験 ハン検過去問題集4級」ハングル能力検定協会

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

前期・後期はインタビュー試験を行う予定であるが、受講人数により変更する場合があります。

科目名	フランス語		
担当教員名	増茂 和男		
ナンバリング	KKc225		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - フランス語		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語科目のうちの選択科目。通年で2単位の科目です。原則、フランス語 を履修した学生対象です。

科目の概要

フランス語の基礎力を充実させて、フランス語検定の4級レベルを目指します。

授業の方法 (ALを含む)

(1)フランス語 と同様に音読や聞き取りを重視して進めます。(2)初級段階が続いていますので、欠席をしないで継続して学ぶことが大切です。英語の知識も活用してフランス語の仕組みや文の作り方の理解・知識を確実にしましょう。(3)アクティブ・ラーニングとして、音読、ペアの対話練習、小テストほかをおこないます。

到達目標

音声と文法の基本事項を身につけ、簡単な内容のフランス語を正確に話せて書けることを目標にします。またフランス語圏の文化や風習の知識を深めます。

具体的な目標は以下の通りです。

- (1)発音：教材の基礎的対話を聞き取り、同じような内容を正しい発音で発話できる。
- (2)理解：基礎的な対話を理解し、また単文の仕組みや文意を理解できる。
- (3)文法：日常会話の単文を発話・作文するのに必要な基礎的文法を身につける。動詞の直説法の主な時制 (過去・未来) を身につける。
- (4)文化：フランス語圏の文化や風習に関心を持ち、知識を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 外国語基礎理解 -2 異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション

内容

(授業計画) (カッコ内の数字は各回を示します。)

- (1)教科書の第1課? 第8課のまとめと復習 (2)第9課：動詞 prendre、間接目的格の人称代名詞、代名動詞 (3)第9課の内容の会話・文法の練習 (4)第10課：近接未来、近接過去、中性代名詞 (5)第10課の内容の会話・文法の練習 (6)第11課：形容詞と副詞の比較級・最上級 (7) 第11課の内容の会話・文法の練習 (8)第9課? 11課のまとめ、フランス文化-1 (やさしい詩や歌など) (9)第12課：複合過去-1 (10) 第12課の内容の会話・文法の練習 (11) 第13課：複合過去-2 (12) 第13課の内容の会話・文法の練習 (13)第12課? 13課のまとめ、フランス文化-2 (14)まとめ (15)振り返り
- (16)前期の復習 (17)第14課：半過去 (18)第14課の内容の会話・文法の練習 (19)複合過去と半

過去の補足練習 (20)第15課：単純未来 (21)第15課の内容の会話・文法の練習、仮定の表現（解説と練習）

(22)「?しながら」などの表現、受動文（解説と練習） (23)第17回以降のまとめ、フランス文化-3
(24)平易なフランス語作文で総復習-1（名詞、冠詞、代名詞など） (25)平易なフランス語作文で総復習-2（avoirと?tre、疑問形など） (26)平易なフランス語作文で総復習-3（allerとvenir、前置詞など）
(27)平易なフランス語作文で総復習-4（近接未来、近接過去、非人称表現など） (28)平易なフランス語作文で総復習-5（複合過去、比較級と最上級など） (29)まとめ (30)振り返り、ステップアップのための情報提供など

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教材のDVDを利用して音声をよく聞き、まねましょう。スペルを英語読みするとかえって害になります。予習はやや軽めにして、欠席しないで授業に集中し、復習にじっくり時間をかけましょう。[1時間程度]

【事後学修】授業で学んだことが身につくように、配付されたプリントを仕上げ、知識を確実にしましょう。すこし前の回の内容でも不確かな項目はそこに戻ってしっかり補強しましょう。[2時間以上]

評価方法および評価の基準

【評価方法】上の「ねらい」 到達目標の具体的目標について、それぞれ、おおよそ(1)20% (2)30% (3)40% (4)10%の内容の期末考査をおこないます。この期末考査を6割、平常点（出席状況、提出物、小テスト、授業への参加態度など）を4割とし、全体を100点満点に換算して60点以上が合格。

【評価のフィードバック】小テストや課題プリントは原則、実施の次の回に解説・講評をしながら返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】フランス語 で使用した『ピエールとユゴー〔コンパクト版〕（DVD付）』（白水社，2018）を使用します。付録の「単語帳」を授業に必ず持参すること。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

100点換算の総合評価が60点未満の場合は再試験をおこなう場合があります。その場合、日時・場所・内容はLive Campusの授業連絡で周知します。

欠席をしないよう努めましょう。

科目名	中国語		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	KKc226		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 中国語		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

日本をとりまく諸国の中で、中国は隣国であり文化的経済的な面からも、今後一層交流が盛んになると思われます。この科目では、交流の基礎となる中国語の基礎を学びます。

科目の概要

授業では正しい発音をめざします。文法は簡単なものから、徐々に難易度の高いものへと積み重ねていきます。最終的には中国語検定試験の準4級・4級に合格できる力が付くよう、指導します。

授業の方法 (ALを含む)

テキストに沿って読解を進めたり、音声教材を使用します。

到達目標

1. 正しい発音でテキストを読めること
2. 文法事項が理解できて、簡単な文章が翻訳できること
3. 学習した範囲で、中国語を聴いて理解できること
4. 最終的には、自分の主張を中国語で表現できること

以上が受講者の最終目標ですが、希望者には検定試験の情報を与えますので、ぜひチャレンジしてみましょう。また、言葉だけでなく背景となる歴史・文化などにも興味を持って下さい。交流の糧となるに違いありません。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本学のディプロマ・ポリシー 3「言語運用能力」に基づいています。

内容

第1回	中国語とは	第16回	復習
第2回	発音概説	第17回	第8課
第3回	第1課	第18回	第9課
第4回	第2課	第19回	第10課
第5回	第3課	第20回	中国語検定試験過去問題解説

第6回 第4課

第7回 第5課

第8回 第6課

第9回 第7課

第10回 中国の歴史と文化

第11回 リーディング・リスニング

第12回 ライティング・スピーキング

第13回 簡体字練習

第14回 総合復習

第15回 総括

第21回 第11課

第22回 第12課

第23回 第13課

第24回 第14課

第25回 第15課

第26回 スピーキング「自己紹介」

第27回 ライティング

第28回 基本句型

第29回 総合復習

第30回 総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習として、テキストに付いている音声教材を30分程度聴き、できれば数回後について発音してください。事後学習は、授業で習った文法事項の定着として「確認プリント」の復習を30分行ってください。

評価方法および評価の基準

平常点50%、試験50%として総合的に評価し、60%以上を合格とします。平常点とは、出席及び授業内で行った確認プリントの提出によります。確認プリントは授業内で個別に採点し、気を付けるべき点を指摘します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】『STANDARD COURSE 中国語の世界標準テキスト 2』北京語言大学出版社

【参考書】『中国語検定4級合格への手引き』池間里代子 他 南雲堂フェニックス

その他、プリント参考資料などを配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	地球環境の保全と生活		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KKa117		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「人間と自然を学ぶ」群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

科目の概要

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム（生態系）という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【ディスカッション】

到達目標

環境問題の多様性を理解する。

環境学の基礎を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 3 自然と人間の関わり

内容	
1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点（1）：市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点（2）：生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり：環境問題のグローバル化
6	国際協力体制の発展：SDGs
7	環境問題における国際対立

8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

レポート（60%）と筆記試験（40%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京商工会議所編『eco検定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；関礼子他『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科目名	地球環境の保全と生活		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KKa117		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「人間と自然を学ぶ」群科目として、地球環境問題の様々な側面について考える。

科目の概要

地球環境問題は、身近な生活環境の悪化を原因として発生した問題である。しかし、その改善策を考える際は、単に生活環境を改善して、人間にとって住みやすい環境を作りなおすという視点だけでなく、地球の健康、つまりエコシステム（生態系）という視点から見ても望ましい策を考えるという動きが始まっている。この講義では、既に行われている具体的な対策について検討するとともに、エコシステムに注目する行動の基礎になった環境倫理学の視点も紹介して、生態系を重視する環境保護政策のあり方について考える。

授業の方法（ALを含む）

講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく【ディスカッション】

到達目標

環境問題の多様性を理解する。

環境学の基礎を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 3 自然と人間の関わり

内容

1	地球環境問題をどう捉えるか
2	環境を考える4つの視点（1）：市場優先派と制度重視派
3	環境を考える4つの視点（2）：生態系優先派と緑の社会正義派
4	環境保護対策の考え方
5	国際協力体制の始まり：環境問題のグローバル化
6	国際協力体制の発展：SDGs
7	環境問題における国際対立

8	環境問題と経済格差
9	環境問題とジェンダー
10	環境問題と民主主義
11	環境NGO
12	環境倫理学
13	生態系を守る環境保護政策
14	環境学への視座
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】新聞・ニュース等で、環境関連の出来事について情報を集める。（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で説明された政治経済社会的背景を踏まえて、集めた情報を整理する。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

レポート（60%）と筆記試験（40%）で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京商工会議所編『eco検定公式テキスト』日本能率協会 2011年

【推薦書】京都大学地球環境学研究会 『地球環境学へのアプローチ』丸善 2008年；関礼子他『環境の社会学』有斐閣アルマ 2009年

【参考図書】ヴァンダナ・シヴァ 『生物多様性の危機』明石書店 2003年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

再試験は行わない

科目名	宇宙とものなりたち		
担当教員名			
ナンバリング	KKa118		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部共通科目の「人間と自然を学ぶ」科目群の選択科目である。宇宙規模で人間と自然の関係を学ぶ。視野を地球規模に広げ、人間生活と自然環境について考察できることをめざす。

科目の概要

近隣の惑星の環境を学ぶことにより、生物が存在可能な地球の自然環境について再考する。この宇宙全体には「始まり」があり、人間が誕生するまでに長い時間と、多くの科学的なできごとがあったことを学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義による解説を中心に進める。

到達目標

- (1) 太陽系の他の天体を知ることにより、地球が生命の存在に適した星であることを説明することができる。
- (2) 宇宙誕生から人類が生まれてくるまでの歴史を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 自然と人間の関わり

内容

1	この授業のねらい
2	宇宙に働く力, 銀河系
3	宇宙の膨張
4	もののはじまり
5	近隣の惑星 (火星)
6	近隣の惑星 (金星・水星)
7	太陽
8	月
9	地球, 巨大惑星
10	恒星の一生
11	重い恒星
12	恒星の誕生

13	分子の合成
14	まとめ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】事前に授業プリントに出てくるキーワードについて調べ、A5用紙1枚にまとめておく。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った事柄を新聞や出所が確かなもので調べ、まとめておく。(各授業で60分)

評価方法および評価の基準

試験により70点、平常点(授業への参加度・提出物)30点の配分で評価する。

到達目標(1) 試験(20/70) 平常点(15/30)

到達目標(2) 試験(50/70) 平常点(15/30)

総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生物の多様性と倫理		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	KKa119		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「生物多様性」をキーワードに、具体的な事例を取り上げながら、多様性と倫理について考えていく。教職課程の必修科目ではない。

科目の概要

前半は、生物多様性を中心にした環境問題の現状や国際社会の動向、個別事例を通して、生物多様性の現状を学ぶ。

後半は、前半から抽出できる倫理を紹介するとともに、生物多様性をめぐる法の考え方を取り上げ、保全すべき生物多様性とは何かを学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

教科書を使用した講義と、生物や自然、環境問題に関する画像や映像を提示した講義から成る。また、具体的な課題を提起して質疑応答を織り交ぜ、学びを深めていく。

到達目標

- ・「生物多様性」の基礎知識を習得することができる。
- ・「生物多様性の保全」に向けた倫理の在り方を理解できる。
- ・「生物多様性保全」に向けた社会の在り方を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

1 「多様性と倫理」を考える

2 「生物多様性」とは何か

3 日本社会の現状とグローバリゼーション〔共通授業テーマ〕

グローバリゼーションについての基礎的な知識を身につけ理解を促す

ワークシートを活用して授業を展開

- 4 企業と環境
- 5 企業と生物多様性
- 6 企業と環境 各企業の取り組みと課題
- 7 企業と生物多様性 各企業の取り組みと課題
- 8 持続可能な社会のための課題と取り組み〔共通授業テーマ〕
SDGs（持続可能な開発目標）についての基礎的な知識を身につけ理解を促す
ワークシートを活用して授業を展開
- 9 海の生物多様性と倫理、社会 東京湾三番瀬の自然と開発
- 10 海の生物多様性と倫理、社会 自然再生と市民参加の課題
- 11 人と生物多様性 生命倫理、環境倫理を考える
- 12 人と生物多様性 人にとって保全すべき生物多様性とは
- 13 法と生物多様性 人権と「自然の権利」、「動物の権利」
- 14 法と生物多様性 環境法の進展と課題
- 15 まとめ 生物多様性の保全とは何か

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に告げられる次回授業のテーマについて、インターネット等により情報を収集し、論点を確認する（各回60分）。

【事後学修】今回授業で学んだことを確認し、当該テーマの論点を再確認し、自らの見解をまとめる（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】安達宏之『生物多様性と倫理、社会』（法律情報出版、2020年3月刊行、定価1,500円（税抜））

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

地球環境が危機的な状況の中、「生物多様性」が国際社会のキーワードのひとつになっています。その現状と課題を学ぶとともに、「生命とは何か」「人と他の動物は異なるのか」「保全すべき生物多様性とは何か」など、私たちが生きていくうえで大切な疑問も丁寧に考えていきたいと思えます。

科目名	生物の多様性と倫理		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	KKa119		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「生物多様性」をキーワードに、具体的な事例を取り上げながら、多様性と倫理について考えていく。教職課程の必修科目ではない。

科目の概要

前半は、生物多様性を中心にした環境問題の現状や国際社会の動向、個別事例を通して、生物多様性の現状を学ぶ。

後半は、前半から抽出できる倫理を紹介するとともに、生物多様性をめぐる法の考え方を取り上げ、保全すべき生物多様性とは何かを学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

教科書を使用した講義と、生物や自然、環境問題に関する画像や映像を提示した講義から成る。また、具体的な課題を提起して質疑応答を織り交ぜ、学びを深めていく。

到達目標

- ・「生物多様性」の基礎知識を習得することができる。
- ・「生物多様性の保全」に向けた倫理の在り方を理解できる。
- ・「生物多様性保全」に向けた社会の在り方を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 グローバルマインド、
- 2 未来を創造する力

内容

1 「多様性と倫理」を考える

2 「生物多様性」とは何か

3 日本社会の現状とグローバリゼーション〔共通授業テーマ〕

グローバリゼーションについての基礎的な知識を身につけ理解を促す

ワークシートを活用して授業を展開

- 4 企業と環境
- 5 企業と生物多様性
- 6 企業と環境 各企業の取り組みと課題
- 7 企業と生物多様性 各企業の取り組みと課題
- 8 持続可能な社会のための課題と取り組み〔共通授業テーマ〕
SDGs（持続可能な開発目標）についての基礎的な知識を身につけ理解を促す
ワークシートを活用して授業を展開
- 9 海の生物多様性と倫理、社会 東京湾三番瀬の自然と開発
- 10 海の生物多様性と倫理、社会 自然再生と市民参加の課題
- 11 人と生物多様性 生命倫理、環境倫理を考える
- 12 人と生物多様性 人にとって保全すべき生物多様性とは
- 13 法と生物多様性 人権と「自然の権利」、「動物の権利」
- 14 法と生物多様性 環境法の進展と課題
- 15 まとめ 生物多様性の保全とは何か

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に告げられる次回授業のテーマについて、インターネット等により情報を収集し、論点を確認する（各回60分）。

【事後学修】今回授業で学んだことを確認し、当該テーマの論点を再確認し、自らの見解をまとめる（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】安達宏之『生物多様性と倫理、社会』（法律情報出版、2020年3月刊行、定価1,500円（税抜））

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

地球環境が危機的な状況の中、「生物多様性」が国際社会のキーワードのひとつになっています。その現状と課題を学ぶとともに、「生命とは何か」「人と他の動物は異なるのか」「保全すべき生物多様性とは何か」など、私たちが生きていくうえで大切な疑問も丁寧に考えていきたいと思います。

科目名	地球のしくみと災害		
担当教員名	澤野 次郎		
ナンバリング	KKa120		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「人間と自然を学ぶ」群科目として、地球のしくみがもたらす地殻変動（地震）、気候変動が社会にもたらす影響のうち、生活と関係の深い自然災害について考える。

科目の概要

東日本大震災（2011）以後、日本では地震が多発している。さらに地球温暖化の影響もあり、大型台風、集中豪雨等の気象災害も増加している。こうした連続災害の状況のもとで、どう安全を確保するかは各人の人生にとって重要なテーマである。

本講義では、皆さんが住宅を選択する時に必要となる地域の災害リスクを知る方策を、東京都内の住宅をモデルに、過去の災害事例、今後の災害予測をふまえて理解することで、将来の住宅の選択の際に役立つ内容である。

授業の方法（ALを含む）

動画で身近な事例等を紹介して関心を高め、毎回リアクションペーパーを配布し、書かれている内容をもとに不足する点を補うことで、受講生の理解を深めていく。

到達目標

現在、住んでいる地域の現況、将来の住む地域の選定において、該当地域で想定される災害と災害リスクの情報を知る方策の習得である。到達目標の具体的な理解、説明は次のとおりである。

- 1、住む地域で想定される災害について理解して、家族、地域の人に説明できる。
- 2、住む場所を選択する際に、災害リスクを理解し、具体的な資料にもとづいて説明できる。

十文字学 - 3 自然と人間の関わり

視野を地球規模に広げ、人間生活と自然環境・エネルギー問題・災害と防災について考え、自分の生活を振り返ることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

人間生活学部学位授与方針「十文字学」3に該当する。

内容

この授業は、パワーポイントと映像を使用しての講義が中心となります。授業の基本方針は、第1は、最新のニュースと最先端の研究成果をわかりやすく説明する。第2は、受講生の疑問、質問にしっかりと答え、受講生の理解を深める。第3は、受講生の人生にとって有益な内容とするである。

1	ガイダンス：講師紹介、授業内容、成績評価
2	ガイダンス：中間レポート、期末課題文の求められるレベルの説明
3	東京都内での住宅のモデル提示と選択

4	住む場所の水害リスクを知る方法
5	住む場所の地震リスクを知る方法
6	住む場所の高潮リスク、地盤リスク等を知る方法
7	住む場所の活断層を知る方法
8	住む場所の土砂災害リスクを知る方法
9	富士山の噴火の可能性、帰宅困難問題
10	建物の耐震性の確かめ方
11	阪神・淡路大震災と耐震と家具固定
12	関東大震災と広域火災
13	東日本大震災と原発事故
14	災害の被害からの回復とボランティア
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】1時間程度、自分の住んでいる地域、住む希望の地域の災害リスクを予習しておく。

【事後学修】1時間程度、自分の住んでいる地域、住む希望の地域の災害リスクを確認する。

評価方法および評価の基準

中間レポート30点、期末の課題文40点、授業への参加度30点と配分し、総合評価60点以上を合格とする。

評価基準は、到達目標を授業内容をふまえて理解し、ちゃんと説明できているかとする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント配布

【推薦書】講義の中で紹介する

【参考図書】講義の中で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	原子のエネルギーとわたしたち		
担当教員名	秋庭 悦子		
ナンバリング	KKa121		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育課程の共通科目

十文字学の「人間と自然を学ぶ」の領域の選択科目

科目の概要

原子のエネルギーの利用と私たちの暮らしや社会の関わりを捉える。福島第一原子力発電所事故後のエネルギー利用の現状と様々な課題を踏まえて、将来のエネルギーについて考える。また、放射線の基礎知識を学び、医療や農業など暮らしに身近な放射線利用について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とする。毎回感想や質問を記載したリアクションペーパーを提出していただき、コミュニケーションツールとする。課題によっては、グループディスカッションを取り入れる。また、放射線の基礎知識については、実験やグループワークを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【実験】

到達目標

1. 暮らしとエネルギーのかかわりを理解する。
2. 多角的な視点でエネルギーを考えることができる。
3. 放射線の基本知識を身につけ、科学的に判断できるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、ディプロマ・ポリシーに以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3自然と人間の関わり

内容

講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、実験を取り入れながら、学びを深めていく。

1	はじめに
2	私たちの暮らしとエネルギーの関わり
3	日本のエネルギー事情

4	世界のエネルギー事情
5	地球温暖化問題とエネルギー
6	再生可能エネルギーのメリットと課題
7	放射線の基礎知識
8	放射線の利用について
9	原子力発電の仕組みとリサイクル
10	原子力発電の廃棄物
11	これからのエネルギー・原子力政策
12	原子力産業と人材
13	福島第一原子力発電所の事故について
14	原子力発電所から出る金属のリサイクル
15	ワークショップこれからの暮らしとエネルギーについて(まとめ)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマについて、新聞やインターネットなどで事前に情報収集しておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に配布された資料や紹介されたホームページ、参考図書などで内容を理解し、深められるようにノートに整理し、まとめておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

各回のテーマごとに提出されたリアクションペーパーで課題への取り組み（30%）、また最終レポート（70%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．暮らしとエネルギーの関わりを理解する。課題提出（10%/30%、期末レポート（30%/70%）

到達目標2．多角的な視点でエネルギーを考えることができる。（10%/30%）期末レポート（15%/70%）

到達目標3．放射線について科学的に判断できるようにする。（10%/30%）期末レポート（25%/70%）

【フィードバック】授業の最初に前回の課題や質疑に解説し、到達目標について理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、毎回パワーポイント資料を配布する。

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の後半は、様々なゲストティーチャーを招いて講義や実験の指導をしていただく。

科目名	原子のエネルギーとわたしたち		
担当教員名	秋庭 悦子		
ナンバリング	KKa121		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教育課程の共通科目

十文字学の「人間と自然を学ぶ」の領域の選択科目

科目の概要

原子のエネルギーの利用と私たちの暮らしや社会の関わりを捉える。福島第一原子力発電所事故後のエネルギー利用の現状と様々な課題を踏まえて、将来のエネルギーについて考える。また、放射線の基礎知識を学び、医療や農業など暮らしに身近な放射線利用について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とする。毎回感想や質問を記載したリアクションペーパーを提出していただき、コミュニケーションツールとする。課題によっては、グループディスカッションを取り入れる。また、放射線の基礎知識については、実験やグループワークを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【実験】

到達目標

1. 暮らしとエネルギーのかかわりを理解する。
2. 多角的な視点でエネルギーを考えることができる。
3. 放射線の基本知識を身につけ、科学的に判断できるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、ディプロマ・ポリシーに以下の資質・能力を育成することを目的とする

- 3自然と人間の関わり

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッション、実験を取り入れながら、学びを深めていく。

1	はじめに
2	私たちの暮らしとエネルギーの関わり
3	日本のエネルギー事情
4	世界のエネルギー事情

5	地球温暖化問題とエネルギー
6	再生可能エネルギーのメリットと課題
7	放射線の基礎知識
8	放射線の利用について
9	原子力発電の仕組みとリサイクル
10	原子力発電の廃棄物
11	これからのエネルギー・原子力政策
12	原子力産業と人材
13	福島第一原子力発電所の事故について
14	原子力発電所から出る金属のリサイクル
15	ワークショップ これからの暮らしとエネルギーについて（まとめ）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回のテーマについて、新聞やインターネットなどで事前に情報収集しておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介されたホームページや参考図書などで内容を理解し、深められるようにノートに整理してまとめておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

各回ごとに提出されたリアクションペーパーで課題に取り組み（30%）、また最終レポート提出（70%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．暮らしとエネルギーのかかわりを理解する。

課題提出（10%/30%）期末レポート（30%/70%）

到達目標 2．多角的な視点でエネルギーを考えることができる。

課題提出（10%/30%）期末レポート（30%/70%）

到達目標 3．放射線について、科学的に判断できるようにする。

課題提出（10%/30%）期末レポート（30%/70%）

【フィードバック】授業の最初に前回授業の課題や質疑に解説し、到達目標について理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、毎回パワーポイント資料を配布する。

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の後半は、様々なゲストティーチャーを招いて講義や実験の指導をしていただく。

科目名	健康と運動		
担当教員名	金子 和正		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 共通科目の選択科目であり女性を生きる領域として、他の科目との連携から自身の心と身体について理解を深めていく。

科目の概要 大学生として修得しておくべき、人の体と心の働きについて理解する。

授業の方法 (ALを含む) 講義が中心であるが、視覚教材を十分に用いて具体的に身体の働き、心の働きを学ぶ。

到達目標 自身の身体がどのように成長し、加齢に伴って変化していくのかを様々な数値と比較しながら修得する。1. 人の身体の変化、2. 運動の効果、3. 疾病とその原因について理解をできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -9実践する力、 -3自然と人との関わり

内容

身近におこる様々な健康に関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワークなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、学生時代の考え方、生き方がその後の生活に大きく影響することを学ぶ。たそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。(注:遅刻は厳禁。15分以上遅れた場合は欠席とする。)

1	健康な体作りの実践をしていくための基本となる身体の正しい知識を理解する
2	身体について形態と機能について理解する
3	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを学ぶ
4	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する
5	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのかを理解する
6	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する
7	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する
8	心臓の働きと心筋について理解し、心拍数が体の指標となることを学ぶ
9	呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する
10	人間の側性について、スポーツゲームの特徴や関連性から理解する
11	身体の数値の測定から何が分かってくるのか、実際に測定し学んでいく
12	運動刺激による人間の身体の変化について理解する
13	加齢による形態的变化と機能的変化について理解する
14	加齢による怪我や病気はなぜ生じるのかを理解する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを読んで45分以上の予習を行う。興味のある事柄について積極的に下調べをする。

【事後学修】リアクションペーパーを見て、45分以上の確認を行う。

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

到達目標 2 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

到達目標 3 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、次週以降の授業時間内に返却し、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

毎授業時に資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の身体について積極的に知識の修得や運動による変化を楽しむことは重要である。

科目名	健康と運動		
担当教員名	飯田 路佳、布施 晴美		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

人間生活学部の学位授与方針 1, 3 に該当する。

科目の性格

十文字学の中にある体育科目です。自分の身体を鍛え、身体的体力、精神的体力を高めることで、4年間の学園生活を充実させる素地を整えます。施設の制限や授業内容の制約もあるので、履修人数を30名に制限します。

科目の概要

サブアリーナのトレーニングエリアで、授業前半はトレーニング方法に関する講義、授業後半は実際のトレーニングを行います。15回の授業を通じた身体の変化を計測し、身体と気持ちの変容を体感します。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・健康を高め、維持するためのトレーニング理論を理解する
- ・トレーニングの実践を通じて、自分に合ったトレーニングを継続できるようになる
- ・新座市民ロードレース大会に参加し、一般女子の部で10.55kmを完走する

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

予定講義内容

- ・カロリー計算とウェイトコントロール
- ・マシントレーニングとフリーウェイト
- ・筋肉の発達
- ・トレーニングと栄養
- ・有酸素運動と無酸素運動

予定実技内容

- ・トレーニングマシンの使用方法
- ・トレッドミルの安全な利用

- ・自重トレーニング1：上半身の種目
- ・自重トレーニング2：下半身の種目
- ・自重トレーニング3：背中・肩の種目
- ・速歩から，心地よいペースでの長いジョギング

5回目以降は学外に出てジョギングをします。

心拍計を使いつつ，距離を少しずつ伸ばします。

講義と実技とを組み合わせ、授業を展開します。

毎年1月に開催される新座市民ロードレースに参加し，10.55kmの完走を目指します（参加費は負担して下さい）。

「単位を取るためだけ」に履修する人には負荷が高いかもしれません。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日々の身体状態を記録し，必要に応じてトレーニングを積む（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業での内容を実践・継続し，その効果を吟味する（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

平常点50%、毎回の提出エッセイを50%とし、総合評価60点以上を合格とする。新座市ロードレースへの参加は必須とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】アレックス・ハッチンソン(2012) 良いトレーニング、無駄なトレーニング 科学が教える新常識・草思社。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康と運動		
担当教員名	飯田 路佳、布施 晴美		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児科看護師および看護教員の経験の元、乳児期から思春期の子どもの心と身体の発達に関わってきた。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：十文字学の講義科目である。こころとからだを通じ、「女性の心と身体とは何か」について、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：「世の中にたちてかひある人と生きなむ」と謳われているように、世の中に出て社会的な役割を十分に果たすためには、各自の心身へのたえまない洞察と働きかけが必要となる。本授業では、生物学的な視点と運動学的な視点をベースとして、その洞察と働きかけに関する知見を提供する。

授業を通して女性の生き方としての教養を深め、しなやかに日々を過ごすための素地を整える。

授業の方法 (ALを含む)

2週または3週に1回グループ編成し、グループワークを行う。授業の終了時にはリアクションペーパーを記入し、翌週にその中の質問や意見を取り上げ振り返る形式をとる。

到達目標：生涯を女性として心豊かに過ごせるように、「女性」「こころ」「からだ」「運動」等をキーワードとして総合的に理解を深める。

1. 「自分を知る」ことで、自分への気づきを深める。
2. 「自ら考える」ことの必要性を理解し、自分なりの魅力的な女性とは何か、自分らしさを探るヒントとする。
3. 「情報を得る」ことの重要性を知り、教養への興味を深める。
4. 「実践に移す」ことで、自分の変化が顕われることを知る。
5. 「他人の考え」を知ることで、世の中には様々な考え方があり、その中での自分の軸を探る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-9 実践する力 -3 自然と人間のかかわり

内容

身近におこる様々な女性のからだとこころに関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワーク、ディスカッションなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、この年代での女性の生き方が、いかに将来の生活に大きく影響するか、その重要性を理解する。またそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。

1	オリエンテーション (健康とは) 飯田 布施
2	男の子・女の子の分かれ道 布施

3	女性と男性の会話	内田
4	こころの健康（私達が健康を感じていくために）	飯田
5	からだの各部位とデータ	飯田
6	測定値の検証	飯田
7	エネルギー所要量と運動の仕組み	飯田
8	運動と栄養の考え方	飯田
9	女性のからだ（1） 女性ホルモンと月経	布施
10	女性のからだ（2） 妊娠 人口妊娠中絶...	布施
11	いのち・子育て・人生設計のヒント	布施
12	依存とその考え方（薬物、スマホ、その他）	飯田
13	これまでとこれから（人生設計の実践）	飯田
14	危機管理	飯田
15	まとめ	布施 飯田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

平常点（学習態度および毎回のリアクションペーパー）40%、テーマ課題提出20%、最終レポート40%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

評価方法および評価の基準

平常点(学習態度および毎回のリアクションペーパー提出)50%、課題提出（3回）20%、最終レポート提出30%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標1. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標2. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標3. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標4. 平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標5. 平常点10%/50%、課題提出0%/20%、最終レポート提出10%/30%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回授業終了時にその日のまとめを必ず提出する。

科目名	健康と運動		
担当教員名	金子 和正		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 共通科目の選択科目であり女性を生きる領域として、他の科目との連携から自身の心と身体について理解を深めていく。

科目の概要 大学生として修得しておくべき、人の体と心の働きについて理解する。

授業の方法 (ALを含む) 講義が中心であるが、視覚教材を十分に用いて具体的に身体の働き、心の働きを学ぶ。

到達目標 自身の身体がどのように成長し、加齢に伴って変化していくのかを様々な数値と比較しながら修得する。1. 人の身体の変化、2. 運動の効果、3. 疾病とその原因について理解をできる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -9実践する力 -3自然と人間の関わり

内容

身近におこる様々な健康に関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワークなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、女性の生き方が、いかに将来の生活に大きく影響するか、その役割と健康な家庭生活の重要性を理解する。またそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。(注:遅刻は厳禁。15分以上遅れた場合は欠席とする。)

1	健康な体作りの実践をしていくための基本となる身体の正しい知識を理解する
2	身体について形態と機能について理解する
3	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを学ぶ
4	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する
5	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのかを理解する
6	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する
7	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する
8	心臓の働きと心筋について理解し、心拍数が体の指標となることを学ぶ
9	呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する
10	人間の側性について、スポーツゲームの特徴や関連性から理解する
11	身体の数値の測定から何が分かってくるのか、実際に測定し学んでいく
12	運動刺激による人間の身体の変化について理解する
13	加齢による形態的变化と機能的変化について理解する

14	加齢による怪我や病気はなぜ生じるのかを理解する
15	健康的な生き方について、健康寿命やQOLの側面から理解する

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを読んで45分以上の予習を行う。興味のある事柄について積極的に下調べをする。

【事後学修】リアクションペーパーを見て、45分以上の授業の確認を行う。

評価方法および評価の基準

各授業回に指示する課題への取り組み（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

到達目標2 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

到達目標3 課題提出（10％ / 30％）、筆記試験（30％ / 70％）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、次週以降の授業時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

毎授業時に資料を配付する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

自身の身体について積極的に知識の修得や運動による変化を楽しむことは重要である。

科目名	健康と運動		
担当教員名	加藤 優		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：人間生活学部の共通科目「十文字学」のうち、「人間と自然を学ぶ」の領域の講義科目である。こころとからだを通して、「健康」とは何かについて、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：健康の現代的な意味を理解するとともに運動のメカニズムと運動することの必要性、その効用などについて、自分のからだの体組成を調べたり、自分の生活を振り返ったりしながら具体的な資料や体験に基づいた内容を取り入れて授業を進める。

授業の方法：資料と講義をもとに健康とからだの関係を総合的に理解し、毎回のリアクションペーパーを使って理解の定着を図る。

到達目標：生涯を健康でこころ豊かに過ごせるように、「健康」「運動」「こころとからだ」などをキーワードに、総合的に理解を深める。

(1) 学生自らが自分の生活を振り返りながら、「健康」の重要性を実践的に理解できる。

(2) 学生が自分自身のからだの仕組みと運動との関係を理解できる。

：ディプロマポリシーとの関係：この科目は以下の資質能力を育成することを目標とする。

－ 9 実践する力、 - 3 自然と人間の関わり

内容

- 第1回 人間らしさの本質
- 第2回 人間らしさと運動
- 第3回 基本的な健康生活
- 第4回 測定できる身体 (自分のからだを知る)
- 第5回 人生80年と健康
- 第6回 現代社会と運動と肥満
- 第7回 私たちのからだと運動 (運動のメカニズム)
- 第8回 私たちのからだと運動 (運動の種類と方法)
- 第9回 健康と運動の質
- 第10回 健康と運動の量
- 第11回 健康と運動と食事
- 第12回 健康と運動と精神的健康
- 第13回 現代社会が抱える健康問題 (こころとからだ)
- 第14回 現代社会が抱える健康問題 (大人と子ども)
- 第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める(60分)

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

毎回授業終了時の小レポート(15回×4点=60点)を課し、期末試験(40点)とともに以下の基準で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

到達目標(2)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

【フィードバック】小テストすべてに対してコメント入りで返却し、前回授業の質疑等については返答、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康と運動		
担当教員名	加藤 優		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：人間生活学部の共通科目「十文字学」のうち、「人間と自然を学ぶ」の領域の講義科目である。こころとからだを通して、「健康」とは何かについて、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：健康の現代的な意味を理解するとともに運動のメカニズムと運動することの必要性、その効用などについて、自分のからだの体組成を調べたり、自分の生活を振り返ったりしながら具体的な資料や体験に基づいた内容を取り入れて授業を進める。

授業の方法：資料と講義をもとに健康とからだの関係を総合的に理解し、毎回のリアクションペーパーを使って理解の定着を図る。

到達目標：生涯を健康でこころ豊かに過ごせるように、「健康」「運動」「こころとからだ」などをキーワードに、総合的に理解を深める。

(1) 学生自らが自分の生活を振り返りながら、「健康」の重要性を実践的に理解できる。

(2) 学生が自分自身のからだの仕組みと運動との関係を理解できる。

：ディプロマポリシーとの関係：この科目は以下の資質能力を育成することを目標とする。

－ 9 実践する力、 - 3 自然と人間の関わり

内容

- 第1回 人間らしさの本質
- 第2回 人間らしさと運動
- 第3回 基本的な健康生活
- 第4回 測定できる身体 (自分のからだを知る)
- 第5回 人生80年と健康
- 第6回 現代社会と運動と肥満
- 第7回 私たちのからだと運動 (運動のメカニズム)
- 第8回 私たちのからだと運動 (運動の種類と方法)
- 第9回 健康と運動の質
- 第10回 健康と運動の量
- 第11回 健康と運動と食事
- 第12回 健康と運動と精神的健康
- 第13回 現代社会が抱える健康問題 (こころとからだ)
- 第14回 現代社会が抱える健康問題 (大人と子ども)
- 第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める(60分)

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる。(60分)

評価方法および評価の基準

毎回授業終了時の小レポート(15回×4点=60点)を課し、期末試験(40点)とともに以下の基準で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

到達目標(2)小レポート(30/60)、期末テスト(20/40)

【フィードバック】小テストすべてに対してコメント入りで返却し、前回授業の質疑等については返答、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	健康と運動		
担当教員名	飯田 路佳、布施 晴美		
ナンバリング	KKa122		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 人間と自然を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

小児科看護師および看護教員の経験の元、乳児期から思春期の子ども達の心と身体の発達に関わってきた。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：十文字学の講義科目である。こころとからだを通じ、「女性の心と身体とは何か」について、実感を持って、感じ、考える授業である。

科目の概要：「世の中にたちかひある人と生きなむ」と謳われているように、世の中に出て社会的な役割を十分に果たすためには、各自の心身へのたえまない洞察と働きかけが必要となる。本授業では、生物学的な視点と運動学的な視点をベースとして、その洞察と働きかけに関する知見を提供する。

授業を通して女性の生き方としての教養を深め、しなやかに日々を過ごすための素地を整える。

授業の方法 (ALを含む)

2週または3週に1回グループ編成し、グループワークを行う。授業の終了時にはリアクションペーパーを記入し、翌週にその中の質問や意見を取り上げ振り返る形式をとる。

到達目標：生涯を女性として心豊かに過ごせるように、「女性」「こころ」「からだ」「運動」等をキーワードとして総合的に理解を深める。

1. 「自分を知る」ことで、自分への気づきを深める。
2. 「自ら考える」ことの必要性を理解し、自分なりの魅力的な女性とは何か、自分らしさを探るヒントとする。
3. 「情報を得る」ことの重要性を知り、教養への興味を深める。
4. 「実践に移す」ことで、自分の変化が顕われることを知る。
5. 「他人の考え」を知ることで、世の中には様々な考え方があり、その中での自分の軸を探る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-9 実践する力 -3 自然と人間のかかわり

内容

身近におこる様々な女性のからだとこころに関する問題を取り上げ、生涯を“生き生きと輝く心とからだ”で生き抜くためにはどうしたらよいか、グループワーク、ディスカッションなどを通じてともに考え、論じ合う。特に、この年代での女性の生き方が、いかに将来の生活に大きく影響するか、その重要性を理解する。またそのために、「自分を知る」ことを授業の根底に流れる目標として、女性である自分に対する理解をより深め、行動し実践して行くことをめざす。

1	オリエンテーション (健康とは) 飯田 布施
2	男の子・女の子の分かれ道 布施

3	女性と男性の会話	内田
4	こころの健康（私達が健康を感じていくために）	飯田
5	からだの各部位とデータ	飯田
6	測定値の検証	飯田
7	エネルギー所要量と運動の仕組み	飯田
8	運動と栄養の考え方	飯田
9	女性のからだ（1） 女性ホルモンと月経	布施
10	女性のからだ（2） 妊娠 人口妊娠中絶...	布施
11	いのち・子育て・人生設計のヒント	布施
12	依存とその考え方（薬物、スマホ、その他）	飯田
13	これまでとこれから（人生設計の実践）	飯田
14	危機管理	飯田
15	まとめ	布施 飯田

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

平常点（学習態度および毎回のリアクションペーパー）40%、テーマ課題提出20%、最終レポート40%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

評価方法および評価の基準

平常点(学習態度および毎回のリアクションペーパー提出)50%、課題提出（3回）20%、最終レポート提出30%とし、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標1.平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標2.平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標3.平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標4.平常点10%/50%、課題提出5%/20%、最終レポート提出5%/30%

到達目標5.平常点10%/50%、課題提出0%/20%、最終レポート提出10%/30%

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

基本的にはプリントを配布し、参考資料は授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回授業終了時にその日のまとめを必ず提出する。

科目名	地域で学ぶ		
担当教員名			
ナンバリング	KKa102		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域で学ぶ		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

各学科の学位授与方針の1に該当する。人間生活学部の共通科目である。地域連携科目として位置づけられる。

科目の概要

新座市の特徴について、「少子化、高齢化対策」「観光都市としてのあり方」などの地域課題から学び、自らなにかができるのかを模索して行くための授業である。実際に、地域で活躍している方たちの講義を聞いて、課題解決のための糸口を探る。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

新座における地域課題の現状について理解する。地域における社会活動を始めるための動機を明確化する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

講義を中心として、グループワークやディスカッションを取り入れて進める。

1	ガイダンス
2	ゲスト講師による講義 新座市のなりたちと現状
3	ゲスト講師による講義 新座市の商工業
4	ゲスト講師による講義 新座の町内会活動
5	グループワーク まちづくりと人材育成
6	ゲスト講師による講義 新座市の農業と農産物
7	ゲスト講師による講義 新座市の観光
8	ゲスト講師による講義 子育て支援とプレーパーク
9	ゲスト講師による講義 伝統芸能
10	グループワーク 特産品によるまちおこし
11	ゲスト講師による講義 新座のホタル
12	ゲスト講師による講義 朝霞芸術の森の地域貢献

13	ゲスト講師による講義 議会・議員の役割
14	グループワーク シティプロモーションを考える
15	まとめ（発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新座市のホームページをみて興味を持ったところについて、まとめておく

【事後学修】新座市における社会活動への参加（必須）

評価方法および評価の基準

授業への取り組みと毎時間ごとの課題を30%、地域活動への参加と参加レポートを70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	埼玉の地理・歴史・文化		
担当教員名	星野 敦子、狩野 浩二		
ナンバリング	KKa111		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の共通科目である。

科目の概要

「少子・高齢化」「医療費削減につながる健康な体作り」「地方創生」「商店会の活性化」「文化の創出」など、さまざまな地域課題について学び、自らなにごできるのかを模索して行くための授業である。実際に、地域で活躍している方たちの講義を聞いて、課題解決のための糸口を探るとともに、自らの生き方の指針を得る。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示するか、または直接配布する。実際に地域活動に参加して、その経験の振り返りをグループワークで行う【グループワーク】【レポート】

学修目標（＝到達目標）

地域課題の現状について理解することができる。地域において社会活動に参加することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 2 地域と社会の理解・参画

内容

【留意点】

平成22(2010)年度以前に入学した学生は、「経営経済学基礎」として受講することが出来ます。

平成23(2011)年度～平成26(2014)年度までに入学した学生は、十文字学(共通教育)「新座から学ぶ」として履修登録します。

1	ガイダンス
2	ゲスト講師による講義 新座市のなりたちと現状

3	ゲスト講師による講義 新座市の商工業
4	ゲスト講師による講義 新座の町内会活動
5	グループワーク まちづくりと人材育成
6	ゲスト講師による講義 新座市の農業と農産物
7	ゲスト講師による講義 新座市の観光
8	ゲスト講師による講義 子育て支援とプレーパーク
9	ゲスト講師による講義 伝統芸能
10	グループワーク 特産品によるまちおこし
11	ゲスト講師による講義 新座のホタル
12	ゲスト講師による講義 朝霞芸術の森の地域貢献
13	ゲスト講師による講義 議会・議員の役割
14	グループワーク シティプロモーションを考える
15	まとめ（発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新座市のホームページをみて興味を持ったところについて、まとめておく（1時間以上）

【事後学修】新座市をはじめとする近隣地域における社会活動への参加（4時間以上）

評価方法および評価の基準

「地域課題の現状について理解することができる。」

授業への取り組みと毎時間ごとの課題を30%

「地域において社会活動に参加することができる」

地域活動への参加と参加レポートを70%

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	埼玉の地理・歴史・文化		
担当教員名	星野 敦子、狩野 浩二		
ナンバリング	KKa111		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の共通科目である。

科目の概要

「少子・高齢化」「医療費削減につながる健康な体作り」「地方創生」「商店会の活性化」「文化の創出」など、さまざまな地域課題について学び、自らなにごできるのかを模索して行くための授業である。実際に、地域で活躍している方たちの講義を聞いて、課題解決のための糸口を探るとともに、自らの生き方の指針を得る。

授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示するか、または直接配布する。実際に地域活動に参加して、その経験の振り返りをグループワークで行う【グループワーク】【レポート】

学修目標（＝到達目標）

地域課題の現状について理解することができる。地域において社会活動に参加することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 2 地域と社会の理解・参画

内容

【留意点】

平成22(2010)年度以前に入学した学生は、「経営経済学基礎」として受講することが出来ます。

平成23(2011)年度～平成26(2014)年度までに入学した学生は、十文字学(共通教育)「新座から学ぶ」

として履修登録します。

1	ガイダンス
2	ゲスト講師による講義 新座市のなりたちと現状

3	ゲスト講師による講義 新座市の商工業
4	ゲスト講師による講義 新座の町内会活動
5	グループワーク まちづくりと人材育成
6	ゲスト講師による講義 新座市の農業と農産物
7	ゲスト講師による講義 新座市の観光
8	ゲスト講師による講義 子育て支援とプレーパーク
9	ゲスト講師による講義 伝統芸能
10	グループワーク 特産品によるまちおこし
11	ゲスト講師による講義 新座のホタル
12	ゲスト講師による講義 朝霞芸術の森の地域貢献
13	ゲスト講師による講義 議会・議員の役割
14	グループワーク シティプロモーションを考える
15	まとめ（発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新座市のホームページをみて興味を持ったところについて、まとめておく（1時間以上）

【事後学修】新座市をはじめとする近隣地域における社会活動への参加（4時間以上）

評価方法および評価の基準

「地域課題の現状について理解することができる。」

授業への取り組みと毎時間ごとの課題を30%

「地域において社会活動に参加することができる」

地域活動への参加と参加レポートを70%

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会と教育		
担当教員名	羽田 邦弘		
ナンバリング	KKa112		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

あり。

実務経験および科目との関連性

学校現場における教員経験及び地方自治体における教育行政経験のある者がそれらの経験を活かし、現代社会における教育の方向性について諸外国の動向や地域との協働などの視点から指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目・十文字学の「地域と社会を学ぶ」領域にある科目である。

科目の概要

変化の激しい現代社会の中で我が国の教育が目指すべき方向について、これまでの教育改革の取組、世界的なPISAやSDGsの動向などに触れながら、グローバルかつローカルな視点で考察する。

授業の方法（ALを含む）

講義を主とする。討論や省察（振り返り）を活用し、協働による考察、他者理解、表現力等を把握し、授業展開に反映させる。討論への積極的な取組や振り返りシートへの記入など、積極的な学習態度が求められる。

到達目標

1) グローバリゼーションのなかで日本の教育を理解し、解決すべき課題と自分が参画していくことの意味をとらえることができる。

2) 現代社会における事象について、自分で問いを立て、他者と協働して考察できる。

3) 異質な他者を認め、互いを知り、学びを深める。

4) 読み解く力や書き表す力、資料を活用する力、創造する力、論理的に表現する力を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-2, 「地域と社会の理解・参画」と深く関わる科目です。知識を活用する力 -1から5までの「読解力、文章表現力、資料活用力、想像力、論理的表現力」とも関連する科目です。

内容

個人・ペア・グループで考え、意見交換しながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス 現代社会における教育の課題について
2	OECD生徒の学習到達度調査（PISA）と「ゆとり教育」
3	社会のグローバル化と国際理解教育の変遷
4	グローバル時代の国際理解教育
5	世界が抱える教育課題
6	持続可能な開発目標（SDGs）と学校教育
7	SDGs 達成に向けた学校と地域との連携・協働

8	持続可能な社会づくりの視点から考える授業実践
9	日本型学校教育の強みと海外への展開
10	教育を柱にした地域魅力化と人材育成の可能性
11	21世紀型能力育成と世界の教育改革の潮流
12	資質・能力の育成と学習指導要領
13	現代社会に求められる外国語教育
14	ニューノーマル時代の学校教育について考える
15	全体まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前回の授業で提示された「問い」について調べ、考察する。毎回の授業前に45分以上の取り組みが必要である。

【事後学修】毎回の授業後に振り返りシートを完成して提出する。毎回の授業後に、45分以上の取り組みが必要である。

評価方法および評価の基準

毎回の振り返りシート（30点：主体的能動的取組、協働的学びの確認）、課題及び確認テスト（40点：基礎概念理解の確認）、レポート（30点：社会への理解、協働的考察力、他者理解力、表現力等の確認）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業の取組状況や振り返りシートの内容について随時フィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。毎回、授業プリントを配信する。

【推薦書】授業時に随時提示する。

【参考図書】中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）及び次期中学校学習指導要領（案）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会と福祉		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KKa113		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2～4年前期と後期に開講される、共通科目「十文字学 - 地域と社会を学ぶ」の選択科目。1年生の「共生社会入門」と同時開講。

科目の概要

「共生」という概念がどのように作られ、広がってきたかを、自然環境との共生、多文化共生、障害者・健常者の共生、地域共生社会をキーワードに、主体的に学んでいく授業である。

授業の方法 (ALを含む)

講義や発表の回では【リアクションペーパー】を利用する。授業の後半では、【レポート(表現)】(論述型レポート)を作成し、【プレゼンテーション】を行う。

到達目標

1. 「共生」の概念について説明できる。
2. 論述型レポートの作成方法を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2地域と社会の理解・参画

内容

授業の前半5回は「共生」に関する概論的な講義などを行う。中間8回は、各自が関心を持った「共生」のトピックについて、論述型のレポートをPowerPointで作成し、発表する。なお、発表方法は履修者数に応じて、調整する。最後の2回は「社会に生きる」の共通授業内容である。

1	「共生」概念とその広がり
2	自然環境との共生
3	多文化共生
4	障害者・健常者の共生

5	地域共生社会
6	共生社会の実像を探る
7	共生社会の課題を探る
8	共生社会の未来を描く
9	中間まとめ
10	自然環境との共生(実像・課題・未来)
11	多文化共生(実像・課題・未来)
12	障害者・健常者の共生(実像・課題・未来)
13	地域共生社会(実像・課題・未来)
14	日本社会の現状とグローバリゼーション(「社会に生きる」共通授業内容)
15	持続可能な社会のための課題と取り組み(「社会に生きる」共通授業内容)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前半5回と最後の2回は、次回テーマについて事前学習をする。中間8回は、論述型レポート作成のための課題を課す。(60分)

【事後学修】前半5回と最後の2回は、各回の授業テーマに関する宿題を課す。中間8回は、授業での課題を完成させる。(60分)

評価方法および評価の基準

「共生」のトピックについて、各自がPowerPointで作成した論述型のレポートと、その発表で主に評価する。レポートとその発表が90%、平常点が10%とし、総合評価60点以上を合格とする。評価の比率は、到達目標の1.が3割、2.が7割とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を配付する。

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会と福祉		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KKa113		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2～4年前期と後期に開講される、共通科目「十文字学 - 地域と社会を学ぶ」の選択科目。1年生の「共生社会入門」と同時開講。

科目の概要

「共生」という概念がどのように作られ、広がってきたかを、自然環境との共生、多文化共生、障害者・健常者の共生、地域共生社会をキーワードに、主体的に学んでいく授業である。

授業の方法（ALを含む）

講義や発表の回では【リアクションペーパー】を利用する。授業の後半では、【レポート(表現)】(論述型レポート)を作成し、【プレゼンテーション】を行う。

到達目標

1. 「共生」の概念について説明できる。
2. 論述型レポートの作成方法を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2地域と社会の理解・参画

内容

授業の前半5回は「共生」に関する概論的な講義などを行う。中間8回は、各自が関心を持った「共生」のトピックについて、論述型のレポートをPowerPointで作成し、発表する。なお、発表方法は履修者数に応じて、調整する。最後の2回は「社会に生きる」の共通授業内容である。

1	「共生」概念とその広がり
2	自然環境との共生
3	多文化共生
4	障害者・健常者の共生

5	地域共生社会
6	共生社会の実像を探る
7	共生社会の課題を探る
8	共生社会の未来を描く
9	中間まとめ
10	自然環境との共生(実像・課題・未来)
11	多文化共生(実像・課題・未来)
12	障害者・健常者の共生(実像・課題・未来)
13	地域共生社会(実像・課題・未来)
14	日本社会の現状とグローバリゼーション(「社会に生きる」共通授業内容)
15	持続可能な社会のための課題と取り組み(「社会に生きる」共通授業内容)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前半5回と最後の2回は、次回テーマについて事前学習をする。中間8回は、論述型レポート作成のための課題を課す。(60分)

【事後学修】前半5回と最後の2回は、各回の授業テーマに関する宿題を課す。中間8回は、授業での課題を完成させる。(60分)

評価方法および評価の基準

「共生」のトピックについて、各自がPowerPointで作成した論述型のレポートと、その発表で主に評価する。レポートとその発表が90%、平常点が10%とし、総合評価60点以上を合格とする。評価の比率は、到達目標の1.が3割、2.が7割とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を配付する。

【参考図書】教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会とグローバル化		
担当教員名	新嶋 良恵、落合 真裕		
ナンバリング	KKa114		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

朝日新聞『GLOBE』勤務の経験からインタビュー校閲など実践的な指導ができる

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目 科目の性格

現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察し、共存することについて深く考えるための基礎的な知識を身につける。グローバルな動きに付随して噴出するローカルな帰属意識など、グローバル化が直面する問題を含めこれからの社会を考えていく力について考えていく講義となる。

科目の概要

グローバル化は私たちの生きる社会を端的に表す言葉である。政治、経済、ビジネス網はもちろん、国境を越えて広がるものには映画、音楽などの文化などがある。本講義ではグローバル化とはいったい何なのか、いかなる影響があるのか、そして、私たちはこのような現代社会の中でどのように生きいけば良いか、等について深く考え、探求していく。

授業の方法（ALを含む）

基本的には講義形式だが、映像をふまえた資料についてのまとめ、グループディスカッションの中で積極的な講義参加も求められる。

到達目標

- ・現代社会を多面的にとらえる視点を育むことができる。
- ・現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察ができる。
- ・共存することについて深く考えるために異なる価値観を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

1	講義概要の説明【担当：新嶋】
2	インターネットによってつながる世界【新嶋】
3	グローバル化する企業活動【新嶋】

4	ローカルなものとの衝突【新嶋】
5	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み1【落合】
6	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み2【落合】
7	差異の政治【新嶋】
8	文化のグローバリズム【新嶋】
9	東南アジア諸国連合と日本【新嶋】
10	欧州 超国家組織（EU）の成り立ち等【新嶋】
11	米国 二分化する社会【新嶋】
12	帰属の政治1【新嶋】
13	帰属の政治2【新嶋】
14	ヘイト・スピーチ問題【新嶋】
15	総括【新嶋】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等で確認し、自分なりに整理し、意見を考えてくること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（発言等による貢献等）<20%>、リアクションペーパー<30%>、期末試験<50%>。60点以上を合格とする。

到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト。

【推薦書】各教員より授業内で指示。

【参考図書】各教員より授業内で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	現代社会とグローバル化		
担当教員名	新嶋 良恵、落合 真裕		
ナンバリング	KKa114		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

朝日新聞『GLOBE』部校閲記者経験から、多言語による情報発信について話すことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目 科目の性格

現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察し、共存することについて深く考えるための基礎的な知識を身につける。グローバルな動きに付随して噴出するローカルな帰属意識など、グローバル化が直面する問題を含めこれからの社会を考えていく力について考えていく講義となる。

科目の概要

グローバル化は私たちの生きる社会を端的に表す言葉である。政治、経済、ビジネス網はもちろん、国境を越えて広がるものには映画、音楽などの文化などがある。本講義ではグローバル化とはいったい何なのか、いかなる影響があるのか、そして、私たちはこのような現代社会の中でどのように生きいけば良いか、等について深く考え、探求していく。

授業の方法（ALを含む）

基本的には講義形式だが、映像をふまえた資料についてのまとめ、グループディスカッションの中で積極的な講義参加も求められる。【討議・討論】

到達目標

- ・現代社会を多面的にとらえる視点を育むことができる。
- ・現代社会において、グローバル化がローカルに与える影響について考察ができる。
- ・共存することについて深く考えるために異なる価値観を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 グローバルマインド
- 4 未来を創造する力

内容

講義とディスカッションを通して、現代社会の様相をグローバルな視点から理解する。

1	講義概要の説明【担当：新嶋】
2	インターネットによってつながる世界【新嶋】
3	グローバル化する企業活動【新嶋】

4	ローカルなものとの衝突【新嶋】
5	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み1【落合】
6	共通内容 持続可能な社会のための課題と取り組み2【落合】
7	差異の政治【新嶋】
8	文化のグローバリズム【新嶋】
9	東南アジア諸国連合と日本【新嶋】
10	欧州 超国家組織（EU）の成り立ち等【新嶋】
11	米国 二分化する社会【新嶋】
12	帰属の政治1【新嶋】
13	帰属の政治2【新嶋】
14	ヘイト・スピーチ問題【新嶋】
15	総括【新嶋】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】翌週に扱うテーマについて、関連図書、インターネット等を確認し、自分なりに整理し、意見を考えてくること（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内容の復習やアサインメント等によって各自で内容理解に努めること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（発言等による貢献等）<20%>、リアクションペーパー<30%>、期末試験<50%>。60点以上を合格とする。

到達目標3点について、課題では文章から、試験では設問を通して到達度を評価する。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションペーパー等に基づき前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教員が提示するハンドアウト。

【推薦書】各教員より授業内で指示。

【参考図書】各教員より授業内で指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

オンラインニュースやマスメディア上のニュース報道に日々触れてください。

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KKa115		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解していくところにねらいがある。教職必修科目である。

科目の概要

本科目では、国際女性年及び国連女性の10年が掲げた「平等・発展・平和という理念から、またジェンダーに敏感な視点と定着という意欲・姿勢から、国内外で生起する人権問題や憲法政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により展開する。

到達目標

日本国憲法への問題意識をもって、有権者の一人として市民生活を営み、また参政権を行使する者として必要な、日本国憲法を起点にした認識力・考察力・判断力の基本視点を獲得するということを目標とする。

ディプロマポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「社会に生きる」領域のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 -3 グローバルマインド」、「 -4 未来を創造する力」に該当する。

内容

授業計画－授業は講義を基本とするが、毎回適宜、質疑応答を行う。

第1回：主権者教育としての憲法学習の意味

第2回：立憲的意味の憲法（立憲主義）とは何か

第3回：日本国憲法の三大原理 - 国民主権

第4回：日本国憲法の三大原理 - 基本的人権の尊重

第5回：日本国憲法の三大原理 - 平和主義

第6回：基本的人権の種類と内容 - 自由権

第7回：基本的人権の種類と内容 - 平等権

第8回：基本的人権の種類と内容 - 社会権

第9回：基本的人権の種類と内容 - 参政権

第10回；基本的人権の種類と内容 - 請求権

第11回：日本国憲法の構成と意味内容 - 前文、象徴天皇制、第9条と平和保障

第12回；日本国憲法の構成と意味内容 - 国民の権利・義務、三権分立の仕組み

第13回：日本国憲法の構成と意味内容 - 財政の意味と役割、地方自治

第14回：憲法改正手続、憲法の最高法規性 - 憲法改正問題への視点

第15回：全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標－小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版

【参考書】授業時、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	KKa115		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

教職課程の必修科目であり、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解する。

科目の概要

国内外で生起する人権問題や憲法を取り巻く政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法 (ALを含む)

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

到達目標

- ・日本国憲法の基本原理と概要を理解することができる。
- ・憲法状況について人権保障の観点から考える思考を学ぶことができる。
- ・主権者の一人として市民生活を営んでいくために、社会問題について自ら考える力を習得することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力、
- 5 論理的に表現する力、
- 2 地域と社会の理解・参画

内容

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

第 1 回 : 憲法とは何か

第 2 回 : 日本国憲法の制定過程

第 3 回 : 日本国憲法の基本原理

第 4 回 : 基本的人権の種類と内容 (1)

第 5 回 : 基本的人権の種類と内容 (2)

第 6 回 : 基本的人権の種類と内容 (3)

第 7 回 : 基本的人権の種類と内容 (4)

第8回：基本的人権の種類と内容（5）

第9回：平和主義

第10回：国民主権

第11回：権力分立

第12回：財政と租税

第13回：地方自治

第14回：憲法改正

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、当該箇所の論点や自らの見解をまとめる（各回60分）。

【事後学修】今回授業のテキスト箇所を通読し直すとともに、授業内容を振り返り、当該箇所の論点や自らの見解を再確認する（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をすることで積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版（2019年3月刊行）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

特に人権について、実際の社会状況を確認しながら学んでいきます。

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KKa115		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解していくところにねらいがある。教職必修科目である。

科目の概要

本科目では、国際女性年及び国連女性の10年が掲げた「平等・発展・平和」という理念から、またジェンダーに敏感な視点と定着という意欲・姿勢から、国内外で生起する人権問題や憲法政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により展開する。

到達目標

日本国憲法への問題意識をもって、有権者の一人として市民生活を営み、また参政権を行使する者として必要な、日本国憲法を起点にした認識力・考察力・判断力の基本視点を獲得するということを目指とする。

ディプロマポリシーとの関係

本科目は、本学の共通科目「社会に生きる」領域のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 3 グローバルマインド」、「 - 4 未来を創造する力」に該当する。

内容

授業計画－授業は講義を基本とするが、毎回適宜、質疑応答を行う。

第1回：主権者教育としての憲法学習の意味

第2回：立憲的意味の憲法（立憲主義）とは何か

第3回：日本国憲法の三大原理 - 国民主権

第4回：日本国憲法の三大原理 - 基本的人権の尊重

第5回：日本国憲法の三大原理 - 平和主義

第6回：基本的人権の種類と内容 - 自由権

第7回：基本的人権の種類と内容 - 平等権

第8回：基本的人権の種類と内容 - 社会権

第9回：基本的人権の種類と内容 - 参政権

第10回：基本的人権の種類と内容 - 請求権

第11回：日本国憲法の構成と意味内容 - 前文、象徴天皇制、第9条と平和保障

第12回：日本国憲法の構成と意味内容 - 国民の権利・義務、三権分立の仕組み

第13回：日本国憲法の構成と意味内容 - 財政の意味と役割、地方自治

第14回：憲法改正手続、憲法の最高法規性 - 憲法改正問題への視点

第15回：全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

小レポート40%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 - 小レポート40%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版

【参考書】授業時、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	安達 宏之		
ナンバリング	KKa115		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格/高等学校教諭一種免許状(情報)/高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/幼稚園教諭一種免許状/養護教諭一種免許状/栄養教諭一種免許状/栄養教諭二種免許状/小学校教諭一種免許状/高等学校教諭一種免許状(保健)/中学校教諭一種免許状(保健)/中学校教諭一種免許状(国語)/高等学校教諭一種免許状(国語)/中学校教諭一種免許状(保健体育)/高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教職課程の必修科目であり、人権保障の根本法となる日本国憲法の理念と精神、その内容の全体像を理解する。

科目の概要

国内外で生起する人権問題や憲法を取り巻く政治状況を具体的に取り上げ、憲法全体への理解を深めていく。

授業の方法（ALを含む）

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

到達目標

- ・日本国憲法の基本原理と概要を理解することができる。
- ・憲法状況について人権保障の観点から考える思考を学ぶことができる。
- ・主権者の一人として市民生活を営んでいくために、社会問題について自ら考える力を習得することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 読み解く力、
- 5 論理的に表現する力、
- 2 地域と社会の理解・参画

内容

教科書を使用した講義を基本に、課題を提起して質疑応答を織り交ぜながら、学びを深めていく。

第1回：憲法とは何か

第2回：日本国憲法の制定過程

第3回：日本国憲法の基本原理

第4回：基本的人権の種類と内容（1）

第5回：基本的人権の種類と内容（2）

第6回：基本的人権の種類と内容（3）

第7回：基本的人権の種類と内容（4）

第8回：基本的人権の種類と内容（5）

第9回：平和主義

第10回：国民主権

第11回：権力分立

第12回：財政と租税

第13回：地方自治

第14回：憲法改正

第15回：まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、当該箇所の論点や自らの見解をまとめる（各回60分）。

【事後学修】今回授業のテキスト箇所を通読し直すとともに、授業内容を振り返り、当該箇所の論点や自らの見解を再確認する（各回60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%（毎回の講義において質問をするので積極的に議論に参加する）、レポート70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業の中で質疑応答の時間を設け、理解を深めるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】片居木・福岡・長野・安達著『改訂新版 日本国憲法へのとびら～いま、主権者に求められること～』法律情報出版（2019年3月刊行）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

特に人権について、実際の社会状況を確認しながら学んでいきます。

科目名	くらしのなかの日本国憲法		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KKa115		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

本科目は共通科目として市民として必要な日本国憲法の歴史・内容・解釈等を理解しそれらを元における社会のものをとを判断し、書き表す力を育成するものである。

科目の概要

憲法について条文を学ぶのみでなく現実の社会において何が問題となっているか時事問題にも目を向けながら憲法について理解していく。憲法をめぐる動き・論点を踏まえつつ、憲法の基本的な内容を概観する。憲法の人権・統治機構・憲法改正の動き等とともに社会の動きと憲法との関連を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

- ・レジュメを配布しその内容を説明すると共に映像視聴によりその内容理解を深める。
- ・学生が授業内容や特定のテーマについて議論し理解を深めるディスカッションを行う。
- ・学生が授業から得た知識や考え方、感想、疑問点などを記入し理解を深めるためリアクションペーパーを一定のまとまりごとに提出する。

【グループワーク】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 学生が日本国憲法の基本的知識を習得する
2. 学生が国や社会、現在起こっていることと憲法との関わりにおいて理解する
3. 学生が上記について自分の意見を持つこと

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1読み解く力 -5論理的に表現する力 -2地域と社会の理解・参画

内容

この授業は講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながら憲法の理解を深めていく。

1. オリエンテーション 日本国憲法とは【リアクションペーパー】

2. 憲法の歴史 欧米の憲法史、明治憲法、日本国憲法制定史
3. 国民主権-憲法前文、平和主義-憲法9条、安保体制、集団的自衛権【ディスカッション】【リアクションペーパー】
4. 基本的人権 幸福追求権、プライバシー権
5. 基本的人権 法の下での平等
6. 基本的人権 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則
7. 基本的人権 表現の自由、報道の自由
8. 憲法改正手続 憲法96条、硬性憲法、自民党改正草案、憲法改正の論点
9. 基本的人権 国務請求権、社会権
10. 基本的人権 財産権、人身の自由【ディスカッション】【リアクションペーパー】
11. 統治機構 国会、内閣、裁判所、権力分立
12. 統治機構 地方自治 地方自治、地域と自治権、予算、条例
13. 国家・政府と憲法 安全保障と憲法、安全保障関連法、憲法改正・憲法9条改正問題、世界の国家と憲法
14. 立憲主義、参政権、18歳選挙権、知る権利【ディスカッション】
15. まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】憲法に関連するニュースをフォローする。次回テーマについて基礎知識を得る。(各授業に対して45分)

【事後学修】授業の論点について自分の基礎知識・考えをまとめる。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

試験(90%)、平常点(10%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業でレジュメ・資料などを用意する。

推薦書 芦部信喜「憲法 第六版」岩波書店、2015年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報とネットワーク社会		
担当教員名	深澤 進		
ナンバリング	KKa116		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は人間生活学部の学位授与方針1．に該当する。

基礎的な学修能力を養うために一般的に必要な教養として、「情報」の基本的な性格を学習し、その適切な活用方法を検討する。

科目の概要

- ・情報の基礎（情報の概念、特徴等）
 - ・情報システムのしくみ（コンピュータ・ネットワーク等）
 - ・セキュリティ、個人情報保護、情報倫理
- を中心に講義する。

授業の方法

講義形式で行う。授業参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。

到達目標

- (1)情報とはどのようなものを理解すること
- (2)コンピュータ・ネットワークはどのような仕組みで成り立っているのかを理解すること
- (3)現代社会において、情報と適切に接することができるようになること

以上三点を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は主にディプロマ・ポリシー -2「地域と社会の理解・参画」に関連する。

内容

この授業は講義を基本に進める。受講者は内容に対するリアクションペーパーを授業ごとに提出する。

1	ガイダンス ネットワーク社会とは
2	情報とは何か
3	日本社会の現状とグローバル化

4	持続可能な社会のための課題と取り組み
5	情報化社会とは何か
6	情報とメディア
7	ネットワーク社会における情報
8	データベースによる情報管理
9	現代生活とネットワーク社会
10	コンピュータ・ネットワークの特質
11	「フェイクニュース」拡散の仕組み
12	ネットワーク社会と集団心理
13	情報倫理
14	ネットワーク社会におけるふるまい方
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

授業内容のテーマについて興味を持った点を、事前に調べておくことよい。（各授業に対して45分）

【事後学修】

その回の授業分のリアクションペーパーを作成すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度50%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業への参加度は、授業内での発言や、提出されたリアクションペーパーの内容によって評価する。

授業への参加度と筆記試験双方とも、到達目標に掲げた三点をクリアできているかを基準とする。

リアクションペーパーは評価を記入後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない

【推薦書】

駒谷昇一・山川修・中西通雄・北上始・佐々木整・湯瀬裕昭 共著 『情報とネットワーク社会』 オーム社

【参考図書】

教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の進め方や評価方法の詳細は初回の授業時に説明する。

科目名	情報とネットワーク社会		
担当教員名			
ナンバリング	KKa116		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-地域と社会を学ぶ		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は人間生活学部の学位授与方針1．に該当する。

基礎的な学修能力を養うために一般的に必要な教養として、「情報」の基本的な性格を学習し、その適切な活用方法を検討する。

科目の概要

- ・情報の基礎（情報の概念、特徴等）
 - ・情報システムのしくみ（コンピュータ・ネットワーク等）
 - ・セキュリティ、個人情報保護、情報倫理
- を中心に講義する。

授業の方法

講義形式で行う。授業参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。

到達目標

- (1)情報とはどのようなものを理解すること
- (2)コンピュータ・ネットワークはどのような仕組みで成り立っているのかを理解すること
- (3)現代社会において、情報と適切に接することができるようになること

以上三点を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は主にディプロマ・ポリシー -2「地域と社会の理解・参画」に関連する。

内容

この授業は講義を基本に進める。受講者は内容に対するリアクションペーパーを授業ごとに提出する。

1	ガイダンス ネットワーク社会とは
2	情報とは何か
3	日本社会の現状とグローバル化

4	持続可能な社会のための課題と取り組み
5	情報化社会とは何か
6	情報とメディア
7	ネットワーク社会における情報
8	データベースによる情報管理
9	現代生活とネットワーク社会
10	コンピュータ・ネットワークの特質
11	「フェイクニュース」拡散の仕組み
12	ネットワーク社会と集団心理
13	情報倫理
14	ネットワーク社会におけるふるまい方
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

授業内容のテーマについて興味を持った点を、事前に調べておくことよい。（各授業に対して45分）

【事後学修】

その回の授業分のリアクションペーパーを作成すること。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度50%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業への参加度は、授業内での発言や、提出されたリアクションペーパーの内容によって評価する。

授業への参加度と筆記試験双方とも、到達目標に掲げた三点をクリアできているかを基準とする。

リアクションペーパーは評価を記入後返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

使用しない

【推薦書】

駒谷昇一・山川修・中西通雄・北上始・佐々木整・湯瀬裕昭 共著 『情報とネットワーク社会』 オーム社

【参考図書】

教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業の進め方や評価方法の詳細は初回の授業時に説明する。

科目名	家庭と法		
担当教員名	川口 かしみ		
ナンバリング	KKa105		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の卒業要件に該当する選択科目であり、学部共通科目である「女性を生きる」に位置づけられる。

科目の概要

現代の社会においては、法規定上では男女が平等になってきていますが、社会のなかの実態としてはその平等は達成されたとはいえません。それはなぜでしょうか？本講義では、みなさんが女性として生活していくなかで、遭遇する／関連する法律を学ぶとともに、現実の社会環境における法律と制度の位置づけや課題について検討していきます。

授業の方法（ALを含む）

本講義では、解説が中心となるが、毎回の授業終了後、受講生全員にコメントを書いてもらう。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現在の社会において、女性として生活するなかで関連する法律や制度を知り、それらの背景となった問題を分析する。
2. それを踏まえ、今後、女性として自分が生きていきたい社会のあり方を構想する。
3. その構想した社会のあり方と社会を取り巻く法律や制度の関連性や課題を認識し、構成員の一員として社会生活に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 論理的な表現、 -2 計画を立てる力、 -1 現代社会理解

内容

この授業は講義を基本に、時事問題、判例、画像、映像視聴を通じて、フィードバックシートの記入やレポート等を行い学びを深めてゆく。

1	オリエンテーション、身近なジェンダー問題
2	人権とジェンダー
3	国際化社会におけるジェンダー主流化
4	女性に対する暴力

5	性犯罪とジェンダー、売買春と人身取引
6	性と生殖の権利
7	夫婦生活と法、親子関係と法
8	離婚をめぐる諸問題
9	親密圏における暴力
10	雇用における性暴力
11	ワーク・ライフ・バランス
12	LGBTQと法
13	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
14	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱うテーマの文献などを読む。

【事後学修】ハンドアウトも読み返して、重要なポイントをノートにまとめて理解を深める。

評価方法および評価の基準

学期末試験（70％）、コメントシート（リアクションペーパー）（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業で書いてもらうコメントシートでは、課題の他に質疑ももちろん受け付ける。その質疑に対して、次週授業で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にハンドアウトを配布する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	家庭と法		
担当教員名	川口 かしみ		
ナンバリング	KKa105		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の卒業要件に該当する選択科目であり、学部共通科目である「女性を生きる」に位置づけられる。

科目の概要

現代の社会においては、法規定上では男女が平等になってきていますが、社会のなかの実態としてはその平等は達成されたとはいえません。それはなぜでしょうか？本講義では、みなさんが女性として生活していくなかで、遭遇する／関連する法律を学ぶとともに、現実の社会環境における法律と制度の位置づけや課題について検討していきます。

授業の方法（ALを含む）

本講義では、解説が中心となるが、毎回の授業終了後、受講生全員にコメントを書いてもらう。【リアクションペーパー】

到達目標

1. 現在の社会において、女性として生活するなかで関連する法律や制度を知り、それらの背景となった問題を分析する。
2. それを踏まえ、今後、女性として自分が生きていきたい社会のあり方を構想する。
3. その構想した社会のあり方と社会を取り巻く法律や制度の関連性や課題を認識し、構成員の一員として社会生活に参加する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 論理的な表現、 -2 計画を立てる力、 -1 現代社会理解

内容

この授業は講義を基本に、映像視聴、グループワーク（クラス規模に応じて）を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション、身近なジェンダー問題
2	人権とジェンダー
3	国際化社会におけるジェンダー主流化
4	女性に対する暴力
5	性犯罪とジェンダー、売買春と人身取引

6	性と生殖の権利
7	夫婦生活と法、親子関係と法
8	離婚をめぐる諸問題
9	親密圏における暴力
10	雇用における性暴力
11	ワーク・ライフ・バランス
12	LGBTQと法
13	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
14	女性を生きる共通授業「女性の生き方」
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業で扱うテーマの文献などを読む。

【事後学修】ハンドアウトも読み返して、重要なポイントをノートにまとめて理解を深める。

評価方法および評価の基準

学期末試験（70％）、コメントシート（リアクションペーパー）（30％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業で書いてもらうコメントシートでは、課題の他に質疑ももちろん受け付ける。その質疑に対して、次週授業で返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にハンドアウトを配布する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	キャリアデザインとライフプラン		
担当教員名	大友 由紀子、松本 晃子		
ナンバリング	KKa106		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

後半の「キャリアデザイン」担当教員は、バイヤーやマーケティング業務の経験を有し、教員のキャリアを生かした視点を交えながら講義を構築している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「十文字学」の「女性の自立・生き方を学ぶ」1・2・3・4年次配当の選択必修科目。

科目の概要

女性が働くことの意味や目的を考えるとともに、自分自身のライフプランを設計する。結婚、出産、育児などの家庭生活仕事をどう捉えていきたいか。将来を見据えた自己分析を通して、自らのキャリアデザインを考える。統計情報から働く女性の動向を把握するとともに、ポジティブ・アクションや仕事と家庭の両立支援といった女性の活躍を推進する政策、女性労働に関する法的な変遷を学習した上で、固定観念にとらわれない自分らしい職業選択について考える。

授業の方法（ALを含む）

前半では、十文字こと先生の生き方ビデオの視聴から、本学の建学の精神を組み入れていく。【ワークシート】【リアクションペーパー】【レポート】【ディスカッション】などのAL型講義も取り入れていく。

到達目標

変化する社会の中で意識や制度も大きく変わっている。女性も男性も、社会出来・文化的性差（ジェンダー）にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1女性の自立・生き方を学ぶ

内容

第2回から第8回までの「ライフプラン」では、ワークシートを取り入れた講義形式。第9回から第15回までの「キャリ

アデザイン」では、ディスカッション形式を取り入れながら学びを深めていく。

1	(大友・松本)【共通内容1】オリエンテーション、科目と担当の紹介、十文字こと先生のアニメビデオ視聴
2	(大友)【共通内容2】十文字こと先生の生き方に学ぶ
3	(大友)女性のライフコース・パターン
4	(大友)女性のライフイベント(1)-配偶者選択と結婚
5	(大友)女性のライフイベント(2)-妊娠と出産
6	(大友)夫婦のパートナーシップ
7	(大友)高齢化とジェンダー
8	(大友)ライフプラン総括
9	(松本)働くこととは - 働き方の選択肢と働くことの価値観の相違について考える
10	(松本)自らをマネジメントする - 意思決定のための基礎知識【レポート】
11	(松本)女性の能力を生かすこととは - ウーマノミクスを考える
12	(松本)優れたコミュニケーションと女性のリーダーシップ【レポート】
13	(松本)人生をマネジメントする - 働く女性と法律・政策
14	(松本)本学OGのGoogle勤務のゲストスピーカー招聘 【ディスカッション】
15	(松本)キャリアデザイン総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】冊子『夢の実現と未来へ』を読み、建学理念の理解に基づき、自身のライフプランとキャリアデザインを整理する(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業時に紹介された推薦書・参考図書と返却された課題を使って学びを深める(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる(平常点30%)。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる(平常点40%)。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる(平常点30%)。それぞれ、第1回6%、第2回から第8回の前半で47%、第9回から第15回の後半で47%として、合計60%以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート、リアクションペーパー、レポートは、評価後に返却して補足する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】内閣府(2019)『男女共同参画白書 令和元年版』

【推薦書】内閣府(2019)『令和元年版 少子化社会対策白書』

【参考図書】P・Fドラッカー上田敦夫訳(2000)『プロフェッショナルの条件』ダイヤモンド社

中原淳、トーマツイノベーション(2018)『女性の視点で見直す人材育成』ダイヤモンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学の講義というものの感覚をつかみ、社会的な知識か・情報から自らの最終進路について考えていくこと。

「ライフプラン」7回(第2回から第8回)、「キャリアデザイン」7回(第9回から第15回)、それぞれについて3分の2以上(7回のうち5回以上)出席すること。

科目名	キャリアデザインとライフプラン		
担当教員名	大友 由紀子、松本 晃子		
ナンバリング	KKa106		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

後半の「キャリアデザイン」担当教員は、バイヤーやマーケティング業務の経験を有し、教員のキャリアを生かした視点を交えながら講義を構築している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通科目「十文字学」の「女性の自立・生き方を学ぶ」1・2・3・4年次配当の選択必修科目。

科目の概要

女性が働くことの意味や目的を考えるとともに、自分自身のライフプランを設計する。結婚、出産、育児などの家庭生活仕事をどう捉えていきたいか。将来を見据えた自己分析を通して、自らのキャリアデザインを考える。統計情報から働く女性の動向を把握するとともに、ポジティブ・アクションや仕事と家庭の両立支援といった女性の活躍を推進する政策、女性労働に関する法的な変遷を学習した上で、固定観念にとらわれない自分らしい職業選択について考える。

授業の方法（ALを含む）

前半では、十文字こと先生の生き方ビデオの視聴から、本学の建学の精神を組み入れていく。【ワークシート】【リアクションペーパー】【レポート】【ディスカッション】などのAL型講義も取り入れていく。

到達目標

変化する社会の中で意識や制度も大きく変わっている。女性も男性も、社会出来・文化的性差（ジェンダー）にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1女性の自立・生き方を学ぶ

内容

第2回から第8回までの「ライフプラン」では、ワークシートを取り入れた講義形式。第9回から第15回までの「キャリ

「キャリアデザイン」では、ディスカッション形式を取り入れながら学びを深めていく。

1	(大友・松本)【共通内容1】オリエンテーション、科目と担当の紹介、十文字こと先生のアニメビデオ視聴
2	(大友)【共通内容2】十文字こと先生の生き方に学ぶ
3	(大友)女性のライフコース・パターン
4	(大友)女性のライフイベント(1)-配偶者選択と結婚
5	(大友)女性のライフイベント(2)-妊娠と出産
6	(大友)夫婦のパートナーシップ
7	(大友)高齢化とジェンダー
8	(大友)ライフプラン総括
9	(松本)働くこととは - 働き方の選択肢と働くことの価値観の相違について考える
10	(松本)自らをマネジメントする - 意思決定のための基礎知識【レポート】
11	(松本)女性の能力を生かすこととは - ウーマノミクスを考える
12	(松本)優れたコミュニケーションと女性のリーダーシップ【レポート】
13	(松本)人生をマネジメントする - 働く女性と法律・政策
14	(松本)本学OGのGoogle勤務のゲストスピーカー招聘 【ディスカッション】
15	(松本)キャリアデザイン総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】冊子『夢の実現と未来へ』を読み、建学理念の理解に基づき、自身のライフプランとキャリアデザインを整理する(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業時に紹介された推薦書・参考図書と返却された課題を使って学びを深める(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

女性も男性も、社会出来・文化的性差(ジェンダー)にとらわれない多様な生き方が現れ始めていることを理解することができる(平常点30%)。それを可能とする考え方、新たな制度の成立などを知ることができる(平常点40%)。今後、社会で活躍する自己イメージを明確にし、自信をもって積極的に社会参加できるよう、自己決定力を高めることができる(平常点30%)。それぞれ、第1回6%、第2回から第8回の前半で47%、第9回から第15回の後半で47%として、合計60%以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート、リアクションペーパー、レポートは、評価後に返却して補足する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】内閣府(2019)『男女共同参画白書 令和元年版』

【推薦書】内閣府(2019)『令和元年版 少子化社会対策白書』

【参考図書】P・Fドラッカー上田敦夫訳(2000)『プロフェッショナルの条件』ダイヤモンド社

中原淳、トーマツイノベーション(2018)『女性の視点で見直す人材育成』ダイヤモンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

大学の講義というものの感覚をつかみ、社会的な知識か・情報から自らの最終進路について考えていくこと。

「ライフプラン」7回(第2回から第8回)、「キャリアデザイン」7回(第9回から第15回)、それぞれについて3分の2以上(7回のうち5回以上)出席すること。

科目名	子育てと環境		
担当教員名	鈴木 晴子、山田 陽子、長田 瑞恵、近藤 有紀子		
ナンバリング	KKa107		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場及び特別支援教育の保育・教員実践、児童福祉施設等における職員研修等の経験を持つ教員の経験を活かし授業を行う。また、外部講師として生き生きとした子どもの姿を撮影し続けている写真家から、子どもや大人の表情について講話と質疑応答を通じて理解を持つ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2~4年前期と後期で開講される全学共通科目「女性の自立・生き方を学ぶ」の1科目で選択必修科目である。1年制の「子育てと環境」と同時開講である。

現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について取り扱う。

科目の概要

現代女性の優れたモデルである本学園創設者「十文字こと」先生の生き方を理解した上で、現代における「子育てと環境」について、「子どもでいること」・「親になること」・「地域で育つこと」の視点から学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義が中心である。適宜、視聴教材を使用し、外部講師による講義も予定している。毎回リアクションペーパーとして気づきや感想の記載を求める。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

1. 豊かな子育てとは何かを理解し、考えたことを説明できる。
2. 女性の自立・生き方について理解し、説明できる。
3. 現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 問題解決能力
- 2 社会への参画

内容

この授業は講義を基本とする。第1回から第14回授業に関しては、リアクションペーパーに取り組む。【リアクションペーパー】

1	「子育てと環境」に関するイントロダクション[山田・長田・鈴木・近藤]
2	女性の生き方 [山田]
3	女性の生き方 [山田]
4	子どもの表情および共に生きる大人たちの表情[山田]
5	母になること[長田]
6	親として[長田]
7	父になること[長田]
8	子どもとは[近藤]
9	子どもの育ちを学ぶ[近藤]
10	4歳児の育ちに注目する[近藤]
11	子どもの生活の場を知る[近藤]
12	子育てと子どもと地域と[鈴木]【レポート(知識)】
13	さまざまな課題を抱える子どもを支える地域[鈴木]【レポート(知識)】
14	地域をつくる、つなぐとは[鈴木]
15	まとめ[鈴木・近藤]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】第1週オリエンテーションで、各教員ごとの講義内容を具体的に説明し、それに基づいた事前学習課題を示す。各授業に対して1時間半程度行う。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。また、関連する文献や社会的事象を調べ、現代社会と子育て環境を捉える。各授業に対して2時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

各回の振り返りレポート15%、授業課題等による授業への参加度・意欲15%、レポート課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標2.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標3.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(12/60)

[フィードバック]フィードバックシートを活用し、次回の授業開始時にフィードバックを行ったり、講義内容に反映させていく。授業課題に関するフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テーマごとに各担当教員が資料を配布、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「子育てと環境」という言葉から、あなたはどのようなことを思いますか？

授業を通して女性の生き方を知り、子ども、保護者、地域に関して理解をしていきましょう。

科目名	子育てと環境		
担当教員名	鈴木 晴子、山田 陽子、長田 瑞恵、近藤 有紀子		
ナンバリング	KKa107		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育現場及び特別支援教育の保育・教員実践、児童福祉施設等における職員研修等の経験を持つ教員の経験を活かし授業を行う。また、外部講師として生き生きとした子どもの姿を撮影し続けている写真家から、子どもや大人の表情について講話と質疑応答を通じて理解を持つ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

2~4年前期と後期で開講される全学共通科目「女性の自立・生き方を学ぶ」の1科目で選択必修科目である。1年制の「子育てと環境」と同時開講である。

現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について取り扱う。

科目の概要

現代女性の優れたモデルである本学園創設者「十文字こと」先生の生き方を理解した上で、現代における「子育てと環境」について、「子どもでいること」・「親になること」・「地域で育つこと」の視点から学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義が中心である。適宜、視聴教材を使用し、外部講師による講義も予定している。毎回リアクションペーパーとして気づきや感想の記載を求める。【リアクションペーパー】【レポート(知識)】

到達目標

1. 豊かな子育てとは何かを理解し、考えたことを説明できる。
2. 女性の自立・生き方について理解し、説明できる。
3. 現代社会における女性の生き方と地域との共生、社会課題について考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 問題解決能力
- 2 社会への参画

内容

この授業は講義を基本とする。第1回から第14回授業に関しては、リアクションペーパーに取り組む。【リアクションペーパー】

1	「子育てと環境」に関するイントロダクション[山田・長田・鈴木・近藤]
2	女性の生き方 [山田]
3	女性の生き方 [山田]
4	子どもの表情および共に生きる大人たちの表情[山田]
5	母になること[長田]
6	親として[長田]
7	父になること[長田]
8	子どもとは[近藤]
9	子どもの育ちを学ぶ[近藤]
10	4歳児の育ちに注目する[近藤]
11	子どもの生活の場を知る[近藤]
12	子育てと子どもと地域と[鈴木]【レポート(知識)】
13	さまざまな課題を抱える子どもを支える地域[鈴木]【レポート(知識)】
14	地域をつくる、つなぐとは[鈴木]
15	まとめ[鈴木・近藤]

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】第1週オリエンテーションで、各教員ごとの講義内容を具体的に説明し、それに基づいた事前学習課題を示す。各授業に対して1時間半程度行う。

【事後学修】授業ノートをもとにその日の授業を振り返り、要点を押さえる。また、関連する文献や社会的事象を調べ、現代社会と子育て環境を捉える。各授業に対して2時間半程度行う。

評価方法および評価の基準

各回の振り返りレポート15%、授業課題等による授業への参加度・意欲15%、レポート課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標2.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(24/60)

到達目標3.各回の振り返りレポート(5/15)、授業課題等による授業への参加度・意欲(5/15)、レポート課題(12/60)

[フィードバック]フィードバックシートを活用し、次回の授業開始時にフィードバックを行ったり、講義内容に反映させていく。授業課題に関するフィードバックは実施後行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テーマごとに各担当教員が資料を配布、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

「子育てと環境」という言葉から、あなたはどのようなことを思いますか？

授業を通して女性の生き方を知り、子ども、保護者、地域に関して理解をしていきましょう。

科目名	食の科学		
担当教員名	神山 真澄、梶野 涼子、菅原 沙恵子		
ナンバリング	KKa108		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「女性の自立・生き方を学ぶ」分野の一つであり、選択科目である。

科目の概要

食に関わる様々な事柄を食品学の視点により話題提供し、女性の自立・生き方のヒントとなるように皆で学び、考える。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説と実習を行い、得た知識や技術を確認するためのレポートを提出してもらう。【実習】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

到達目標

1. 食を科学的知見から捉えることができるようになる。
2. 講義で学んだ食の科学を、実習を通してさらに理解度を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 女性の自立・生き方

内容

この授業は講義と実習の二本立てで行い、ディスカッションを取りいれながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション（神山・梶野）
2	大豆の科学（神山・梶野）
3	豆腐 講義：種類、作り方、栄養成分、何で固まる？（梶野）
4	豆腐 実習：豆腐の作製、試食、食べ比べ（神山）
5	醤油 講義：アミノカルボニル反応、塩分、色素（神山・梶野）
6	味噌 講義：だしのとり方、旨味の相乗効果（梶野）
7	味噌 実習：飲み比べ（神山・梶野）
8	味噌 講義：味噌の動脈硬化抑制効果（神山）
9	大豆の科学 まとめ（神山・梶野）
10	ブドウの抗酸化能について（神山）
11	タマゴの科学（梶野）
12	ライフステージと栄養 ～貧血について～（外部講師）

13	発表準備（神山・梶野）
14	発表（神山・梶野）
15	発表（神山・梶野）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業テーマに関することについて調べ、自身の経験や意見をまとめておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】毎回の授業を振り返り、さらに必要な情報を収集して復習ノートをまとめる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

担当ごとによるリアクションペーパーによる評価40点、実験における平常点10点、発表20点、レポート（知識）30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業の最初に、前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。授業時の課題にはコメントを付して、次週以降の授業でフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、適宜資料を配布する。

【推薦書・参考図書】授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学習にあたり、身の回りの化学的な知識に興味を持ち、意識してほしい。また、食品にも化学的な知識や技術がつまっていることを体験してほしい。

この授業は、人数制限があり、約40名を予定している。履修を希望する学生が多い場合は、抽選をする可能性がある。

科目名	女性と健康		
担当教員名	齋藤 麗子、徳野 裕子		
ナンバリング	KKa109		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有り(医師、管理栄養士)

実務経験および科目との関連性

保健衛生行政医師としての経験により、食中毒予防、アルコールやタバコの健康影響、性感染症、骨粗しょう症予防などの講義を実施し、管理栄養士の立場から健康を維持するための職や病気の予防のための食について講義している

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 女子大の特性を生かし、女性の健康問題の特に身近なテーマを具体的に事例を含め学ぶ。受講希望が多いため、前期、後期同様の授業を実施して、受講機会を増やしている。

科目の概要 高齢社会に向けて健康寿命を延伸するためには、女性に多い骨粗しょう症の予防、女性ホルモンの影響、栄養を考えた食生活、日頃の食中毒の知識と予防、未成年喫煙と飲酒の問題点、受動喫煙や性感染症などの知識を学び、妊娠・出産の正しい知識を得て、将来に備える。。

授業の方法（ALを含む）教科書、スライド、DVDなどを使用し知識を伝えるとともに、毎時間テーマごとに感想の記載を求める。最終回し学生による発表会で知識の確認を実施する。

到達目標 学生自身が女性特有の健康問題を知り、将来にわたり個人や家庭の健康を維持できる女性となる。さらに得られた知識を身近な人に伝え、将来の職場でも役立たせることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

卒業後に社会に役立つために、自立した女性となるべく、自分の健康を守ることを自覚する女性を育成する。ゲスト講師(高橋)は産婦人科校医である

内容	
1	健康寿命を延ばす知識 女性に多い骨粗しょう症の予防（齋藤）
2	アルコールとの付き合い方（齋藤）
3	女性を生きる共通授業 女性の生き方（徳野）
4	女性ホルモンと月経（高橋）
5	食べるということは（徳野）

6	おしゃれ障害 (齋藤)
7	食中毒の予防 (齋藤)
8	女性の体と妊娠・出産 (高橋)
9	健康を維持するための食について (徳野)
10	女性に多い病気の予防のための食 (徳野)
11	喫煙の女性や次世代への影響 (齋藤)
12	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
13	受動喫煙の無い社会は (齋藤)
14	性感染症の予防 (齋藤)
15	まとめの発表会 (齋藤)(徳野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を読む 45分

【事後学修】授業ごとに設問への答えと感想文の記入 10分

評価方法および評価の基準

出席回数10回以上の者の中で、毎回の設問の回答と感想のコメントで知識の確認を実施して採点し、自分自身の問題としてどのように理解し、行動変化に結び付けられるかを評価し採点し、総合評価60点以上を合格とする。出席回数は成績に反映される。教科書は必要となり、受講者は必ず用意すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「女性と健康」 齋藤麗子 徳野裕子 東京教学社

【参考図書】スポーツ栄養学 徳野裕子 東京教学社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習として事前に教科書を読み、教科書を元に授業を進めるため、教科書は必須である。また、女性の将来にわたる参考図書となりえる。

科目名	女性と健康		
担当教員名	齋藤 麗子、徳野 裕子		
ナンバリング	KKa109		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有り(医師、管理栄養士)

実務経験および科目との関連性

保健衛生行政医師としての経験により、食中毒予防、アルコールやタバコの健康影響、性感染症、骨粗しょう症予防などの講義を実施し、管理栄養士の立場から健康を維持するための職や病気の予防のための食について講義している

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 女子大の特性を生かし、女性の健康問題の特に身近なテーマを具体的に事例を含め学ぶ。受講希望が多いため、前期、後期同様の授業を実施して、受講機会を増やしている。

科目の概要 高齢社会に向けて健康寿命を延伸するためには、女性に多い骨粗しょう症の予防、女性ホルモンの影響、栄養を考えた食生活、日頃の食中毒の知識と予防、未成年喫煙と飲酒の問題点、受動喫煙や性感染症などの知識を学び、妊娠・出産の正しい知識を得て、将来に備える。。

授業の方法 (ALを含む) 教科書、スライド、DVDなどを使用し知識を伝えるとともに、毎時間テーマごとに感想の記載を求める。最終回では学生による発表会で知識の確認を実施する。[リアクションペーパー] [プレゼンテーション]

到達目標 学生自身が女性特有の健康問題を知り、将来にわたり個人や家庭の健康を維持できる女性となる。さらに得られた知識を身近な人に伝え、将来の職場でも役立たせることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

卒業後に社会に役立つために、自立した女性となるべく、自分の健康を守ることを自覚する女性を育成する。ゲスト講師(高橋)は産婦人科校医である。

内容	
1	健康寿命を延ばす知識 女性に多い骨粗しょう症の予防 (齋藤)
2	アルコールとの付き合い方 (齋藤)
3	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
4	女性ホルモンと月経 (高橋)
5	食べるということは (徳野)

6	おしゃれ障害 (齋藤)
7	食中毒の予防 (齋藤)
8	女性の体と妊娠・出産 (高橋)
9	健康を維持するための食について (徳野)
10	女性に多い病気の予防のための食 (徳野)
11	喫煙の女性や次世代への影響 (齋藤)
12	女性を生きる共通授業 女性の生き方 (徳野)
13	受動喫煙の無い社会は (齋藤)
14	性感染症の予防 (齋藤)
15	まとめの発表会 (齋藤)(徳野)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を読む 45分

【事後学修】授業ごとに設問への答えと感想文の記入 10分

評価方法および評価の基準

出席回数10回以上の者の中で、毎回の設問の回答と感想のコメントで知識の確認を実施して採点し、自分自身の問題としてどのように理解し、行動変化に結び付けられるかを評価し採点し、総合評価60点以上を合格とする。出席回数は成績に反映される。教科書は必要となり、受講者は必ず用意すること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「女性と健康」 齋藤麗子 徳野裕子 東京教学社

【参考図書】スポーツ栄養学 徳野裕子 東京教学社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習として事前に教科書を読み、教科書を元に授業を進めるため、教科書は必須である。また、女性の将来にわたる参考図書となりえる。

科目名	女性と文化		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KKa110		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-女性の自立・生き方を学ぶ		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

アナウンサーとして長く放送番組の制作に携わってきた。その経験から得た文化全般に対する知識や情報を授業に反映させる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目 十文字学 「女性の自立・生き方を学ぶ」の1科目

科目の概要

歴史の中で、女性たちはことばを使って自分を表現しようと努力を重ねてきた。表現の自由を奪われ、逆境の中にあっても、ことばの力を信じて才能を開花させてきた。そして放送や映像の世界には、生活者としての逞しさとしなやかさを活かし、作品作りに関わってきたパイオニアたちがいる。彼女たちの仕事や作品を取り上げ、その足跡をたどる。

授業の方法（ALを含む）

講義とグループ学習などにより、学生同士で議論し学び合う。毎回のリアクションペーパーを活用する。

到達目標

女性が社会で働くことがまれな時代から活躍してきた女性たちについて、知識を得ることが出来る。

自分の専門分野だけでなく、さまざまな文化活動に関心を持つことが出来る。

日本の文化や文学に関心を持つきっかけとすることが出来る。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成する。

- 1 女性の生き方および社会での活躍、家庭と社会との関係、家庭の科学についての基礎知識を身につけることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	極限状態の中で生まれた文学...アンネ・フランク
3	短歌で訴える...与謝野晶子

4	女子教育のパイオニア
5	豊かな暮らしを提案する...阿部なを・大橋鎮子
6	逆境の中で生まれた童謡...金子みすゞ
7	詩の中に描かれる自立...茨木のり子ほか
8	母の視点で描かれた作品たち...いわさきちひろとターシャ・チューダー
9	詩の中に描かれる葛藤...永瀬清子ほか
10	独自の世界を切り開く女性監督...河瀬直美ほか
11	映画「天のしずく」鑑賞
12	食と文化～食生活ジャーナリストに聞く
13	ことばを超えて...編集者・翻訳家
14	悩める人々に寄り添う...神谷美恵子ほか
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に配布したプリントや推薦した本を読む。45分以上。

【事後学修】授業中に紹介した資料などを読み、考察を深める。レポートなどの課題に取り組む。60分。

評価方法および評価の基準

ミニレポート(40%) 学期末レポート(40%) 授業への取り組み(20%) などから判断し、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使わない。プリントを配布する。

【推薦書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

講義を聞くだけでなく、グループ学習などに意欲的に参加することが望ましい。外部講師を招くこともあるので、積極的な学生の参加を希望する。

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	FAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	FBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名			
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-情報処理演習		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報） / 高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語） / 中学校教諭一種免許状（保健体育） / 高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1（関数の応用）
2	表計算ソフトの問題演習 2（応用的なグラフ作成）
3	表計算ソフトの応用操作 1（データベース基礎）
4	表計算ソフトの応用操作 2（データベース応用）
5	表計算ソフトの応用操作 3（データベース発展）
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】事前に教科書に目を通し，各回のキーワードについて調べ、A 4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学習】授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組むことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題（10回程度）を提出する．その内容を総合評価とし，60点以上を合格とする．

【フィードバック】提出されたレポートの中で，優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし，参考にしてもらう．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	HAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理基礎」領域の選択科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシーについて学修する。

科目の概要

ワークシートやブックの作成・管理、数式や関数の適用、グラフやオブジェクトの作成など、表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作方法を学び、レポートや卒業論文など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら解説した後、総合的な課題演習を実施する。【実技】【ミニテスト】

到達目標

1. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
2. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
3. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 ICTスキル・情報リテラシ

内容

1	オリエンテーション
2	ワークシートやブックの作成と管理 (作成・移動・書式設定) 【実技】
3	ワークシートやブックの作成と管理 (オプション・表示のカスタマイズ) 【実技】
4	セルやセル範囲の作成 (データの挿入・書式設定) 【実技】
5	セルやセル範囲の作成 (データの集計・整理) 【実技】
6	テーブルの作成 【実技】

7	数式や関数の適用 【実技】
8	グラフやオブジェクトの作成（グラフの作成・書式設定） 【実技】
9	グラフやオブジェクトの作成（オブジェクトの作成・書式設定） 【実技】
10	総合演習1 【実技】【ミニテスト】
11	総合演習2 【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3 【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4 【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5 【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 次回の演習内容を読み、内容を理解しておくとともに、疑問点等授業で確認が必要な事項を整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】 取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。理解が不十分な内容については、質問項目を整理しておく（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法・配点は以下の通り。

1. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
総合演習：8%×5回
2. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
総合演習：6%×5回
3. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。
総合演習：6%×5回

総合演習：20点×5回＝100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	HBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「情報処理」領域の選択科目であり、大学での学習や社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のための基本的なICTスキルと情報リテラシー、集計・データ処理について学修する。

科目の概要

ワークシートやブックの作成・管理、数式や関数の適用、グラフやオブジェクトの作成など、表計算ソフトウェアの基本的な機能・操作方法を学び、レポートや卒業論文など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成の基礎スキルを修得する。

授業の方法 (ALを含む)

実技を交えながら講義・解説を行い、結果や成果物を提出していく。単元等の終了に合わせて総合的な課題演習を実施する。**【実技】【ミニテスト】**

到達目標

1. コンピュータの基本的な知識・操作に基づきデータの操作・管理を適切に行える。
2. 表計算ソフトウェアの基本的な機能の活用・操作ができる。
3. 表計算ソフトウェアを活用して基本的な表計算・グラフ作成ができる。
4. 課題解決のための基本的なデータ集計および資料作成ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	オリエンテーション (授業の進め方、資格試験概要など) 【実技】
2	ワークシートやブックの作成と管理 (作成・移動・書式設定) 【実技】
3	ワークシートやブックの作成と管理 (オプション・表示のカスタマイズ) 【実技】
4	セルやセル範囲の作成 (データの挿入・書式設定) 【実技】
5	セルやセル範囲の作成 (データの集計・整理) 【実技】
6	テーブルの作成 【実技】
7	数式や関数の適用 【実技】
8	グラフやオブジェクトの作成 (グラフの作成・書式設定) 【実技】
9	グラフやオブジェクトの作成 (オブジェクトの作成・書式設定) 【実技】
10	総合演習1：ワークシートやブックの作成と管理 【実技】【ミニテスト】

11	総合演習2：セルやセル範囲の作成【実技】【ミニテスト】
12	総合演習3：テーブルの作成【実技】【ミニテスト】
13	総合演習4：数式や関数の適用【実技】【ミニテスト】
14	総合演習5：グラフやオブジェクトの作成【実技】【ミニテスト】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学習内容の多くがつながっているため、復習と並行して次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。（各授業に対して50分）

【事後学修】授業時に不十分と感じた項目を中心に、繰り返して復習を行う。合わせてその項目自体を把握し、質問項目として整理しておく。（各授業に対して70分）

評価方法および評価の基準

授業全体では各回・単元ごとの課題の提出（70%）と平常点（30%）とし、60点以上を合格とする。到達目標ごとの配分は次の通りとする。

1. 課題の提出（10%/70%）・平常点（5%/30%） / 2. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%）
3. 課題の提出（20%/70%）・平常点（10%/30%） / 4. 課題の提出（20%/70%）・平常点（5%/30%）

【フィードバック】翌週以降に解答の提示や説明などを行う。それらに基づく再提出の機会を設け、各回の実技を複数回行うことで復習の徹底・理解の定着を目指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 対策テキスト&問題集、FOM出版、2017

実習室の環境に合わせる必要があるため、初回の授業時に詳細を指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	AAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容	
1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名			
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学部学位授与方針 1 . 2 . 3 およびディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

表計算ソフトを使って集計表およびグラフを作成することができる。

表計算ソフトを使って基礎的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

- 1 表計算ソフトの基本操作 1 (表の作成と編集)
- 2 表計算ソフトの基本操作 2 (数式・関数の利用)
- 3 表計算ソフトの基本操作 3 (グラフの作成)
- 4 表計算ソフトの問題演習 1 (数式・関数の活用)
- 5 表計算ソフトの問題演習 2 (目的に応じたグラフの作成)
- 6 表計算ソフトの応用操作 1 (データの並べ替えと抽出)
- 7 表計算ソフトの応用操作 2 (データの集計方法)
- 8 表計算ソフトの応用操作 3 (データの集計と分析)
- 9 Webページの作成 1 (基本的なHTMLタグの使い方)
- 10 Webページの作成 2 (リンクの設定とCSSによる装飾)
- 11 Webページの作成演習 (サイトの設計と作成)
- 12 総合課題演習 1 (各種集計表の処理)

13 総合課題演習2 (データの整理と分析)

14 応用課題演習 (ソフトの統合利用)

15 まとめ

この授業では、演習課題について受講生が主体となって取り組み、情報処理に対する学習を深める。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】演習課題に関する資料を読み、全体の流れや演習課題の趣旨を理解し、ノートの記載する(授業ごとに30分)

【事後学修】練習課題に取り組み、情報処理の手順の定着や知識の定着をはかる(授業ごとに90分)

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

提出された課題解答については、授業内でコメントをフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内での学習活動に必要な資料は、全学共通として、閲覧方法およびネットワーク内の場所を適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	CAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	ABクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	CBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	EBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	BAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	DAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容	
1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	EAクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

2 ICT情報スキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名			
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-情報処理演習		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報） / 高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（国語） / 高等学校教諭一種免許状（国語） / 中学校教諭一種免許状（保健体育） / 高等学校教諭一種免許状（保健体育）		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。ディプロマポリシー情報処理基礎 1 に該当する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

本科目は、学部共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つであり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要不可欠な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1（関数の応用）
2	表計算ソフトの問題演習 2（応用的なグラフ作成）
3	表計算ソフトの応用操作 1（データベース基礎）
4	表計算ソフトの応用操作 2（データベース応用）
5	表計算ソフトの応用操作 3（データベース発展）
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展
9	情報機器 入力装置の基本操作

10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】事前に教科書に目を通し，各回のキーワードについて調べ、A 4：1枚にまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学習】授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組むことにより学習内容をしっかり身に付ける。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

テーマ毎に演習課題（10回程度）を提出する．その内容を総合評価とし，60点以上を合格とする．

【フィードバック】提出されたレポートの中で，優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし，参考にしてもらう．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	情報処理演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KKd244		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 情報処理演習		
学 年	2	ク ラ ス	BBクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目の科目区分「情報処理基礎」の科目の一つで選択科目であり、情報処理演習 の継続として基本的な情報機器の操作技能を修得する。問題解決の手段や、表現方法を情報機器で具体化・具現化することができる。

科目の概要

コンピュータを日常的に利用する習慣を形成するとともに、情報の収集・処理・発信に必要な基礎的知識や態度を身につける。主に、表計算ソフトの基本操作、データ活用と処理、基礎的なホームページ作成等について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

内容についての説明のもと、そこで課される課題解決、自ら問題を発見、問題解決するスタイルをとる。

学修目標 (= 到達目標)

表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。

Webページのしくみを理解する。

基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 ICTスキル・情報リテラシー

内容

1	表計算ソフトの問題演習 1 (関数の応用)
2	表計算ソフトの問題演習 2 (応用的なグラフ作成)
3	表計算ソフトの応用操作 1 (データベース基礎)
4	表計算ソフトの応用操作 2 (データベース応用)
5	表計算ソフトの応用操作 3 (データベース発展)
6	Webページ基礎
7	Webページ応用
8	Webページ発展

9	情報機器 入力装置の基本操作
10	情報機器 出力装置の基本操作
11	情報機器に関連する各種ソフトウェアの基本操作
12	総合課題演習 1
13	総合課題演習 2
14	応用課題演習
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前学習 事前に教科書に目を通し、各回のキーワードについて調べ、A 4 : 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

事後学習 授業で取り扱った事柄を確かなサイトのホームページで調べ確認する、練習問題に取り組む、ことにより学習内容をしっかり身に付ける。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

評価 表計算ソフトを使って応用的な集計表およびグラフを作成することができる。かつ応用的なデータ分析を行うことができる。(レポート20%、平常点20%)

Webページのしくみを理解できる。基本的なHTMLタグとCSSを使ってWebページを作成することができる。(レポート20%、平常点10%)

さまざまな情報機器, 入出力装置やそれらに関連するソフトウェアの基本操作について理解できる。(レポート20%、平常点10%)

以上のように内容を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

フィードバック 提出されたレポートの中で、優れたレポートのどこの部分が優れているのか具体的にコメントし、参考にしよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語		
担当教員名	稲田 朋晃		
ナンバリング	KKc228		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-日本語		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの外国語（基礎科目）の「選択科目」である。非母語話者の日本語運用能力を高めるための科目である。

科目の概要

読む・書く・聞く・話すの4技能を統合的に発展させるための「総合日本語」科目である。多様な読み手や聞き手に合わせて適切な表現を選びながら効果的にコミュニケーションをとれる力を養成する。CEFRのB2レベルの定着を目指す。（B2：自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。）

授業の方法（ALを含む）

本科目では、配布する教材をもとに、「聞く練習」「話す練習」「読む練習」「書く練習」など運用練習を中心に進める。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【ロールプレイ】

到達目標

1. 長い会話や講義を聞いて理解することができる。
2. 筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。
3. 自分の興味関心のある分野に関連する話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。
4. 自分の興味関心のある分野に関連する話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- － 1 外国語基礎理解、
- － 2 異文化の理解・尊重
- － 3 外国語コミュニケーション

内容

第1回： オリエンテーション

第2～6回： 日本語で楽しもう

第7～11回： 日本語で会議!?

第12～15回： どうやって伝えよう？

第16～20回： 「場にあった文章」に挑戦！

第21～25回：プロジェクトワークA

第26～30回：プロジェクトワークB

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の次週扱う部分に目を通し、語彙や表現を確認しておく。[60分]

【事後学修】授業で学習した内容を見直し、できるところとできないところを確認する。できないところは練習する。[60分]

評価方法および評価の基準

【評価方法・評価基準】リフレクションシートによって授業参加姿勢を評価し(30%)、作文・プレゼンテーションなどによって課題への取り組みを評価する(70%)。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】JFS B2教材

<https://minnanokyozaai.jp/kyozai/classroom/jfsclassroom/home/ja/render.do>

【推薦書】授業中に指示する

【参考図書】授業中に指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	海外語学研修（事前事後指導を含む）		
担当教員名			
ナンバリング	KKc129		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-海外語学研修		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中国北京語言大学への短期・長期留学のために、中国語・異文化理解の授業および演習を行なう。

科目の概要

会話教材（プリント）やDVDなどの視覚教材を用い、中国語及び中国の社会風習に慣れる。

授業の方法（ALを含む）

- 1．中国語の基本的な語彙の確認と会話練習
- 2．異文化理解
- 3．コミュニケーション演習
- 4．危機管理

到達目標

- 1．自分が言いたいことが中国語で言える
- 2．日本と異なる風習について理解できる
- 3．言葉が分からない時のノンバーバル・コミュニケーションができる
- 4．非常時に正しい行動がとれる

ディプロマ・ポリシーとの関係

大学のディプロマ・ポリシー - 3「実践する力」、 - 2「ICTスキル・情報リテラシー」、 - 3「言語運用能力」、 - 4「コミュニケーション能力」に該当する。

内容

ガイダンス

中国語発音復習

中国語文法復習

語彙

リスニング

スピーキング

ロールプレイング

手紙・メールの書き方

北京について

グルメガイド

危機管理

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】プリント・PPT・DVDなどにより指導を行なう。それに先立ち、中国語による自己紹介を60分程度の時間をかけて作成してくる。

【事後学修】報告会のパワーポイント作成指導。そのために、写真・文章を60分程度で準備すること。

評価方法および評価の基準

事前指導の理解力を50%、現地での行動を50%とし、総合評価60点以上を合格とする。事前指導のフィードバックは授業内に行なう。現地での行動はその場で評価を行なう。

- 1.スピーキング： 事前理解（15% / 50%）・現地行動（10% / 50%）
- 2.異文化理解： 事前理解（10% / 50%）・現地行動（15% / 50%）
- 3.ストラテジー能力：事前理解（10% / 50%）・現地行動（15% / 50%）
- 4.非常時対応： 事前理解（15% / 50%）・現地行動（10% / 50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント

【参考図書】『地球の歩き方・ペキン』

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

主体的に学んでください。

科目名	海外語学研修（事前事後指導を含む）		
担当教員名			
ナンバリング	KKc129		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-海外語学研修		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

科目の概要

授業の方法（ALを含む）

到達目標

ディプロマ・ポリシーとの関係

海外英語研修は、選択科目として卒業必要単位に加算されます。

夏期休業中の一定期間、本学の海外姉妹校や提携校で開講されている英語集中講座に参加することにより、英語によるコミュニケーション能力の向上と、異文化理解を目標とします。

内容

以下の研修先で英語集中講座に参加します。（ただし、最少催行人数に達しない場合は中止する場合があります。）

アメリカ英語研修： ハワイ大学マノア校（オアフ島）

約4週間のプログラムで、ホームステイをします。また、希望により周辺への小旅行もあります。

新年度が始まるとすぐに説明会がありますから、興味のある人は出席をしてください。詳しくは国際交流センターにお問い合わせください。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

オリエンテーションで指示されます。

ホストファミリーとの会話で困らないよう、自ら準備をしてください。

評価方法および評価の基準

出発前に毎週オリエンテーションが行われます。このオリエンテーションに必ず出席しなければなりません。この出席状況と現地で行われる英語集中講座の成績をもとに評価します。

オリエンテーションに対する積極的参加（30％） 研修先での成績（70％）

60点以上を合格として、2単位が与えられます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーションで毎回資料を配布します。この資料をもとに出発までの準備をします。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KKc334		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語目的別科目枠の選択科目である。また、英語の教職履修者の必修科目である。

科目の概要

英語の自然な発話にみられる音変化を習得したのち、文化的背景・社会常識・英語で行う英語の授業に関連する素材を使って英語のリスニングの力を高める。

前半では、英語の自然な発話にみられる音変化について説明をしたのち、予習で課した音声のリスニング・ディクテーションの確認を行う。後半では、映像付きの英語を聞き、重要なポイントを逃さず聴きとれる練習をグループワークにて行う。部分的なディクテーションも行う。毎回の授業の初めには前回の単語や音声の復習テストを行う。音声は授業用フォルダ上に保存するので、予習・復習時に使用すること。【ミニテスト】【グループワーク】

到達目標

- (1)音変化を含んだリスニング素材を聞き取り、ディクテーションができる。
- (2)映像付きの英語の自然な発話を聞き取りを行い、目的に応じて情報や考えなどを理解し、重要な点をメモやノートにとることができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、児童教育学科の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解 -2 異文化の理解・尊重 -3 外国語コミュニケーション

内容

- (1) 毎週かなりの課題が出るので、事前事後学修が重要である。
- (2) 毎週の課題の中にわからない単語がある場合は、必ず辞書を引いて予習しておくこと。
- (3) 最終回には指定箇所の音声吹込みを行う。

第1回：導入：英語のリスニングに必要な力とは

第2回：機能語と内容語

第3回：短縮形

第4回：変化する音

第5回：聞こえなくなる音

第6回：つながって聞こえる音・やわらかくなる音

第7回：注意すべきイントネーション

第8回：音変化のまとめ

第9回：映像付き英語のリスニング 場面1

第10回：映像付き英語のリスニング 場面2

第11回：映像付き英語のリスニング 場面3

第12回：映像付き英語のリスニング 場面4

第13回：映像付き英語のリスニング 場面5

第14回：映像付き英語のリスニング 場面6

第15回：まとめ（指定箇所の吹込み）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎週、指定された箇所のリスニングに取り組み、分からない単語は調べておくこと。最低50分。

【事後学修】授業で取り組んだポイントの箇所をディクテーションできるようにすること。最低50分。

評価方法および評価の基準

期末テスト(筆記・音読)(70%)、授業への取り組み(小テスト・予習・課題・参加態度)の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

(1)期末テスト(筆記・音読)(30%/70%)、授業への取り組み(10%/30%)

(2)期末テスト(筆記・音読)(40%/70%)、授業への取り組み(20%/30%)

【フィードバック】復習の小テストは翌週に返却します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし

授業内でハンドアウトを配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リスニング		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KKc334		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

児童教育学科中等教育教員養成（外国語）分野の選択科目で、英語の教職課程を履修している学生は必修である。

科目の概要

自然な英語音声には、音変化が起こる以前の発音はほぼ存在しない。これをききとるには、自分でもそのように発音していることが一番の近道であり、英語で教えたり仕事をしたりするときにも便利である。

毎回の授業では、音変化の説明と例示にひきつづいて、その現象がみられる語句のディクテーションを行い、すぐに一般的なリスニング形式の問題演習を行う。また、情景描写に使われる、空間位置関係を表す英語の例に多数触れ、発話につながるリスニング力を養う。

授業の方法（ALを含む）

音変化現象・情景描写表現の両方について、授業の中でミニテストを行い、

直ちに答え合わせとペア・グループワークをして疑問点の解決を図る。

その記録をリアクションペーパーにとり、次の授業でコメントを返し、

音声学に関しても描写表現に関しても、次のレッスンへのフィードバックとする。

複数回、自分で用意した写真を英語で描写してマイクを回してプレゼンテーションを行う。

【ミニテスト】【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

到達目標

(1)英語リスニング教材に近い発音ができる

(2)情景を描写している英語の、ききとり・発話の両方ができる

(1)の近さの程度は各自の判断でよいが、ペア・グループの批評に耐えるようにする

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの次の能力の育成を目的とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1 外国語基礎理解、 -2 異文化の理解・尊重、 -3 外国語コミュニケーション

内容

初回を含めて毎回、2つの教科書の両方を使う。

1. ガイダンス（英語の子音連続、情景描写の基礎）
2. 短縮（be動詞, would, hadの弱形）
3. 短縮（will, have, hasの弱形）
4. 短縮（...+not）
5. 同化（-t/d + you(r)）
6. 同化（-他の子音 + you(r)）
7. wanna, gonna
8. gotta, gimme, lemme
9. 機能語の弱形(人称代名詞等・hの脱落)
10. 機能語の弱形(接続詞, 関係詞等)
11. 弱母音・子音の脱落
12. 子音の省略的発音（子音の前・語末）
13. つながる音（語境界をはさんだ子音+母音）
14. 音声的熟語
15. まとめ・有声のt・半母音の脱落

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

- 1の教科書の各回に指定されたunitを全問解き、例文をスラスラ読めるまで発音する。（60分程度）
- 2の教科書に関連する課題が事前に出されているときは、写真を調達・撮影し、英作文を行う。（平均20分）

【事後学修】

情景描写の原稿が返却されているときは、その原稿の発音等を辞書や教科書で確認し、暗唱する。（平均15分）

評価方法および評価の基準

教科書1の事前解答の記録を30%、写真情景描写英文の原稿を20%（原稿提出各回を同等に評価）、口頭発表を20%（録音・発表の各回を同等に評価）、まとめの成果を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーには、2つの教科書の問題の一部も含め、グループの講評も簡単に記録できるようにし、写真情景描写作文の1文も書いてもらう。講義・グループワークから気づかされた点は改善し、次回以降に活かすこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

1. 『音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル 資格試験対応 』(Essential Listening Skills for College Students_), 船田秀佳 編著, 朝日出版社, 本体1,200円. ISBN: 978-4-255-15652-1
2. 『リスニングと語彙のミニテスト [10分間×24回]』(What 's the Picture Saying? -Mini Tests for Listening and Vocabulary-_), 李春喜 著, 朝日出版社, 本体1,000円. ISBN: 978-4-255-15430-5

【参考図書】本学「英語音声学 ・ 」の近年の教科書・推薦書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

リスニングの授業なのに録音？！

そうです。それが近道なのです。

音声学も思い出してください。将来湧き上がるであろう疑問に答えてくれることでしょう。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KKc335		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語 (目的別科目) の選択科目です。

科目の概要

アメリカ、イギリス、日本、その他世界の国々の近年の事象を扱った英語の文章を題材に学習します。文章中に登場する構文を学んだ後に文章を読むことで、より早く正確に読むことを目指します。リーディング・スキルとして、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミングの方法も学びます。ペア、グループ・ワークを通して、理解を確認しながら進めます。

授業の方法 (ALを含む)

大まかな流れとしては、以下のようになる。

1. 学習ユニットの語彙の確認をする。
2. 段落ごとに文章を読み、まずは学生間、次に教師に質問という形で内容を確認する。
3. 文章の構成について整理する。

到達目標

1. 構文、慣用表現を知り、文章を8割以上正確に理解することができる。
2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。
3. スキミング、スキミングなどのリーディングスキル を駆使して、短時間で文章の概要 (7 ~ 8分程度) や、質問への解答を短時間 (設問の内容にも寄るが、1分程度で) で把握することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

基本的に、1ユニットを1回の授業で完結させる。履修者は、予習として構文の学習を行い、授業の初めに質問の受付と、小テストを行う。その後、本文の読解を行う。ペア、またはグループワークで理解を確認し、疑問が残った場合はクラス全体で確認する。

1	オリエンテーション, U1. Everything's Ducky 構文
---	--------------------------------------

2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings
5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（30分）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分）

評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとっておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KKc335		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語目的別科目枠の選択科目である。

科目の概要

文を理解するとは、その中のほとんどの単語が既習で、文中の単語間のまとまりと文法的関係が分かり、複数の語義を持つ語があれば、どれがその文脈に当てはまるかが分かることである。そして、文章を理解するとは、文と文、段落と段落の関係が分かり、話全体の筋道や全体的な意図が分かることである。

教科書の英文を予習の上、クラス全体で一文ずつ音読しながら、「主語はどこ」などの一問一答をしながら読み進めたあと、文章の一部や全体について、ペアや少人数のグループワークで同じ部分の対話的意味確認を再現し合えれば、1人でも初見の文章を読む力がつくことを期待できる。

教員は教科書の各ユニットの文章のキーワードから、これらの単語を含む別の文章を探しておき、クローズテストのような簡単な問題を作って、補充ミニテストとして授業中に複数回実施する。

【グループワーク】【ミニテスト】

到達目標

- (1)教科書の文章の語彙に習熟する。
- (2)語彙レベルの似た初見の文章を対話的に各自読めるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解、 -2 異文化の理解・尊重、 -3 外国語コミュニケーション

内容

教科書のユニット番号と文章のタイトルと文法ポイントは以下のとおりである。

1	1 Mall of America (MOA) 過去分詞の副詞用法
2	2 Denali 不定詞の名詞&形容詞用法
3	3 Get Your Kicks on Route 66 現在分詞形容詞用法と分詞構文
4	4 Stop Bugging Me! 現在分詞形容詞用法と動名詞の違い

5	5 A Story Book Area 関係代名詞が普通の文を説明文に変える
6	6 OMG What Is THAT? 関係代名詞は形容詞の働きをする
7	7 Scrabble 関係代名詞と関係副詞の違い
8	8 Starbucks 原形不定詞を取る動詞
9	9 A Famous Bear このUnit までの復習
10	10 King of the Blues 副詞節の働き
11	11 Empire State Building There+is (are) + S の構文
12	12 Dr. Jonas E. Salk 名詞節と強調構文
13	13 Trick or Treat!! 准動詞と従属節の復習(1)
14	14 Do You Know These Idioms? 准動詞と従属節の復習(2)
15	15 Windsor Castle 准動詞と従属節の復習(3)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

教科書の1ユニット分の全問題に解答し、文章の単語の意味と使い方を辞書で調べる。(約60分)

【事後学修】

補充ミニテストが返却されたら、意味を確認する(約20分)

英語音声のあるテレビニュース・自然ドキュメンタリー・ドラマ・ネット動画(英語字幕があれば利用)して、ナチュラルスピードに近い英語に親しむ(約90分)

評価方法および評価の基準

全部のミニテストの合計点を60%、平常点(授業への参加)を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。
、【フィードバック】ミニテストの問題を返却するとき、正解率が低かった部分は授業中に解説を加える。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】_Enjoying American & British Culture Using Grammar

Tips_(文法ヒントで楽しむ英米文化リーディング), Richard Carpenter著/森永弘司 著
(2019), 松柏社. ISBN: 978-4-88198-760-5.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・リーディング		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KKc335		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語 (目的別科目) の選択科目です。

科目の概要

アメリカ、イギリス、日本、その他世界の国々の近年の事象を扱った英語の文章を題材に学習します。文章中に登場する構文を学んだ後に文章を読むことで、より早く正確に読むことを目指します。リーディング・スキルとして、スキミング、スキミング、スキミング、スキミング、スキミングなどのリーディングの方法も学びます。ペア、グループ・ワークを通して、理解を確認しながら進めます。

授業の方法 (ALを含む)

大まかな流れとしては、以下のようになる。

1. 学習ユニットの語彙の確認をする。
2. 段落ごとに文章を読み、まずは学生間、次に教師に質問という形で内容を確認する。
3. 文章の構成について整理する。

到達目標

1. 構文、慣用表現を知り、文章を8割以上正確に理解することができる。
2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。
3. スキミング、スキミングなどのリーディングスキル を駆使して、短時間で文章の概要 (7 ~ 8分程度) や、質問への解答を短時間 (設問の内容にも寄るが、1分程度で) で把握することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

基本的に、1ユニットを1回の授業で完結させる。履修者は、予習として構文の学習を行い、授業の初めに質問の受付と、小テストを行う。その後、本文の読解を行う。ペア、またはグループワークで理解を確認し、疑問が残った場合はクラス全体で確認する。

1	オリエンテーション, U1. Everything's Ducky 構文
---	--------------------------------------

2	U1. Everything's Ducky! 読解
3	U2. A Dearth of Cherry Tree
4	U3. One Hundred Billion Servings
5	U4. A Stellar Superstar
6	U5. Finnish Fathers Finish First
7	U6. Switch Off, Look Up, Watch Out!
8	U7. Disappearing Beaches
9	U8. An Alarming Allergy
10	U10. A British Motto Up for Grabs?
11	U12. Cats or Kiwis?
12	U13. A New Way to "Shoot Big Game"
13	U14. The Candy Crush Saga
14	U15. Hardy Humans and Huskies
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 1. 構文の問題（各ユニットの後半）は、授業前に自宅で読み、問題を解いておく。解けない問題、意味の解らない文には印をつけておく。（1～2時間）

2. 本文の未知語を調べておくこと。（30分）

【事後学修】 1. 本文を読み直し、確認する。授業で新たに学んだことをノートにまとめる。（45分）

評価方法および評価の基準

1. 構文、慣用表現を知り、文章を正確に理解することができる。（小テスト40%）

2. 段落、文章全体の構造を理解し、理論的に読み進める事ができる。（期末テスト25%、平常点5%）

3. スキミング、スキヤニングなどのリーディングスキルを駆使して、文章の概要や、質問への解答を短時間で把握することができる。（期末テスト25%、平常点5%）

（上記合計：期末テスト50%、小テスト40%・平常点10%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村正俊 他, Firsit Step to Global Communication, 南雲堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

予習をしっかりとっておくことが、授業の理解を助けます。授業の初めに小テストを行い、予習の成果を確認しますので、準備をしておきましょう。

科目名	アドバンスト・ライティング		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	KKC336		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目 - 外国語 - 目的別科目である。選択科目であるが、英語教職課程の履修者は必修となる。

科目の概要および

英語でひとつのまとまった内容のエッセイを書く訓練をする。

授業の方法 (ALを含む)

短い英文のモデルエッセイを読み、その論理展開のパターンを学ぶ。そののち、そのパターンに従ってオリジナルエッセイを作成する。

到達目標

- (a) 英文エッセイにおけるパラグラフの概念を理解できる。
- (b) 一文一文を文法的に書くことができる。
- (c) 論理的なエッセイを書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

英文のモデルエッセイを読み、英語の論理パターンを学ぶ。授業では、「分類」「手順の説明」「言葉の定義」「意見と理由」「観察と分析」「データの説明」などのパターンを取り上げ、それぞれの文章に応じた書き方を練習していく。また教室での演習に加えて、各パターンごとに自宅で課題を行うことによって、実践的な英文読解のスキルを身につけていく。

1	ガイダンス・Unit 1. Conclusions/Reasons モデルエッセイの説明
2	Unit 1. Conclusions/Reasons オリジナルエッセイの作成
3	Unit 2. Analysis モデルエッセイの説明
4	Unit 2. Analysis オリジナルエッセイの作成
5	Unit 4. Controversy モデルエッセイの説明
6	Unit 4. Controversy オリジナルエッセイの作成

7	Unit 6. Classification モデルエッセイの説明
8	Unit 6. Classification オリジナルエッセイの作成
9	Unit 10. Process モデルエッセイの説明
10	Unit 10. Process オリジナルエッセイの作成
11	Unit 12. Definition モデルエッセイの説明
12	Unit 12. Definition オリジナルエッセイの作成
13	Unit 13. Explanation モデルエッセイの説明
14	Unit 13. Explanation オリジナルエッセイの作成
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】モデルエッセイを読み、その構成を予習する。所要時間45分以上。

【事後学修】モデルエッセイのパターンにしたがって、自分のエッセイを作成する。所要時間45分以上。

評価方法および評価の基準

到達目標それぞれに対する評価方法は(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】受講生のエッセイを添削し、返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ（改訂版）』，石谷由美子他，南雲堂，1900円＋税）
その他適宜プリントを使用する

授業には必ず辞書を持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	アドバンスト・ライティング		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KKC336		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 Students will practice writing in their workbook

s and move from the structure of sentences to the production of paragraphs, through a process approach.

科目の概要 For students to be able to write short discourses in English.

授業の方法 (ALを含む) The teacher will guide the students who wi

ll work at a variety of exercises for understanding writing in their books.

到達目標 For students to be able to recognize and also pr

oduce logical and coherent paragraphs with a topic and development in the paragraphs.

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	Introduction to the text book and to paragraph writing.
2	Review of the structure of sentences. Recognizing paragraph topics.
3	Identifying and writing topic sentences. Identifying the main ideas in paragraphs.
4	Brainstorming. Editing lists. Developing description.
5	Using maps for brainstorming. Writing concluding sentences.
6	Using adjectives and descriptive vocabulary.
7	Using descriptive vocabulary to write about trends.
8	Learning to do peer feedback.
9	Expressing opinions. Using discussion to brainstorm.
10	Explaining cause and effect.
11	Writing about feelings and problems. Using logical order.
12	Telling stories. Ordering with after, before, then, next.
13	Making comparisons.

14	Writing about difficult decisions.
15	Final paragraph. Writing about the future.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Students should read the lesson in the textbook before the class.

【事後学修】 Students can finish many unfinished exercises at home.

評価方法および評価の基準

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

Students will be graded on their in-class engagement with writing; 50%

Students will be graded on two paragraphs written as assessments; 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 Paragraph Writing; From Sentence to Paragraph by D. Zemach and C. Islam MacMillan.

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

It is essential to try hard and practice a lot to improve writing. Be prepared to write and to rewrite your work.

科目名	日常英会話入門		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KKc037		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

Elective course.

科目の概要

Students discuss familiar topics, the classroom, school, family, places and friends using simple vocabulary and grammar. They also develop their listening with natural listening materials, such as songs and stories.

授業の方法 (ALを含む)

Pair work, group work, listening with songs and videos.

到達目標

The goal is to activate the English language that the students already know by enabling them to talk about their own worlds. Students will gain in confidence because the topics are familiar and well-known to them.

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容	
1	Unit 1. Introduction. Learning names and items in the classroom.
2	Unit 1. Greetings and classroom management vocabulary. Listening with a song.

3	Unit 1. Classroom phrases and questions.
4	Unit 2. Learning timetables and time.
5	Unit 2. Learning to express likes and dislikes.
6	Unit 2. Using positive and negative adjectives. Listening with a song.
7	Unit 3. Learning about family trees and relations.
8	Unit 3. Forming yes/no questions. Listening with a story.
9	Unit 3. Asking and telling about each other's family.
10	Unit 4. Describing places using their is / are
11	Unit 4. Describing places using adjectives. Listening with song.
12	Unit 4. Explaining locations using maps.
13	Unit 5. Describing personalities.
14	Unit 5. Discussing activities together.
15	まとめ Evaluation activities.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】Outside lesson listening recommended.

【事後学修】Review using the vocabulary lists provided in the text book.

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。

Small review tests on each unit 30%, listening activities 30% final test 40%。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Within Your Reach. Cliffe, Svendon, Terada. Nan'un Do.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Don't be afraid of making mistakes. It is most important to practice a lot.

科目名	日常英会話		
担当教員名	シーラ クリフ		
ナンバリング	KKc137		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

Elective.

科目の概要

Students discuss familiar topics such as vacations, favorite things, fashion, memories and stories, work and holidays. They practice listening with natural materials such as songs and stories.

授業の方法（ALを含む）

到達目標

Students will utilize the English that they already know and will gain in confidence by speaking about familiar and useful topics.

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1	Unit 6. Discussing the summer vacation. Asking and answering questions.
2	Unit 6. Using the past tense to tell stories about the summer. Listening with a song.
3	Unit 7. Practicing listening comprehension with stories.

4	Unit 7. Story making workshop.
5	Unit 7. Reading stories to learn story telling techniques.
6	Unit 8. Comparing favorite things.
7	Unit 8. Using Wh questions. Comparing and contrasting.
8	Unit 9. Talking about clothes and trends.
9	Unit 9. Discussing trends. listening with a song.
10	Unit 10. Discussing schools and childhood. Using the past tense to tell stories.
11	Unit 11. Discussing different types of work and skills.
12	Unit 11. Listening to and making a resume.
13	Unit 12. Holidays: Christmas vocabulary, stories and listening activities.
14	Unit 12. Holidays: New Year vocabulary, game and listening activities.
15	まとめ Evaluation activities.

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】Listening outside the classroom recommended.

【事後学修】Review using the vocabulary list provided in the textbook.

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。

Small unit tests 30%, listening activities 30%, final test 40%.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Within Your Reach. Cliffe, Svendsen and Terada. Nan'un Do.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Don't be afraid of making mistakes. It is important to practice a lot.

科目名	ビジネス英語		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	KKc238		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

英語でのコレスポンドンス

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目のうちの選択科目で、ビジネス英語を基礎から学習するクラスです。

科目の概要

ビジネスの世界で必要とされる英語力を養成することを目標とします。

授業の方法（ALを含む）

対面、オンラインのブレンデッド授業

到達目標

様々なビジネスの場面で役立つ会話表現や英文ビジネス文書に関する基礎知識を習得し、実際に活用できるようになることを目指します

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1,2,3 外国語基礎理解、異文化の理解・尊重、外国語コミュニケーション

内容

1	ビジネス通信（ファックス）
2	ビジネス通信（電子メール・電話）
3	ビジネス通信（手紙）
4	社交関連英語（ホテルの予約）
5	社交関連英語（移転通知）
6	社交関連英語（招待）
7	社交関連英語（面会）
8	社交関連英語（会議の通知）
9	社内の英語（資料の送付）
10	社内の英語（購入）
11	社内の英語（報告）

12	取引関係の英語 (引合い)
13	取引関係の英語 (注文)
14	雇用関係の英語 履歴書・応募の手紙
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】最低30分で課題をしておく

【事後学修】間違えた箇所をチェックし、次回からクリアできるようにする

評価方法および評価の基準

授業への取り組み(20%)、平常点(20%)、最終チェック(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】Satoru Toyoda, Essentials of Global Business English, Nanundo

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

毎回の英文レター課題が出ます。

科目名	ビジネス英会話		
担当教員名			
ナンバリング	KKc239		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 This course aims at familiarizing students with useful basic business

terminology

DP1

科目の概要 Students will use a text book and exercise their business English.

授業の方法 (ALを含む)

到達目標 Students will be expected to be able to communicate in English in basic business situations.

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1	Introduction. Course explanation . Useful expressions, eg. How do you say...?
2	Unit 1 Stating the Purpose of a Contact 6 目的を告げる (対面・電話・メール)
3	Unit 2,3 Meeting for the First Time 8, Presenting a Business Card 10
4	Unit 4,5 Transferring a Call 12, Phone Troubles 14
5	Unit 6 At the Airport Abroad 16
6	Unit 7,8 Making Polite Requests 18, Taking and Leaving Telephone Messages 20
7	unit 9,10 Making Inquiries 22, Making Appointments 1 24
8	Unit13 Making Appointments 2 30

9	Unit 11,12 Stating Requests Clearly 26, Making Apologies 28
10	Unit 14,15 Notification of Absence 32, Confirming Your Understanding 34
11	Unit17 Inquiring About Job Openings 38
12	Unit18,19 Making Suggestions 1 40, Making Suggestions 2 42
13	Unit 21 Parting 46
14	Pair work
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 Read specific pages. Check new words.

【事後学修】 Make sentences for homework.

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。Attendance/participation 30% Class Performance 50% Test 10% Assignment 10%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 A Shorter Course in English for Business Communication, 新田亜紀、南雲堂、ISBN#9784523178705

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	映画・ドラマ英語		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KKc240		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間生活学部共通外国語の選択科目の1つである。

科目の概要

英語の映画やテレビドラマなどを通してほぼナチュラルスピードの英語に親しみ、文化背景の理解をふくめて総合的な英語力を養成する科目である。

授業の方法（ALを含む）

教科書が空欄穴埋め聞き取り問題に選んだ場面のセリフを、列によって分かれて、音声実演する。

その前に、特に難しい語句や短文を選んで、クラス全体でコーラスリーディングを数回行って、自動化・無意識化を図る。ある程度自動化していないと、発表を外国語で行うことはできないからである。

このように、個人ではなく、集団・グループで練習すると、短時間で全員が英語を運用することができる。

到達目標

1. より高度な情報、専門的な分野の情報を理解する力を養成する
2. より高度な言語情報を処理し、発信する力を養成する
3. 外国語で書き、プレゼンする力を養成する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解、 -2 異文化の理解・尊重、 -3 外国語コミュニケーション

内容

本科目は、ミュージカル的なテレビドラマの_glee_を通して英語を学ぶ。セリフ部分はほぼナチュラルスピードで、挿入歌ではそれよりもやや遅いスピードの英語を楽しむ。

教科書の各ユニットには、語句の下調べ問題の後、シナリオの穴埋め聞き取り問題がある。答え合わせをした後、セリフをペアワーク・グループワークで人物になりきって演じる練習を行う。

1	1. New Directions/励ます/動名詞
2	2. What's the Other Option?/決意を示す/仮定法
3	3. You're Leaving Us?/驚きを示す/現在完了形
4	4. Don't Stop Believing/説得する/関係詞
5	Units 1-4 まとめ、Episode 1 映像視聴
6	5. He's Not Coming/謝罪する/不定詞
7	6. I Want In/称賛する/分詞
8	7. Where Is Everybody?/落胆を示す/関係詞
9	8. You Inspire People/話を切り出す/使役動詞
10	Units 5-8 まとめ、Episode 3 映像視聴
11	9. He Doesn't Belong Here./感謝を示す/進行形
12	10. So Be It/会話を打ち切る/受動態
13	11. It's a Win-Win for Both of Us/確認する/不定代名詞
14	12. Thanks for Telling Me/打ち明ける/仮定法
15	Units 9-12 まとめ、Episode 4 映像視聴

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ダウンロード音声を利用して、教科書のPreviewing & Viewing Activitiesを解く。

第5, 10, 15週の事前には、空欄聞き取りをした部分を復習して言う練習をする。(毎週45分)

【事後学修】既習事項を確認し、穴埋め部分以外のスクリプトにも目を通すこと。(毎週45分)

評価方法および評価の基準

事前準備の取り組み20%、授業への参加度20%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】試験は複数回行い、次週以降の授業中に返却して質問に答える。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】角山照彦/Simon Capper, 『グリー』で学ぶコミュニケーション英語 (_Communicate in English with glee: New Directions_), 松柏社。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	映画・ドラマ英語		
担当教員名	榊原 理枝子		
ナンバリング	KKc240		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の外国語目的別科目の選択科目。

科目の概要

英語のドラマや映画を教材として英語を学び、英語の語彙力、文法力などを高め、また英語の音声に慣れ、英文を正しく読み取り、聞き取れるようになってもらうことを目指します。また、英語を話す力、書く力を研鑽し、英語で意思などを表現できるようになってもらうことを目標とします。さらに、英語圏文化への理解を深めてもらいます。

授業の方法

アクティブ・ラーニングの実践として、学生に英語での発言や発表などをしてもらったり、小テストを受けてもらいながら授業を進めます。【ミニテスト】

到達目標

- (1)英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を正しく読解でき、聞き取り、また英文を書くことができる。
- (2)英語の文法、語彙、音声などについての知識を深め、英語を話す力を伸ばし、英語で意思などを表現できる。
- (3)英語圏文化についての知識を深め、理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目指します。

- 1外国語基礎理解 -2異文化の理解、尊重 -3外国語コミュニケーション

内容

(授業の方針)

- (1)テスト、試験類は実施後正解を配布。採点して翌週に返却、解説。
- (2)定期試験は最後から2番目の週に実施。最終週には返却、解説。定期試験だけではなく返却解説も欠席不可。
- (3)就活、公欠など正当な欠席の場合、また定期試験欠席の場合は、就活の証明や診断書などの証明が必要。
- (4)出席不足などで単位取得が危うくなってから課題等で救済というのは本人のためにならないのでいけません。

(5)テスト等は欠席しても別日程で受けることはできません。(実施後正解を配布するため。)また、課題での代替もできません。欠席しないように注意。(ただし実習などの場合は別。)

(6)授業内の発表も、授業進行上の理由で原則別日程ではできませんから欠席しないように注意してください。

(授業の内容)

大人気のドラマSherlock: “A Scandal in Belgravia” (2012) (シラバス上では

表示できませんが、タイトルのSherlockはイタリック)を教材とします。このドラマは、19世紀末から20世紀

初めにかけて活躍したとされる名探偵シャーロック・ホームズが現代にいたら・・・という設定で展開されます。ドラマの進展に心躍らせながら勉強できると思います。

ドラマを見て英語を勉強することによって、語彙力、リスニング力などはもちろん、文化などについての知識も身につけてもらい、広い意味での英語力を高めてもらうことを目標とします。

また、ドラマに関連した会話などもしてもらい、実際に英語を使う練習もしてもらいます。

(授業進行予定)(学生の理解度や関心に依じて以下の予定を変更することがあります。)

(1回目)オリエンテーション(2回目)名探偵シャーロック・ホームズに見る社会、文化、歴史。シャーロック・ホームズと宿敵モリアーティとの対決。(3回目)悪女アイリーン。イギリス王室を巻き込んだ騒動。(4回目)名探偵の兄マイクロフト・ホームズは国家を動かす能力と権力を持つ。そんな兄からの依頼とは?(5回目)アイリーンとの対決。

(6回目)謎解き。(7回目)クリスマスの出来事。(8回目)恋?(9回目)CIA(10回目)新年(11回目

)再会(12回目)愛とは?(13回目)決着。そしてアイリーンは?(14回目)まとめ(15回目)総復習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

(事前学習)配布教材などの指定箇所を勉強する。ドラマの理解に必須の英語的、文化的な知識を身に付けてくる。小テスト、ロールプレイング、発表等の準備。(各授業に対して45分以上)

(事後学習)配布教材などを復習。また、返却された小テストの復習。授業に出てきた英語表現も覚える。その際、音声は聞いて発音する。(各授業に対して45分以上)

*英語は一度にまとめて勉強するのではなく、毎日勉強してください。「各授業に対して45分以上」とは、毎日の勉強時間の合計が、1回の授業につき事前・事後学習それぞれ45分以上という意味です。つまり事前・事後学習を合わせた1回の授業に対する毎日の勉強時間の合計が90分以上です。

評価方法および評価の基準

到達目標(1)(3)

英語圏文化についての理解を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語の読解力、聴解力、また書く力を付ける。

=>読解、聴解などに関する授業中のアクティビティ:30%

=>文法、語彙、表現、読解力、聴解力などに関する小テストや定期試験:50%

【フィードバック】

*小テストは終了後、正解発表。そして実施の次の授業で返却し、今後の学習に活かしてもらいます。小テストの結果によっては同じ範囲をまたテスト範囲にすることもあります。

*定期試験は最後から2番目の授業で実施。試験終了後、正解発表。そして最終週には答案を返却、解説。

到達目標(2)(3)

英語圏文化についての知識を深め、文法、語彙、音声などについての知識を高め、英語を話す力を伸ばす。

=>授業中のロールプレイング、発言、発表など:20%

(単位取得について)

*上記の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とします。

*単位取得には3分の2以上の授業参加と定期試験を受けていることが必須。原則として定期試験は欠席しないでください。やむを得ず定期試験を欠席する場合は診断書等の証明と、指定した時刻までに指定したアドレスへのメールがないと単位

は取れません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）担当教員作成の教材を配布。=>授業で扱うドラマSherlock: “A Scandal in Belgravia” (2012)（シラバス上では表示できませんが、タイトルのSherlockはイタリック）の解説。これ以外にも文法や表現などの説明の教材を必要に応じて配布。

（辞書）辞書はお持ちの物を初回から持って来てください。スマホ等による代用禁止。（授業中はスマホ等はしまっています。授業に集中してもらうためです。）辞書をこれから購入する予定の場合、初回以降に購入でも構いません。失敗を防ぐためです。

（推薦書）授業で適宜紹介。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- (1)体調管理に注意し、欠席しないようにしてください。そして万が一欠席の場合は、欠席したために宿題などが分からず次の授業に支障をきたすといったことのないように、授業についてお友達に教えてもらうなどの対策をとってください。
- (2)Live Campusによる授業連絡（授業終了後の質問への回答を全員に周知する必要がある場合や宿題の説明など）は随時行いますから注意しておいてください。
- (3)詳細は初回に配付。またCALL教室の使い方を覚えてもらわないといけないので最初数回は欠席しないでください。
- (4)授業で配布するデータ教材の保存や宿題の発表などのためUSBが必要。毎回持ってきてください。

科目名	インターネット英語		
担当教員名	宮崎 順子		
ナンバリング	KKc241		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、全学共通科目「外国語目的別科目」領域の選択科目です。

科目の概要 さまざまジャンルの英語に触れることによって、幅広い英語コミュニケーション能力を育成することを目指す。

授業の方法 (ALを含む) 練習問題を通して、授業ごとに、各章のテーマに沿った基本的な語彙や表現、特徴的な英語の文体を学んでいく。また、グループワークを取り入れて、それぞれが見つめてきたインターネットサイトの紹介を行う。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

- (1) 各テーマに関する基本的な語彙や表現の意味を理解し、その知識を活用できるようになる。
- (2) 簡単な英語のメールなどを書くことができるようになる。
- (3) インターネットを利用して、効率的な情報収集ができるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係 -1 外国語基礎理解 -2 異文化の理解・尊重 -3 外国語コミュニケーション

内容

1	授業の進め方 Business Email その1
2	Business Email その2
3	At the Reception Desk
4	Corporate Websites
5	Company Profile
6	Product Advertisements
7	Product Specifications Operating Instructions
8	グループで探してきたインターネットサイトの発表 (1) 【グループワーク】【プレゼンテーション】
9	Talking about the News
10	Science News
11	Tourist Information
12	Dinner Talk
13	Data and Graphs

14	グループで探してきたインターネットサイトの発表(2)【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】(1)わからない語句を調べておくこと。(2)指定した箇所の予習または課題をやってくること。毎週30分～1時間程度。

【事後学習】授業で学習した箇所の復習。毎週30分～1時間程度。

評価方法および評価の基準

期末テスト50%、復習のための小テスト・授業内での発表40%、発言等をもとにした授業への参加度を10%とし、評価60点以上を合格とする。なお、で設定したそれぞれの目標の評価の割合は以下の通り。

(1)期末試験(20%) 小テスト・授業参加度(20%)

(2)期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(15%)

(3)期末試験(15%) 小テスト・授業参加度(15%)

【フィードバック】復習のための小テストは採点して翌週返却をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】辻本智子、野口ジュディー、深山晶子他著『Getting Global! Engineer Your Future with English』金星堂

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

指定箇所を予習したうえで、積極的に授業に参加してください。授業で学んだことの復習も欠かさないようにしましょう。

科目名	メディア英語		
担当教員名	宮本 正治		
ナンバリング	KKc242		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 目的別科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

現在、情報の多くが英語でやりとりされています。この授業では、グローバル化した現代社会を読み解くための基本的な知識を英語で学びます。この科目は、共通科目の外国語 (目的別科目) の選択科目です。

科目の概要

テキストは、インターネットやSNSなどのメディアが私たちの生活に与えた影響についてのエッセイを使用します。現代世界の様々な出来事や問題に対する知識、関心を深めながら読み進めていきます。

授業の方法 (ALを含む)

授業では、毎週1つのトピックについて読みます。また、その問題について受講者各自が調査した内容を発表してもらう予定です。【プレゼンテーション】

到達目標

受講生は(a)辞書を使ってやさしい英文が読むことができる。(b)「科目の性格」に記した内容について自発的に情報を収集できる。(c)自分が考えたことを発表できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-1外国語基礎理解 -2異文化の理解・尊重 -3外国語コミュニケーション

内容

すべての文章を訳すのではなく、パラグラフごとの大まかな内容の確認を行います。もちろん、難しい文章や重要な文章の読解も行います。受講生同士が意見を交換しながら、理解を深めていきます。また、インターネットなどから情報を集めて発表することで、テキストの内容を補完します。

どのチャプターをどの週に行うかは、受講者と相談して決めたいと思います。

1	ガイダンス
2	chapter 1: Fake Online Reviews (その口コミは本物?)
3	chapter 2: Could I Become a YouTuber? (憧れのYouTuberになる条件)
4	chapter 3: Selling Viral Videos Makes Big Money (口コミ動画で大金をゲット?)
5	chapter 4: Why Don't We Ask Siri? (なんでSiriに聞かないの?)
6	chapter 5: Uncanny Valley (ロボットが越えなければならない「不気味の谷」)

7	chapter 6: Toddlers and Technology (幼児にスマホを与えても大丈夫？)
8	chapter 7: Waiting in Line for Delicious New Food (おいしいものは並んででも...)
9	chapter 8: Sympathy for the Delivery Man (宅配ドライバーに愛の手を)
10	chapter 9: Black Friday (ブラックフライデーは買い物に行こう！)
11	chapter 10: Aspects of Sneaker Culture (スニーカー人気の秘密)
12	chapter 11: The Union Jack as Fashion Symbol (ファッション業界大注目の...)
13	chapter 12: Photogenicity (インスタ映えする写真が撮りたい！)
14	chapter 13: Young People and Criticism (批判を恐れる若者たち)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストを読み、わからない点をはっきりさせて授業に臨んでください。発表担当者はプレゼンの準備をしてください。所要時間45分以上。

【事後学修】テキストを読みなおし、学習したトピックについてのニュースなどに注意する。時間は各受講生の理解度によります。所要時間45分以上。

評価方法および評価の基準

到達目標それぞれに対する評価方法は、(a)平常点20%、試験20%、(b)平常点20%、試験10%、(c)平常点20%、試験10%とします。

評価基準は総合評価60%以上を合格とします。

【フィードバック】発表に対してコメントします。また、有益な情報があれば共有したいと思います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『もっと知りたい！社会のいま 2 Trend Watching 2』

Jonathan Lynch、委文光太郎著、成美堂、1900円 (授業内で使用する。)

【推薦書】【参考図書】授業内で指示します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	KKc343		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-目的別科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語（目的別科目）の選択科目です。

前期は特に、伝わる文章を書くために必要な論理的思考力を養成しながら、「書く」力を伸ばすことを目指す。後期は特に、プロフィシェンシー（実際の日本語場面で場に応じた日本語を使う力）を高めることを目指す。一年を通して、グループでの意見交換、個人の発表の時間も設けることにより、他者と協働しながら学ぶ姿勢も養う。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマを設定し、課題をこなしながら、最終的に、自分の意図する事柄を読む人に正しく伝わる文章が書けることを目指す。その過程で、他の受講者と書いたものを添削し合ったり、意見交換を行ったりする。

授業の方法（ALを含む）

毎回のテーマに関する講義を受け、それに関する課題に取り組む。

個人またはグループで課題に取り組み、それをもとに話し合ったり、発表を行ったりする。

【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（表現）】【リアクションペーパー】

到達目標

前期：自分の伝えたい内容を整理し、筋道を立てて表現することができる。

後期：場面や状況に応じたスタイルを選択し、伝えたいことが相手に伝わる文章を書くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1外国語基礎理解、 -2異文化の理解・尊重、 -3外国語コミュニケーション

内容

第1回 オリエンテーション

第2～3回 思考を整理する

第4～7回 読み取る力を鍛える

第8～14回 表現する

第15回	前期まとめ
第16回	文のスタイル
第17回	アポイントを取る
第18回	誘い
第19回	依頼
第20回	授業についてのコメントを書く
第21回	謝罪
第22回	伝言
第23回	問い合わせる
第24回	ノートをとる
第25回	意見文1 意見文を書く
第26回	レポート1 作文とレポートの違い
第27回	意見文2 発表
第28回	レポート2 レポートを書く
第29回	レポート3 推敲する
第30回	後期まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】添削後に返却された文章を次の授業までに書き直し、ワードに打ち込む。(毎回60分程度)

【事後学修】復習を必須とし、以後記す文章において、同じ誤りをしないよう、添削を受けた事柄をノートにまとめる。(毎回60分程度)

評価方法および評価の基準

授業への取り組み30(前期15、後期15)、適宜課す課題・試験70(前期35、後期35)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問はその場で受け付ける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】なし。プリントを配布する。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（新座の祭りとまちおこし）		
担当教員名			
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2年	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無し

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

地域文化について学び実践するための授業

科目の概要

「大江戸新座祭り」は27年度より開催されており、地域の学校、企業、その他収容団体が参画して市の中心的な行事となっている。また市長が提案している「快適未来都市プロジェクト」においても町おこしの重点項目として位置づけられている。本科目ではまた28年度に本学と新座市商工会青年部の連携により、産業フェスティバルにおいて「阿波踊り教室ステージ企画」を開催した実績に基づいて、本科目についても新座市商工会青年部の協力をいただく。

授業の方法（ALを含む）

必要な教材は直接配布する。演舞指導に従って、実際に踊りの技術を体感し、身に着ける【実技】

学修目標（＝到達目標）

- 1．大和田はだか祭り」などを含む、新座における祭りの歴史と現状について理解できる。
- 2．日本3大盆踊りの一つである阿波踊りの歴史について理解できる。
- 3．「大江戸新座まつり」の意義と課題などについて理解できる。
- 4．阿波踊りの実習を行い「大江戸新座祭り」に十文字連として参画することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 6就業観を養う力
- 2地域と社会の理解・参画

内容

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 新座の祭りと町おこしについて（ガイダンス） |
|---|-----------------------|

2	新座の祭りの歴史と現状
3	大江戸新座まつりの意義と課題
4	阿波踊りの歴史と基礎知識
5	阿波踊りの基本動作（1）男踊り
6	阿波踊りの基本動作（2）女踊り
7	阿波踊りの鳴り物について
8	衣装と連の構成
9	阿波踊り実習（1）
10	阿波踊り実習（2）
11	十文字連の構成
12	十文字連による実習（1）
13	十文字連による実習（2）
14	大江戸新座祭りへの参加にむけて
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当（踊り、鳴り物など）についての事前練習（1時間程度）

【事後学修】自分の担当（踊り、鳴り物など）についての事後練習（1時間程度）

評価方法および評価の基準

1．大和田はだか祭り」などを含む、新座における祭りの歴史と現状について理解できる。2．日本3大盆踊りの一つである阿波踊りの歴史について理解できる。3．「大江戸新座まつり」の意義と課題などについて理解できる。

（授業に対する取り組み、授業ごとの課題を30%）

4．阿波踊りの実習を行い「大江戸新座祭り」に十文字連として参画することができる。（大江戸新座祭りへの参加態度、パフォーマンス70%）

総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特にありません 必要な資料は授業で配布します

【推薦書】

【参考図書】

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（野村証券）		
担当教員名	松本 晃子、込江 雅彦		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

野村証券による冠講座であり、すべての講義を野村証券の営業職員が担当する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は野村証券の冠講座であり、共通科目の総合科目として開設されるものである。

科目の概要

「資本市場と証券投資の基礎」として経済学の基礎から資本市場の全容、そして株式投資・債券投資、グローバル証券投資・分散投資の方法やリスクとリターンの考え方などを実務の観点から解説します。

授業の方法（ALを含む）

野村証券が作成したプレゼンテーション資料を基に、講義を中心とする。資料は最新のデータを用いている。また、一部ライフプランの作成など実際の業務を体験する。

到達目標

1. 経済学の基礎を理解する。
2. 債権投資の基礎を理解する。
3. 株式投資の基礎を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学共通科目の総合科目のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 課題発見能力

内容

1	ガイダンス
2	経済事情事始め
3	金融の仕組み
4	リスク&リターン
5	ポートフォリオの考え方
6	債券市場の役割と投資の考え方
7	株式入門の役割と考え方

8	投資信託入門
9	外国為替のいろは
10	日本株の歴史
11	これからの成長産業
12	投資家心理学を学ぶ
13	ライフプランニング1
14	ライフプランニング2
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】経済ニュースを読む。（各授業に対して45分）

【事後学修】授業で扱うプリントを用いて、復習する。（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

中間試験（30%）、最終試験（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標である経済学の基本、証券、株式の基本について理解する。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日本最大の証券会社による授業なので、配布される資料を参考に学習してください。

科目名	総合科目（日中異文化理解）		
担当教員名			
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有。

実務経験および科目との関連性

中国語と日本語の通訳者としてバレーボール関係をはじめ、新座市の国際イベントで通訳したことがある。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

ねらい

科目の性格

本科目は日本人学生および留学生両方を対象としています。日本人学生には「初めての中国」、留学生には「さらに知りたい日本」をテーマに言語と文化の両視点からの授業展開となる。

科目の概要

担当教員の他、学内外の講師も招く予定である。日本人学生にとって一衣帯水の関係を持つ隣国である中国の文化や言語に触れ、中国の人口、民族、風習などに関する基礎知識を得ていく。また、留学生にとって更に一歩進んだ日本文化への理解を目指す。

授業の方法（ALを含む）

基本は講義の形で進んでいく。グループ討論も入れる予定でいる。

到達目標

まず、自分の母語とその文化を客観視できるようになる。その後、異文化・異国の言語の基礎を理解できるようになる。日本人学生は自分の名前を中国語で言えるようにする。留学生は日本語で体験した文化を口頭発表できるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することになる。

-4創造する力、 -3協働する力、 -9 実践する力

内容

この授業は講義、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。主な内容として中国語の基礎知識（地図、人口、民族、風習）をはじめ、主な祝日、有名観光地、京劇、民間芸術、お茶の文化など様々なテーマを取り上げる。中国の文化を学ぶと同時に日本文化への理解も深めていく。茶道など日本文化に関するテーマも取り上げる。また、言語について中国語の発音の基礎を練習し、リズムに慣れていく。さらに、日本人学生と留学生のグループワークも予

定しており、互いに会話ができるような場を提供するので、積極的に取り組んで欲しい。詳細はガイダンスの時に紹介する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

事前準備：次回取り上げるテーマについて調べる。(各授業に対して45分)

事後学習：習った単語などを復習し、気になった内容を調べていく。自ら質問をするようになる。(各授業に対して45分)

評価方法および評価の基準

授業への参加態度：20%

課題の提出：20%

自分の母語とその文化を客観視できるようになる：20%

異文化・異国の言語の基礎を理解できるようになる：20%

(以下、どちらかになる)

日本人学生は自分の名前を中国語で言えるようになる。20%

留学生は日本語で体験した文化を口頭発表できるようになる。20%

上記の内容と割合をもととし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：なし(購入する必要がない。)

参考図書：(おすすめの書籍で、読んだら日本と中国への理解が深まる。)

『日本のタテヨコ』(学習研究社 2001 改定第4版)

『Q&Aでわかる中国人とのつき合いかた』本名信行・羅華(著)(大修館書店 2018)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ぜひ自ら色々考えて、気になることをどんどん調べて欲しいです。また、積極的に質問もして欲しいです。

科目名	総合科目（和食文化概論）		
担当教員名	土井 善晴、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「十文字学（学びの基盤をつくる）」領域に配置された選択科目である。特定の題目「和食」について、特に自由に、創造的に扱うことによって、学生自らが学ぶ意欲と姿勢、思考力を獲得できるように、基礎的な理論から映像利用による具体的な食の実践など多方面から理解を深める。生きるための食に資する知識・能力・態度を学修する。

科目の概要

東アジアの孤島 その気候風土と共鳴するように生活し、大陸からもたらされた文明に影響を受けながら、育まれた民族の食文化とはなにかを学び、理解し、「和食」とは何かを考察する。 後年行われるであろう食の活動の土台となる和食の基本思想を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義や食品材料を具体的に示すデモンストレーションによる解説を行う。学習過程で得られた知識や考察、意見などを論理的に文章で表現するためにレポートライティングなども行う。また、ディスカッションも取り入れる。【レポート（表現）】【討議・討論】

到達目標

到達目標1. 「和食とは何か」を説明することができる。

到達目標2. 「和食」について、気づきや問題点などを表現し、他者に伝えることができる。

到達目標3. 学習内容を活用し、日常の食事（一汁一菜）を実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-5：論理的に表現する力、 -6：就業感を養う力、 -9：実践する力

内容

この授業は、講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら学びを深める。

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

1	清潔（和食文化の起源）
2	ご飯（稲・粳・玄米・米（白米）・ごはん）粥・餅
3	味噌汁（味噌の製法・味噌汁の作り方）
4	一汁一菜（和食のスタイル・進化）
5	食育（家庭教育としての食）
6	「料理する」意味：五感を使う・感受性・予測する能力
7	ケハレ（背景にある日本の風土）（現代の食）
8	ケハレの調理法（栄養評価）
9	旬を食べる意味（季節感・旬を楽しむとは）
10	魚食文化（衛生管理）
11	器と料理（器の種類・民芸と工芸・器と料理の関係性）
12	流通システム（自然から食卓へ）
13	調理デモンストレーション（調理学実習室にて）
14	和食の調理法（焼く・蒸す・炒る（揚げる）・切る（なます）・にる（炊く））
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業を受けるにあたり、初回にご紹介する教科書を確認しておく。[60分]

【事後学修】一汁一菜の食事を実践する。[120分]

評価方法および評価の基準

授業への取組み状況（50%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業時に説明する。

【推薦書】初回の授業時に説明する。

【参考図書】初回の授業時に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

科目名	総合科目（和食文化概論）		
担当教員名	土井 善晴、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、共通科目「十文字学（学びの基盤をつくる）」領域に配置された選択科目である。特定の題目「和食」について、特に自由に、創造的に扱うことによって、学生自らが学ぶ意欲と姿勢、思考力を獲得できるように、基礎的な理論から映像利用による具体的な食の実践など多方面から理解を深める。生きるための食に資する知識・能力・態度を学修する。

科目の概要

東アジアの孤島 その気候風土と共鳴するように生活し、大陸からもたらされた文明に影響を受けながら、育まれた民族の食文化とはなにかを学び、理解し、「和食」とは何かを考察する。 後年行われるであろう食の活動の土台となる和食の基本思想を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義や食品材料を具体的に示すデモンストレーションによる解説を行う。学習過程で得られた知識や考察、意見などを論理的に文章で表現するためにレポートライティングなども行う。また、ディスカッションも取り入れる。【レポート（表現）】【討議・討論】

到達目標

到達目標1. 「和食とは何か」を説明することができる。

到達目標2. 「和食」について、気づきや問題点などを表現し、他者に伝えることができる。

到達目標3. 学習内容を活用し、日常の食事（一汁一菜）を実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-5：論理的に表現する力、 -6：就業感を養う力、 -9：実践する力

内容

この授業は、講義を基本とし、ディスカッションを取り入れながら学びを深める。

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

1	清潔（和食文化の起源）
2	ご飯（稲・粳・玄米・米（白米）・ごはん）粥・餅
3	味噌汁（味噌の製法・味噌汁の作り方）
4	一汁一菜（和食のスタイル・進化）
5	食育（家庭教育としての食）
6	「料理する」意味：五感を使う・感受性・予測する能力
7	ケハレ（背景にある日本の風土）（現代の食）
8	ケハレの調理法（栄養評価）
9	旬を食べる意味（季節感・旬を楽しむとは）
10	魚食文化（衛生管理）
11	器と料理（器の種類・民芸と工芸・器と料理の関係性）
12	流通システム（自然から食卓へ）
13	調理デモンストレーション（調理学実習室にて）
14	和食の調理法（焼く・蒸す・炒る（揚げる）・切る（なます）・にる（炊く））
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業を受けるにあたり、初回にご紹介する教科書を確認しておく。[60分]

【事後学修】一汁一菜の食事を実践する。[120分]

評価方法および評価の基準

授業への取組み状況（50%）、最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業時に説明する。

【推薦書】初回の授業時に説明する。

【参考図書】初回の授業時に説明する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

初回の授業において履修希望者が多数の場合には、受講制限を行うことがある。

科目名	総合科目（中山間地域に学ぶ）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

87年から四年間宮城県中学校教諭、91年から2年間東北高校兼任講師。

学校教育実践を踏まえた内容にも、取り組みます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、COC（センター・オブ・コミュニティ）「知（地）の拠点事業」により、開発した地域から学ぶ授業科目です。埼玉県比企郡小川町および、秩父郡皆野町で、地域の方たちから、郷土の歴史や文化などを学び、自己成長を図るためにカリキュラムを開発します。参加する受講生のみなさん自身が学ぶことについて、考える授業です。平成30年度から開始しました。考えながら学ぶことになると思います。

「総合科目」は、共通教育科目のなかの選択科目です。後期木曜日の2限目に時間を設定しますが、週末や休みの日を利用して、埼玉県比企郡小川町や秩父郡皆野町に出かけます。学外で、学外の人たちとともにお話をしたり、お手伝いをしたりします。

問題を発見し、解決する展開を指導します。いわゆるPBL型の授業です。

○仲間とともに、地域に入り、地域の方たちと話し合ったり、ともに働いたりすることができるようになる。

○教室で仲間とともに中山間支援の中身を相談したり、企画したりすることができる。

○中山間地域と都市部との仲立ちができるような企画を考え、実行することができる。

「 -2地域と社会の理解・参画」と深く関わる授業です。さらに、「 -1~5読解力、文章表現力、資料活用力、想像力、論理的表現力」とも関わります。

内容

アクティブラーニングとして、討論、口頭発表、実地調査、省察とその交流を行ないます。

○講義は、後期木曜日の2限目に開講しますが、ここでの学修は、地域の歴史や文化を知り、どのような交流や支援ができるかを考える時間とします。仲間とともに、地域を知り、地域の良さ、課題などについて話し合います。

○活動は、週末や休日など、大学の授業がない日に行います。

○これまでの活動は、おおよそ次のようでした。実際の日程は、後期の授業が開始されたあとで履修者のみなさんと相談しながら決めます。

（活動例） 内容は、これまでの取り組み例です。必ずこのようにするというものではありません。

○大河地区民体育祭への協力（10月上旬）

○ソバの収穫をお手伝いする（11月）

○ソバ、うどん打ちを学ぶ（12月下旬）

○生芋こんにやくづくりを学ぶ（1月中旬）

○生芋こんにやくを使った加工品を創作する（1月下旬）

○新座駅前商店会主催のチャリティー餅つき大会で、中山間地の郷土食を紹介する（2月上旬）

○収益金を新座市こぶし福祉基金に寄付する（3月上旬）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教室で示した資料を読解し、中山間地域についての理解をふかめ、授業にのぞみます。授業の前に45分以上の勉強が必要です。

【事後学修】授業を踏まえ、中山間地域についての理解をさらにふかめ、省察します。授業の後で、さらに45分以上の勉強が必要となります。

評価方法および評価の基準

レスポンスカードの記入内容1割(授業前学修、授業への主体的取り組み状況確認)、最終レポート8割(地域社会への理解、地域貢献への理解度確認)、参加状況1割(協働性等確認)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レスポンスカードの内容により、活動内容を修正します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教室でプリントを配布します。

【推薦書】教室で参考となる本を紹介します。

【参考図書】学修や活動の参考となる本を、教室で紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（デザイナーのように考える）		
担当教員名	杉元 葉子		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

建築デザインの経験を通して得たデザイナーとしての思考を授業に生かす

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部共通科目「総合科目」の一つであり、仕事の場など社会における汎用能力の育成に関わる。

科目の概要

意図をもってかたちをつくることすべてはデザインの対象であり、デザインはデザイナーだけのものではない。デザイナーが身につけている、よりよい解を柔軟に探し出す「こつ」は、＜デザイン思考＞としてビジネスでも社会活動でも注目されている。幅広くデザインの紹介からはじめ、デザイナーのように発想しながら柔軟に課題と向き合うことを学ぶ。事前に美術的な知識やスキルは不要

授業の方法（ALを含む）

講義の他、一部授業内容にかかわる実技、グループワークなどのALおよびPBL型の授業とする。【実技】【グループワーク】【PBL】

到達目標

身近な世界を一步良くする潜在的な力や気持ちは誰もが持っている。その一步を踏み出し、発想をかたちにしていく方法の基礎を身につけ、そこから社会で貢献する力を身に着けることが目標である。

- （１）身近に課題を発見することができる
- （２）課題解決へのプロセスに習熟し、論理的に提案を導くことができる
- （３）課題解決への提案を的確に表現することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、ディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -4創造する力、 -6就業観を養う力、 -9実践する力

内容

1	オリエンテーション/＜デザイン＞とは何か
2	近代のデザイン
3	現代のデザイン
4	デザイン・マインドへのウォーミングアップ
5	クリエイティブ・シンキング
6	デザイン・マインドの実践 ユーザーを深く知る/課題をつかむ

7	デザイン・マインドの実践 アイデアを創出する
8	デザインのプロセスと<デザイン思考>
9	デザインの現場から まちと建築のデザイン [学外講師：池田雪絵先生]
10	デザインの現場から 地域とブランドのデザイン [学外講師：大井鉄也先生、大井福也先生]
11	地域のデザインを考える
12	デザインにチャレンジ STAGE 1 課題を見つける
13	デザインにチャレンジ STAGE 2 提案を導く
14	デザインにチャレンジ STAGE 3 表現する
15	発表とまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業外での観察と記録など、アクティブラーニングに必要となる準備を授業で指示する。45分程度。

【事後学修】授業の進行に合わせて各自の課題を進めておく。また授業で紹介する参考資料を自習する。45分程度。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー30点、中間課題20点、最終課題50点として、総合評価60点以上を合格とする。

リアクションペーパー及び中間課題は各回の授業の理解度を評価する。最終課題は、(1)課題発見、(2)提案へのプロセス、(3)提案の表現、をどの程度的確に修得できているかを評価する。

【フィードバック】課題等に対してコメントをフィードバックする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じてプリントを配布する

【推薦書】授業内で紹介する

【参考図書】 原研哉 『デザインのデザイン』 岩波書店

佐藤可士和 『佐藤可士和の超整理術』 日本経済新聞出版社

佐藤可士和 『佐藤可士和のクリエイティブシンキング』 日本経済新聞出版社

その他授業内で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

私たちの生活世界をは、大小たくさんの<デザイン>が重なって形づくられています。正解はありませんが、生活世界は私たちの選択と実践によって、少しずつでもよくすることはできます。多くの人に参加して一緒に考えていくことができるといいと考えます。社会情報デザイン学科専門科目「デザイン思考入門」と一部重複しますが、互いに補完する科目です。

科目名	総合科目（オリンピックムーブメント5）		
担当教員名	石山 隆之		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセイビングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。スポーツで地域を盛り上げるシンポジウムの開催など多数あり、その分野の調書も出版している。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「総合科目」は、共通科目「学びの基礎をつくる」領域に配置されており「地域で学ぶ」「読書入門」「総合科目」の3科目から1科目選択必修科目となっている。

学外の企業、団体、有志などの協力を得て、「地域活性とスポーツビジネス（地域発信）」の観点から、受講生ひとり一人が、東京五輪に参加する方法を自ら見出す力を養う。そして、TOKYO 2020に、十文字発 2020への発信のきっかけとしたい。地域発ムーブメント実践編として十文字が進めている学園型総合スポーツクラブや、「日本版NCAA」の「UNIVAS」などを軸に大学スポーツが社会的に期待されていることなどをテーマにしていくことで学生達の関与もしやすく、地域を始め講義のステークホルダーとの連携も関心をひく。また、本学は女子大学であるが故、女性アスリートの視点でも本講義を展開し、国連のSDG'sや Beyond2020をキーワードに授業を進める。

講義を聞くだけの聴講型の授業にとどまらず、ワークショップやプレゼンテーションなどのAL要素を取り入れ、学生主体の、スポーツを原動力とした社会貢献のアイデアを引き出すような展開を試みる。

過去に積み上げてきた授業の実績を引き続き発展させつつ、社会からの注目度が高く受講者にとって関心の高いテーマ（2020 TOKYO）を軸に講義を展開する。単なるオリンピックを受け身の講義型の授業でなく、学生らが2020に主体的に行動できるようにするため、履修学生一人一人がどのように東京五輪に参加できるかの思考を広げる事を目的とする。スポーツ庁を中心にスポーツSDGs スポーツで社会を変えるという考え方が、スポーツ国際戦略で提唱されています。その目標は、2020年ではなく、2030年をゴールとしたバックカastingという視点から地域発2020オリンピック・パラリンピック ムーブメント5 Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来。とし、「東京五輪に参加する方法を自ら主体的に考え、行動に移すことができる」授業にする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-4創造する力

-3協働する力

-9実践する力

内容

5月13日(水)

【担当】石山隆之

【内容】・ガイダンス イン트로ダクション オリパラレガシー・ムーブメント エッセンス SDGs概要の講義

【授業の方法】ZOOMにて講義

【出席】ワークシートをメールにて提出

【その他】授業を休校にした 3時間分の課題を提示します。(石山)

5月20日(水)

【担当】染谷栄一 十文字学園女子大学特命教授

【内容】・“Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来”をテーマに、この授業全体を俯瞰してもら

5月27日(水)

【担当】 八鍬晶子 十文字学園女子大学カレッジスポーツセンター特別招聘講師

【内容】

6月3日(水)

【担当】 マリブポイント代表取締役社長 高梨三(遠隔授業の場合は、変更予定) 担当;石山

【内容】テーマ『遊びを仕事にして飯を食う』

6月10日(水)

【担当】 染谷教授担当 キャスティング

スポーツ庁、JSC、JSP0 を検討

スポーツ栄養学Beyond2020 の健康社会実現の観点から管理栄養士(高橋大吾)を招聘検討

6月17日(水)

【担当】 染谷教授担当 キャスティング

スポーツ庁、JSC、JSP0 を検討

スポーツ栄養学Beyond2020 の健康社会実現の観点から管理栄養士(高橋大吾)を招聘

6月24日(水)

【担当】 染谷 栄一、石山 隆之、八鍬 晶子

【内容】ワークショップに向けた講義

スポーツ基本法に基づき、する・観る・支えるの各領域で、十文字女子学園が担う学園型スポーツクラブの未来像及び地域発オリンピックムーブメントづくりの基本的な考え方を受講生と共に整理します。また、日本の大学スポーツの発展の観点から、Beyond2020、スポーツSDGsが指し示す未来というテーマを軸にしつつ、十文字学園女子大学や地域社会にどのように落とし込んでいくのかを考え、受講生との共通理解を深め整理します。ワークショップについてのガイダンスとグループ分けを行います。

授業コマ数が例年より減少するので グループに対して課題を明確に提示します

7月1日(水)

【担当】 染谷 栄一、八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】

ワークショップ

前回の講義によって導かれた方向性から、する・観る・支えるを具体的に展開してゆく企画を受講生と共に策定します。テーマ別にグループ分けし、グループごと企画の実施計画をつくりあげ、授業内で確認いたします。

ワークショップ

アクションプランをさらに深く考察し、パワーポイントの整理や実際のプレゼンテーションのリハーサルを行います。課題の提出についてのガイダンスも行います。

7月8日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】ワークショップとグループ面談

7月15日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】 学生によるワークショップのプレゼンテーション(1)

ワークショップを通して作られた企画を、テーマごとにプレゼンテーションする機会を設けます。

7月22日(水)

【担当】 染谷 栄一、 八鍬 晶子、石山 隆之

【内容】 学生によるワークショップのプレゼンテーション(2)

7月29日(水)

【担当】 中江瑞紀(カレッジスポーツセンター)、石山 隆之

【内容】 総復習 まとめ 試験

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】オリパラ組織委員会ホームページ、スポーツ庁ホームページ「スポーツSDG's」を確認して、自分なりに内容を整理しまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたホームページ、オリパラTOKYO2020や「UNIVAS」「スポーツSDG's」について各自で内容を理解し、深める。復習ノートなどを作成したり、学生同士のディスカッションなどを行い理解を深めておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、毎回のリアクションペーパーやワークショップ30%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、追試験を行う。

【フィードバック】毎授業に前回授業の内容を振り返り、質疑に返答するなどして学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定の教科書は使用せず、プリント配布などをする

【推薦書】平田武男 スポーツビジネス最強の教科書 東洋経済新聞社

一般社団法人 Think the Earth 未来を変える目標SDG'sアイデアブック

【参考図書】 授業内で随時紹介していく

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

Tokyo2020から生まれた社会変革のレガシーを学生の皆さんとともに考え、学生の皆さんが 次世代を担っていく人材に成長するきっかけとなれば 嬉しい限りです。

科目名	総合科目（食の文化論）		
担当教員名	船曳 建夫、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

共通科目「学びの基礎をつくる」領域の選択科目である。健康や栄養についての他の科目を関連づけるために、広い見地から「食」について学ぶ。

科目の概要

「食」とは私たちが生存するために食べ物をからだに入れることである。しかし私たちは生活の中で食べ物を美味しいから、元旦にふさわしいからと選び、神が汚れと定めているからと避け、「からだ」だけではなく「頭」でも食べている。その「食べる頭」の中味について考える。

授業の方法（ALを含む）

私たちが食べ物についてどう考えているかを、

- 1) 毎回の講義の前半では具体的な事例を挙げて、そこに潜んでいる論理や仕組みを説明する。
- 2) 後半ではその論理や仕組みが私たち個人の食生活にどのように働いているか、またその論理や仕組みが私たちが生きている世界をどのように作り上げているかを、解き明かす。

到達目標

- 1) 「食」が、からだに食物、栄養を取り込む、というシンプルな行為以上の、広く大きな文化的、社会的な意味のあることを理解し、「食」について考え直す。
- 2) 「私」から世界に向かって：自分が「食」に美しさやおぞましさ、見栄や誇りを感じることによって、自分が外の世界と「食」を通じた関係を持っていることを生活のいろいろな場面で気づく。
- 3) 「世界」から私に向かって：私たちの食生活を成立させている地球規模のシステムのあること、そうした外側からの影響やルールによって私たちの食生活が作られていることを、自分自身の問題として理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間生活学部のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 4 創造する力 - 3 協働する力 - 9 実践する力

1	オリエンテーション 「食」は私たちの「すべて」であること 事例:「食わず嫌い」
2	ヒト(人類一般のこと)は何でも食べられるように進化した。それでも食べるものと食べないものがあるのはなぜ? ・事例:「ベジタリアン」
3	食べることと「結婚」すること 事例:すべてのヒトは結婚相手に「外の人」を選ぶ。しかし、「外の、そのまた外の人」は選ばない
4	食べることと「戦争」すること 事例:ヒトは「外の人」と戦争をするが、友だちにもなる。しかし、戦争もしないし友人にもならない相手とはどうなる?
5	食べることがあれば、「食べない」こともある 事例:断食、タブー、「ティファニーで朝食を」
6	料理の三角形 事例:「焼いたもの」と「生(なま)のもの」。鮭はどこに入る?
7	中休み:ここまでの講義で説明された「食」にひそむ論理と仕組みをおさらいする。
8	世界を制覇した食料、世界を旅する食物。 事例:胡椒、砂糖、ピザ、サンドイッチ、そしてSUSHI
9	ファーストフードはどこまで速くなるか? 事例:マクドナルドと回転鮭。
10	「共食」と「個食」が作る社会関係。 事例:祭りと宴、鍋物、インスタントラーメン。
11	「食」に見られる道徳と倫理。 事例:「フェアトレード」。
12	頂上で一休み:「頭で食べる」とはどういうことかをおさらいする。
13	鮭の過去と未来 事例:「小僧の神様」、ミシュラン三つ星。
14	神との食事、神話の食物 事例:「聖書・最後の晩餐」、『古事記』。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】受講者自身の「食生活」の中にある、講義内容の「事例」および前回の講義終了時に指示した問題点について関心を持ち、考えてくる。[30分]

【事後学修】講義内容と、受講者自身の「食生活」を結びつけてとらえ直してみる。[30分]

評価方法および評価の基準

講義期間中に一回、到達度を調べるための小レポートを提出(30%)、最終講義の「まとめ」において筆記試験を行う(70%)。それらの評価を合わせた総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

指定なし。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（「食う・着る・見る」のゼミナール）		
担当教員名	船曳 建夫、名倉 秀子、伊藤 美穂		
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学びの基礎をつくる共通科目である。大学における「知」を「生きる技法」ととらえ、日常生活の食べること、装うこと、観ること、について、あらためて考えなおし、実践してみる。繰り返しの受講は可である。

科目の概要

世界は豊かになっているが、その分、複雑になっている。その豊かな世界の複雑さに負けず、どうやってほしいものに手を伸ばせばよいのか。この科目では、食う、着る、見る、という単純で具体的なことを生きる方法ととらえ直して近づいてみる。世界という薄暗がりの中を歩き回るので、仲間が必要である。この授業は人に話をするのが好きな人、人の話を聞くのが得意な人に向いている。

授業の方法

- 1) 毎回の授業は「話す」ことで進める。話しが拡散しすぎないように、共通する「話題」として、本、雑誌、ネット、映画、テレビなど、だれもが手に入るものを使う。このゼミナールは、専門書講読ではない、一般的な「読書会」に近い。担当教員である私はそうした「読書会」を長年にわたって行ってきた経験がある。このセミナーは、必ず面白いものになる。
- 2) 毎回の授業で話し合われたことを発展させて、実際に「食う、着る、見る」を学外でも行いたい。その実現は難しいが、どうやって克服するか自体がこのゼミナールの到達目標でもある。目標をかなえるためには「強化合宿」も考えている。

到達目標

- 1) 「食う」ことが、からだに食物、栄養を取り込むという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「食」について気付き、考え直してみる。
- 2) 「着る」ことが、裸のからだを外界から保護するという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「衣」について気付き、考え直してみる。
- 3) 「見る」ことが、外界を察知するという生物的な行動以上の、広く大きな文化的、社会的な意味を持つことを理解し、「見る」ことについて気付き、考え直してみる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間生活学部のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

- 4 創造する力 - 3 協働する力 - 9 実践する力

内容

1	オリエンテーション 自己紹介と必要な場合は選抜を行う。
2	オリエンテーション(続き) 自己紹介と必要な場合は選抜を行う。
3	「食う」についての理論の説明。自分の食生活について語り合う。これからのゼミナールの内容として、「食う」の活動についての相談をする。
4	「食う」についてあらかじめ共有した小説、マンガ、雑誌などを「話題の種」として語り合う。
5	今回は、講義の流れから少し外れて、「豊かな世界」全体を見渡すための「重大問題発表会」である。あらかじめ担当教員が口頭で伝えた「種」を用いる。事例：小説『コンビニ人間』
6	「着る」ことについての自分を語り合う。語るほどのことがない、と思う人は、他の人の話を聞くのでよい。
7	「着る」ことについての、「広告」を「種」として、語り合う。
8	「着る」からだについて、考える。事例：「Fat Acceptance」とは何のことだろう？
9	「見る」ことについての自分を語り合う。「見る」の中心的なイメージは、「観劇」のことである。事例：タカラヅカ、ジャニーズ、歌舞伎、その他、何でも。
10	「見る」ことについて、みなで一緒に何を「観劇」するかの相談をする。(1)事例:第9回で出た劇やダンスをDVDで観る。
11	「見る」ことについて、みなで一緒に何を「観劇」するかの相談をする。(2)事例:第9回で出た劇やダンスをDVDで観る。
12	今回は、こうしたゼミナールで「語り合う」こととは何だろうか、について語る。
13	いままでで、取り落としたことについて、語り合う。この回では、あまり語らない人が語り、あまり人の話を聞かない人が、聞き手に回る。
14	食う・着る・見る、を総合する。この三つは、生活の中で重なる。「強化合宿」の可能性を探る。
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】演習参加者自身の生活の中にある、演習内容の「事例」および前回の演習終了時に担当教員が指示した問題点について関心を持ち、考えてくる。[30分]

【事後学修】演習内容と、演習参加者自身の生活を結びつけてとらえ直してみる。[30分]

評価方法および評価の基準

平常点を50点とし、演習時に課されたレポートの評点を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

当初の指定なし。演習の中で随時指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	総合科目（SDGs概論）		
担当教員名			
ナンバリング	KKA104		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-総合科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	講義	単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセイビングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。スポーツで地域を盛り上げるシンポジウムの開催など多数あり、その分野の著書も出版している。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。過去の総合科目では、スポーツで社会課題を解決する取り組み『スポーツSDGs』をテーマに講義を行う。また、サーフィンを通して、環境問題やCO2問題にも深い関心を寄せ研究活動を行っているなどの経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

「総合科目」は、共通科目「学びの基礎をつくる」領域に配置されており「地域で学ぶ」「読書入門」「総合科目」の3科目から1科目選択必修科目となっている。

2022年に十文字学園が創立100周年を迎える。「身をきたえ 心きたえて世の中に立ちてかひある人と生きなむ」に込められた教育理念を見つめ、さらに「変わらぬものの価値」「変わるものの価値」の選択眼を持って、新しい時代に柔軟に対応できる女性教育に突き進んでいくであろう。そのキーワードとなるのは、「持続可能な社会の実現」であり、何よりそのためには、次世代育成（Education for Sustainable Development）が重要である。学校法人に課せられた使命は、次世代の人材を育てることであり、社会変革の源泉となる人を育てる事。この考えは、先に述べた十文字の建学の精神に相通じる。今回開講する『SDG's概論 ～女性の自立と食糧支援そして気候変動を中心に～』は、このような人材を育成する足掛かりとなるように、受講学生らに世界の社会問題をSDG'sを学修することにより、深く意味のある問題意識をもって、持続可能な社会の為に何が大切かを自らが学ぶ姿勢を育てることを目的とする。

講義を聞くだけの聴講型の授業にとどまらず、ワークショップやプレゼンテーションなどのAL要素を取り入れ、学生主体の、スポーツを原動力とした社会貢献のアイデアを引き出し、将来実践するきっかけとなる授業にしたい。

15週という限られた時間での講義になるので、女性の自立、食糧問題（WFPの活動）、気候変動（映画；不都合な真実を活用）を主な題材に概要を理解するように授業を進める。授業の終盤には、学生によるワークショップを行う参加型の授業へと発展させていく。またSDG's関連に取り組む国際NGO/Plan Internationalらの取り組みや世界食糧計画（WFP）などの活動とリンクさせ、講師を招へいし、いま世界で起きている現場の声を届ける講義内容としたい。またSDG'sをより深く理解し問題意識を持ってもらうため、学生によるワークショップを授業で導入する。「SDG's活動を実践する方法を自ら主体的に考え、行動に移すことができる」授業を展開する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質能力を育成することを目的とする。

-4創造する力

-3協働する力

-9実践する力

内容

- ・9月21日（月）ガイダンス・イントロダクション
- ・9月28日（月）映画『不都合な真実』鑑賞
- ・10月5日（月）映画『不都合な真実』鑑賞
- ・10月12日（月）SDG'sの歴史と概要
- ・10月19日（月）SDG'sでできること
- ・11月2日（月）日本のSDG'sへの取り組み、SDG'sとビジネスチャンス
- ・11月9日（月）国連WFP講師招聘 特別講義（日程調整中）
- ・11月16日（月）一般社団法人 Think the Earth 特別講義（日程調整中）
- ・11月23日（月）ワークショップガイダンス
- ・11月30日（月）ワークショップ
- ・12月7日（月）ワークショップ
- ・12月14日（月）ワークショップ
- ・12月21日（月）プレゼンテーション&ディスカッション
- ・1月18日（月）プレゼンテーション&ディスカッション
- ・1月25日（月）まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】SDG's関連ホームページ、スポーツ庁ホームページ「スポーツSDG's」などを確認して、自分なりに内容を整理しまとめておく。（各授業に対して30分）

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたホームページや、国連の関連活動について各自で内容を理解し、深める。復習ノートなどを作成したり、学生同士のディスカッションなどを行い理解を深めておく。（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度40%、毎回のリアクションペーパーやワークショップ30%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、追試験を行う。

【フィードバック】毎授業に前回授業の内容を振り返り、質疑に返答するなどして学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定の教科書は使用せず、プリント配布などをする

【推薦書】SDG'sの基礎 事業構想大学院 出版部

一般社団法人 Think the Earth 未来を変える目標SDG'sアイデアブック

【参考図書】 授業内で随時紹介していく

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

未来の地球の姿を皆さんとともに考え、学生の皆さんが 次世代を担っていく人材に成長するきっかけとなれば 嬉しい限

りです。主体的に 授業に取り組み この授業を履修した学生同士が仲間となりましょう。

科目名	英語		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KKc224		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 英語		
学 年	2	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

全学共通外国語基礎科目枠の選択科目で、1年次で「英語Ⅰ」を履修し、2年次以降もさらに英語を学びたい人のための科目である。また、英語の教職履修者の必修科目である。通年科目であるので、後期の同じ時間帯に所属学科の必修科目等が入っていないか確認してから履修すること。

科目の概要

「英語Ⅰ」で養成した文法等の基本知識を活用し、英語の4技能のなかでも英文読解力と英文聴解力（英語を聞いて理解する力）を高める。また、これと併せて4技能の領域統合型の言語活動を通して英語発信力（書く、話すことによる表現力）も高めていくことを目標とし、総合的な英語力を伸ばす。

授業の方法 (ALを含む)

リスニングについては主に短いニュースのディクテーションと様々な分野（教育、社会、文学、自然科学など）のある程度まとまった内容の英語の聞き取りを個人またはグループで行う。リーディングでは、ある程度まとまった文章を正確に読み取る練習を行う。後期は、リスニングでは多聴、リーディングでは多読を中心にして、より多くの英語素材に慣れる。【ミニテスト】【グループワーク】

到達目標

- (1) 英語の基本的な構造や授業で用いる英語や様々な分野の基本的な語彙を理解し、使用することができる。
- (2) 短文のディクテーションをしたり、様々な分野のある程度まとまった英文を聞き、概要を述べることができる。
- (3) 様々な分野のある程度まとまった英文を読み、センスグループごとの意味を述べるができる。
- (4) 文章全体の概要を日本語や簡単な英語で記述することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目の以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解、 -2 異文化の理解・尊重、 -3 外国語コミュニケーション

内容

授業は、原則2～3週間単位で1つの内容を扱う予定である。扱う内容のまとめりにあわせて授業の冒頭で復習テストを行

う。短いニュースのディクテーションの後、1週目は、様々な分野のまとまった内容のリスニングと内容確認を行い、2週目はそのスクリプトを英文の構造を考えながらセンスグループごとに日本語で意味を理解する。また、英文の概要を英語でまとめる練習も行う。

前期週

1 プレテスト・オリエンテーション

2,3 教育分野

4,5,6 社会科学分野

7 人文科学分野

8,9 社会科学分野

10 自然科学分野

11,12,13 社会科学分野

14,15 前期まとめ

後期週

1, 2 教育分野

3,4,5 社会科学分野

6,7,8 メディアの英語

9,10 社会科学分野

11,12,13 人文科学分野

14,15 後期まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業では各内容の1週目は初出の英文のディクテーションやリスニングののちの内容理解を行うため、事後学習に多くの時間を充てること。2週目はリスニングで扱った英語の文章の内容を理解するために、単語を調べ、センスグループごとの意味を考えてくること。最低1時間。

【事後学修】授業で取り組んだ英文を再度聴き、指定箇所のディクテーション、センスグループごとの日本語訳、全体の概要のまとめを行う。最低毎日30分。

評価方法および評価の基準

期末試験70%、授業への取り組み（小テスト・課題・参加態度）を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 期末試験 (10%/70%) | 小テスト・授業参加度・課題 (5%/30%) |
| (2) 期末試験 (20%/70%) | 小テスト・授業参加度・課題 (5%/30%) |
| (3) 期末試験 (30%/70%) | 小テスト・授業参加度・課題 (10%/30%) |
| (4) 期末試験 (10%/70%) | 小テスト・授業参加度・課題 (10%/30%) |

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし

授業内でハンドアウトを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	英語		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング	KKc224		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 英語		
学 年	2	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

通訳業務を通じた実践

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの「選択科目」です。

科目の概要

近年、外国において日本文化への興味が飛躍的に拡がり、日本人にも英語による発信力がますます求められています。この授業では、様々な日本文化の側面が英語で書かれた素材をもとに、リーディング力のみならず、リスニング・スピーキング力を養います。

授業の方法 (ALを含む)

発表を含む

到達目標

さまざまな日本文化の側面について、比較的平易な英文で書かれている英語テキストを理解し、あらためて日本文化についての知識を得ること。さらに、比較的平易な英語で日本文化について発信できるようになること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-3外国語コミュニケーション

内容

【前期】

第1週	Introduction
第2・3週	Japanese Cuisine 日本食
第4・5週	Tokyo 東京
第6・7週	Japan's Four Seasons 日本の四季
第8・9週	Annual Events in Japan 日本の年中行事
第10・11週	Japanese Housing 日本の住居
第12・13週	Religion in Japan 日本の宗教

第14・15週 　　まとめ

【後期】

第1・2週	Japanese Way of Life 日本人の生き方
第3・4週	Japanese Women 日本女性
第5・6週	World Heritage in Japan 日本世界遺産
第7・8週	Japanese Language 日本語
第9・10週	Marriage in Japan 日本結婚
第11・12週	Kawaii Going Global 世界に広がるカワイイ
第13・14週	Japanese School System 日本学校制度
第15週	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】指定された英文テキストを読み、大まかな理解を得ておくこと。

【事後学修】指定されたリスニング練習をし、語彙力もしっかり身につけること。

評価方法および評価の基準

毎回の課題（50％）、前期・後期定期試験（50％）をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを使用します。教科書は不要です。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

高い英語力を必要とします。（英検2級レベル以上）

科目名	英語		
担当教員名	仇 暁芸		
ナンバリング	KKc224		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 英語		
学 年	2	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

有。英語通訳としてバレーボール関係の仕事をしたことがある。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「共通科目」のうちの外国語 (基礎科目) の「選択科目」である。

英語を学ぶ総合的な科目であり、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学んでいく。

科目の概要

指定教材を使って進めていく。幅広い分野のトピックについて、単語・フレーズ・センテンスの三段階を踏んで理解を深めていく。また、数回は英語を使った簡単なプレゼンテーションの練習を行う予定で。

授業の方法 (ALを含む)

指示に従って、単語・フレーズ・センテンスの順で習っていく。音読、聴解の際も指示を出す。学生の要望も聞きながら進んでいく。なお、数回英語による簡単なプレゼンテーションがある。事前説明を聞いて、実行すれば特に問題なくできるプレゼンテーションである。

到達目標

- ・単語・フレーズ・センテンスの三段階を聞いて理解できるようになる。
- ・上記で理解したものを正しくディクテーション (聞いて書き取る) することができるようになる。
- ・ある範囲内で英語で自分の意見を言えるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することになる。

- 1 読み解く力、 -2 話し合う力、 -9実践する力

内容

前期

1. オリエンテーション

- 2 . Unit 1: Cell phones
- 3 . Unit 1: Cell phones
- 4 . Unit 2: Freeters'
- 5 . Unit 2: Freeters'
- 6 . Unit 3: The Olympic Games
- 7 . Unit 3: The Olympic Games
- 8 . Unit 4: Marriage
- 9 . Unit 4: Marriage
- 10 . Unit 5: Smoking and drinking
- 11 . Unit 5: Smoking and drinking
- 12 . Unit 6: English
- 13 . Unit 6: English
- 14 . プレゼンテーション
- 15 . まとめ

後期

- 1 . オリエンテーション
- 2 . Unit 7: Exercise
- 3 . Unit 7: Exercise
- 4 . Unit 8: Divorce
- 5 . Unit 8: Divorce
- 6 . Unit 9: Cars
- 7 . Unit 9: Cars
- 8 . Unit 10: Working parents
- 9 . Unit 10: Working parents
- 10 . Unit 11: Computers
- 11 . Unit 11: Computers
- 12 . Unit 12: Television
- 13 . Unit 12: Television
- 14 . プレゼンテーション
- 15 . まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

予習（15分）：新出単語の発音を練習し、意味を調べる。文の内容を読み、大まかな意味を把握する。わからないところ、印をつける。

復習（15分）：授業で習った内容を音読し、意味を確認する。単語とフレーズを書き、覚える。次回のディクテーションに備えておく。

評価方法および評価の基準

普段の学習態度と姿勢：40%

単語・フレーズ・センテンスの三段階を聞いて理解できるようになる：20%

ディクテーション（聞いて書き取る）することができるようになる：20%

ある範囲内で英語で自分の意見を言えるようになる。：20%

上記の内容と割合をもとに評価し、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】（生協購入）：『Which side are you on? 英語で考え、話す社会問題―最新版』（成美堂 2017）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KKc230		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 資格科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語 (資格科目) の選択科目です。

科目の概要

TOEICスコアアップを目指し、各テーマの関連語彙や文法を確認しながらTOEICテスト形式のリスニング、リーディングの演習問題に取り組む。また、実際に使える英語力をつけることを目指し、速読やシャドウイングの練習も行う。疑問点は、ペア、グループワークでの解決を目指し、残った疑問点を教員が補助する形で進める。また、教室外で自律学習が進むよう、効果的な自己学習法の指導を合わせて行う。

授業の方法

テーマごとに組まれたユニットの中で、関連語彙を学習した後、TOEIC問題形式のリスニング、リーディングの問題を解き練習を行う。また、授業外で自律的に学習できるよう、学習法を学び、解説を受けた後、各自復習ノートを作成する。(一部宿題となる。)

学修目標

1. 日常、仕事に必要な内容を英語で聞き、読むために必要な語彙、言語構造を理解し使用できる。
2. TOEICテストの形式を知り、有効な知識や戦略法を身に付け、テストに応用できる。
3. 学期末のTOEICテスト受験で目標点を取得できる。
4. 自律的な学習方法と学習習慣を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 外国語基礎理解
- 2 異文化の理解・尊重
- 3 外国語コミュニケーション

内容

1回の授業で1ユニット完了する形で進める。受講者は各授業のテーマ(ユニット表題)、関連語彙、文法、文書のフォーマットなどを学び、それらを使用したTOEICのリスニング、リーディングの練習問題に取り組む。疑問点は、ペア、グループワークでの解決を目指し、残った疑問点を教員が補助する形で進める。また、教室外で自律学習が進むよう、効果的な自己学習法の指導を合わせて行う。また、TOEICの対策学習を実際のコミュニケーションに活かせるよう4技能につながるための学習法も指導する。

1	オリエンテーション U1 Daily Life 日常生活をテーマとしたリスニング・リーディング練習
2	U2 Places 様々な場所をテーマとしたリスニング・リーディング練習
3	U3 People 様々な様相の人々や職業をテーマとしたリスニング・リーディング練習

4	U4 Travel 旅行の場面をテーマとしたリスニング・リーディング練習
5	U5 Business ビジネスをテーマとしたリスニング・リーディング練習
6	U6 Office オフィス内の場面や機器をテーマとしたリスニング・リーディング練習
7	U7 Technology 技術をテーマとしたリスニング・リーディング練習
8	U8 Personnel 会社内の人事をテーマとしたリスニング・リーディング練習
9	U9 Management 経営をテーマとしたリスニング・リーディング練習
10	U10 Purchasing 主に会社間での購買をテーマとしたリスニング・リーディング練習
11	U11 Finance 金融をテーマとしたリスニング・リーディング練習
12	U12 Media メディアをテーマとしたリスニング・リーディング練習
13	U13 Entertainment エンターテインメントをテーマとしたリスニング・リーディング練習
14	U14 Health 健康をテーマとしたリスニング・リーディング練習
15	総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各課の新出語彙を予習する。(Check Your Vocabulary! Words in Context) (30分)

【事後学修】各課の Self-study quizzes (p.99~) に取り組む。(30分) 各課パー

ト3、4のシャドウイングを行う。(30分) 各課の授業内で終了しなかった問題に取り組み、復習まで行う。(60分)

評価方法および評価の基準

1. 日常、仕事に必要な内容を英語で聞き、読むために必要な語彙、言語構造を理解し使用できる。(試験20%・授業への取り組み10%・小テスト10%)

2. TOEICテストの形式を知り、有効な知識や戦略法を身に付け、テストに応用できる。(試験20%)

3. 学期末のTOEICテスト受験で目標点を取得できる。(試験30%)

4. 自律的な学習方法と学習習慣を身に付ける。(課題10%)

上記合計：試験70点、小テスト10点、課題10点、授業への取り組み10点の合計で評価を行い、60点以上を合格とする。

提出課題は評価を付けて返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】Mark D. Stafford, Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 1 (4th Edition), 桐原書店

【参考図書】『TOEICテスト新公式問題集』(Vol.5) Educational Testing Service

小石裕子 『改訂版 TOEIC(R) TEST 英単語 出るところだけ!』アルク

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業外での予習、復習、そして自分で学習計画を立て実行することが成功の秘訣です。TOEICは数字で伸びを実感できるので、一所懸命やれば達成感を得られることでしょう。スコアに見合ったスピーキング力も得られるよう、シャドウイングの練習も授業外でしっかりと行ってください。

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KKc230		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-資格科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学部外国語選択科目である。

科目の概要

大学に入りたてでTOEICを受けた経験がまだないか、受けても日が浅い人を対象に、TOEIC L&R 400-500点のレベル用に編纂された、易しめで頻出する問題を集めた教材を用いて、確実な基礎力を養成する。

授業の方法（ALを含む）

授業での間違いから学んだことや新しい気づきをリアクションペーパーに書いてもらい、それを教員に提出するだけでなく、ペア・グループ・クラスで共有発表する時間を適宜設けて、教科書を使い切る。【リアクションペーパー】

到達目標

学部共通外国語資格科目カリキュラムポリシーにある通り、以下を学修目標とする

1. 企業や社会で要求されるレベルに対応する
2. 社会人になっても通用する資格をつける力を養成する
3. 国際的な資格試験を受験することでより広い分野での活躍の基礎を作る

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、共通科目ディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 外国語基礎理解、 -2 異文化の理解・尊重、 -3 外国語コミュニケーション

内容

初めて対策を行う学生にとって、最も正解率を上げやすい部分は、リーディングのPart 5の短文穴埋めの文法・語法問題であるので、最初の数週間は、これに最も時間をかける。各課のリスニングとリーディングの前の16題の問題が記憶に残りやすいように工夫して進める。

1	教科書の「各パートの紹介と本書の編集方針」について/Unit 1
2	Unit 1 動詞と時制 (1) 語彙増強： supplies, explainなど
3	Unit 2 動詞と時制 (2) 語彙増強： domestic, opportunitiesなど

4	Unit 3 動詞と時制 (3), 品詞 語彙増強: eligible, parallelなど
5	Unit 4 仮定法 語彙増強: profit, cashierなど
6	Unit 5 準動詞 (1) 語彙増強: grateful, registerなど
7	Unit 6 準動詞 (2) 語彙増強: commerce, harvestなど
8	復習とまとめ(1)
9	Unit 7 準動詞 (3) 語彙増強: invoice, attireなど
10	Unit 8 準動詞 (4) 語彙増強: extensive, renovateなど
11	Unit 9 形容詞・副詞と比較 語彙増強: refunds, awningなど
12	Unit 10 不定代名詞anotherとother 語彙増強: qualify, exchangeなど
13	Unit 11 関係詞 (1) 語彙増強: remain, moderateなど
14	Unit 12 関係詞 (2) 語彙増強: additional, withdrawなど
15	復習とまとめ(2)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書のweb音声を使って、毎週そのユニットの全ての英語を予習し、語彙増強問題の単語を検索などして、用例に当たること。(毎週60分程度)

【事後学修】補充問題を課すことがあるので、それを解き、テレビのニュースの副音声・語学番組・英語の映画などを通して常に英語力の向上に努めること。(毎週90分以上)

評価方法および評価の基準

2回の「復習とまとめ」の成果を計60%、授業への取り組み(補充問題・予習・参加態度)を40%として、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】北原良夫 編著(2020)『新訂版 TOEIC? L&R テストへようこそ』朝日出版社。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	TOEIC対策講座		
担当教員名	秋山 まき子		
ナンバリング	KKc230		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 資格科目 (外国語)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 この科目は、共通科目の外国語 (資格科目) の選択科目です。TOEICのスコア上昇のための講座

科目の概要 TOEICの基礎となっているReadingとListeningのスコアアップを目的とする。その為にはTOEICテストの出題形式に慣れること、また解答の為にストラテジーを身につけることが大切である。特に、このクラスでは、ReadingセクションPart 5, 6, 7の攻略を中心とする。語彙力や文法知識、聴解力や読解力などの、より総合的な英語力を高めることを目指す。

授業の方法 (ALを含む) 講義と問題演習を中心とする。毎授業、長文読解の速読の練習を15分行う。CD、DVDなどの視聴覚教材を用いることもある。

到達目標 語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を総合的に向上させ、TOEIC Testのスコアアップを図る。また、TOEIC各パートの出題傾向を把握し、問題に取り組むためのテクニックを学びスコア上昇を目指す。

ディプロマ・ポリシーとの関係 この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの - 1 読み解く力、 - 3 言語運用能力を育成することを目的とする。

内容

1	Orientation
2	Part5攻略 Unit 1 Part5 Modern Technology、Unit 2 Part5 Travelig
3	Part5攻略 Unit 3 Part5 Health、Unit 4 Part5 Work
4	Part5攻略 Unit5 Part5 Food、Unit6 Part5 Headlines
5	Part5攻略 Unit7 Part5 Shopping、Unit8 Part5 Entertainment and Sports
6	Part5,6攻略 Unit9 Part5 Environment、Unit10 Part6
7	Part 6 攻略 Unit11 Part6、Unit12 Part6
8	Part7攻略 Unit13 Part7
9	Part7攻略 Unit14 Part7
10	Part7攻略 Unit15 Part7
11	TOEIC模擬テスト PArt5,6,7
12	TOEIC模擬テスト (1)

13	TOEIC模擬テスト(2)
14	TOEIC模擬テスト(3)
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

外国語の学習は毎日の反復練習が効果的なので、必ず毎日英語に触れる時間を作ること。さらに、予習・復習にはそれぞれ45分以上かけること。

自分で目標を設定し、自分にあった学習法を実践すること。

評価方法および評価の基準

総合評価60点以上を合格とする。100%のうち、出席日数、授業への参加度、課題、理解度の総合的評価70%、TOEIC模擬TEST30%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

A Shorter Course in TOEIC TEST Reading 550, 木村理恵子、片野田浩子、南雲堂、ISBN#9784523175926

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容及び進め方は、クラスの状態により変更することがある。質問等は、遠慮なく担当教員に申し出ること。

科目名	中国語試験対策科目		
担当教員名	池間 里代子		
ナンバリング	KKc231		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-資格科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

中国語検定試験/HSK合格を目指し、発音・文法・作文力を高める。

科目の概要

中国語検定試験の過去問を解き、解説を聞く。これを繰り返すことによって解答パターンを体得し、自信をもって受験に臨めるようにしていく。中級受験者向けには長文読解のための訓練を行なう。

授業の方法（ALを含む）

プリント類を活用して各自のレベルに応じて進む。

到達目標

自らが設定した級に合格すること。やや難しい級にチャレンジして、合格すること。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本学のディプロマ・ポリシー 1「目標を決める力」・2「計画を立てる力」・3「実践する力」と関連している。

内容

ガイダンス、受験級確定

過去問解き、解説

語彙練習

文法確認

リスニング対策

ライティング対策

模擬試験

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】単語帳の暗記を30分程度で準備してくること。

【事後学修】ミスノート作成を30分程度行うこと。

評価方法および評価の基準

平常点を60%・受験結果を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。平常点とは、授業で扱った過去問などのミス
を修正し、類似問題等で確認することである。これらは授業内でフィードバックを行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントなど

【推薦書】『中国語検定4級合格への手引き』南雲堂フェニックス 2010年 ￥1800 + 税

『中国語検定3級合格への手引き』南雲堂フェニックス 2010年 ￥1800 + 税

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語能力試験対策講座（文法・文字語彙）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	KKc232		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-資格科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は共通科目の外国語（資格科目）の選択科目である。留学生のための講座であり、日本語能力試験N1合格を目指し、受験に必要な知識を学修する。また、確実に知識を定着させるために、繰り返し受講が可能な科目である。そのため、授業で用いる解説資料、実践練習問題は毎年異なるものを使用するので、繰り返し受講しても内容が重複することはない。

科目の概要

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、「文法・文字語彙」を中心に学習を進める。基本的知識の習得に続いて、演習問題を通して学習内容を確認し、さらに解説を加えるという形で実践的に学習を進める。

授業の方法（ALを含む）

学習した内容を、演習問題（ミニテストの形式）を解きながら、理解の度合いを確認し、学習項目を習得する。また、疑問点、不明な点については随時質問の時間を設け、可能なかぎりフィードバックを行う。【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1 日本語能力試験N1合格に求められる知識（文字）を習得し、試験に合格することができる。
- 2 日本語能力試験N1合格に求められる知識（語彙）を習得し、試験に合格することができる。
- 3 日本語能力試験N1合格に求められる知識（文法）を習得し、試験に合格することができる。

ディプロマポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1外国語基礎理解 -2異文化の理解 -3外国語コミュニケーション

内容

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、「文字語彙・文法」を中心に次のように授業を進めていきます。

授業は毎回、演習形式で進めていきます。まず各項目の内容を確認をし、解説を受け、それに対する実践練習問題に取り組みます。資格試験対策講座であるため、できるだけ多くの実践練習を行います。進度に応じて適宜質疑応答の時間を取り入れ、双方向の授業形態で進めます。また、学習効果を上げるため、実践問題を解く前にすでに学んだ知識の理解が必要で、課外での自学習が求められます。

第2回～14回

【文字語彙】学習項目

漢字読み

表記

語形成

文脈規定

言い換え類義

用法

【文法】学習項目

文法形式の判断

文の組立

文章の文法

第15回

まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各回で学ぶ文法項目について、意味を調べる。また、漢字、語彙について読み方、使い方を調べる。 -2時間

【事後学修】授業で学んだ項目を定着させるため再度、文法の意味、語彙の使い方、漢字の読み方など、各人の注意点や覚えるべき事柄をノートにまとめる。 -1時間

評価方法および評価の基準

各授業で提示する項目の理解、演習問題の取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 10%/40% 10%/60%

到達目標2 10%/40% 15%/60%

到達目標3 20%/40% 35%/60%

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問は授業のその場で受け付ける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】教場で指示する。

【参考図書】教場で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学習効果を高めるために、授業前の自習を望みたい。授業に参加するだけでは対策講座の効果が出ないので、事前の予習、事後の復習を特に望む。

科目名	日本語能力試験対策講座（読解）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	KKc233		
学 科	人間生活学部（K）-共通科目-資格科目（外国語）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、共通科目の外国語（資格科目）の選択科目である。留学生のための講座であり、日本語能力試験N1合格を目指し、受験に必要な知識を学修する。また、確実に知識を定着させるために、繰り返し受講が可能な科目である。授業で用いる解説資料、実践練習は毎年異なるものを使用する。

科目の概要

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、「読解」を中心に学習を進める。基本的知識の習得に続いて、演習問題を通して学習内容を確認し、さらに解説を加えるという形で実践的に学習を進める。

授業の方法（ALを含む）

学習した内容を、演習問題（ミニテストの形式）を解きながら、理解の度合いを確認し、学習項目を習得する。また、疑問点、不明な点については随時質問が可能でフィードバックを行う。【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1 日本語能力試験N1合格に必要な読解力（短文・中文・長文の読解）を向上させ、試験に合格することができる。
- 2 日本語能力試験N1合格に必要な読解力（情報探索・意見文比較の読解）を向上させ、試験に合格することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1外国語基礎理解
- 2異文化の理解
- 3外国語コミュニケーション

内容

日本語能力試験の出題項目（文字語彙・文法・読解・聴解）のうち、「読解」を中心に以下のように授業を進めます。

授業は毎回、演習形式で進めていきます。資格試験対策講座であるため、できるだけ多くの実践練習を行います。進度に応じて適宜質疑応答の時間を取り入れ、双方向の授業形態で進めます。また、より多くの文章を速読理解する練習が必要であるので、課外での自学習を課すことがあります。

第1回 授業のガイダンス・日本語能力試験受験レベルの測定

第2回～14回

【読解】学習項目

内容理解（短文）
内容理解（中文）
統合理解（二つの文章の内容比較）
主張理解（長文）
情報検索

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の読解資料について、進出語彙や表現文型について使い方を調べ、ノートにまとめる。 - 2時間

【事後学修】各回に提示された読解資料について、学習した語彙、表現文型をノートにまとめ、設問について解答を自分のことばでまとめる。 - 1時間

評価方法および評価の基準

各授業で提示する項目の理解、演習問題の取り組み(40%)と筆記試験(60%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1 課題達成 30% / 40% 筆記試験 40% / 60%

到達目標 2 課題達成 10% / 40% 筆記試験 20% / 60%

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付し、翌週の授業で返却する。また、内容についての質問は授業のその場で受け付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中にプリントを配布する。

【推薦書】教場で指示する。

【参考図書】教場で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学習効果を高めるために、授業前の自習を望みたい。授業に参加するだけでは対策講座の効果が出ないので、事前の予習、事後の復習を特に望む。

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Wクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセービングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを目指す。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴。スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。

科目の概要

テニス、バドミントン、卓球などを行う。またウォーキングやポーリングなどの健康づくり運動を行う予定で授業を構成している。テニス、バドミントン、卓球では、初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして授業内容を整理する学習カードやノートの記述、および授業の総まとめレポートの作成提出を行う。【レポート(知識)】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 「 -1」心身の健康

内容

- 1 ガイダンス (履修上の諸注意等) ・ 班分け 平服でアリーナに集合してください

- 2 バドミントンの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 3 バドミントン シングルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 4 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 5 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 6 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 7 ウォーキング 実践 リアクションペーパー・実技
- 8 卓球の基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 9 卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
- 10 卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
- 11 テニスの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 12 テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 13 テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 14 ボーリング リアクションペーパー・実技
- 15 総まとめ 実技テストなど 資料提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

シラバス等を予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通す。(20分)

【事後学修】

授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる(60分)

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度(授業への取り組みで評価、60点)、運動の質(実技チェック:20点)、毎回の授業における理解や気づきに関するコメント表の作成及びまとめのレポート(20点)の観点から総合的に行うとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

授業の最初に前回授業の振り返りと質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しないが、必要に応じてプリントなどの資料を配布

【推薦書】必要に応じて、授業内で紹介

【参考図書】必要に応じて、授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

まずは安全留意して、各種目の特性を理解しながら、楽しみつつ学修してください。

ボーリングの単元は、ゲーム代金とレンタルシューズなどの自己負担金が生じます。

初講時は平服でメインアリーナに筆記用部持参で集合してください。

ボーリング、ウォーキングは 学外活動届を提出します。

科目名	身体運動		
担当教員名	仁科 幸		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

舞台上演や教育現場といった多様な形態でのダンス実践や指導の経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

私たちの身体はどんな動きができるのか、ということに着目し、動き方を工夫しながらさまざまなダンスやゲームに取り組む。

授業の方法

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

授業のまとめとして、レポートの提出を求める。【レポート (知識) 】

到達目標

- 1、クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高める。
- 2、生涯を通じて運動に親しむ意欲や態度を身につける。
- 3、自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1心身の健康

内容

このクラスでは、片時も離れることのできない自分の「からだ」を労りながら、今まで気づかなかった「からだ」の感覚や可能性を探ることを目的とする。

そのためにまず、授業の最初に健やかな「からだ」の土台を作るストレッチングやエクササイズを行った後、さまざまなダンスやゲームを行う。自分の「からだ」への労りや気づきがやがて、仲間の「からだ」への労りや気づきへと繋がって行くことを実感して欲しい。

第1週 オリエンテーション (平服 / 筆記用具持参) 【リアクションペーパー】

第2週 ストレッチング&エクササイズ【実技】【リアクションペーパー】

第3週～第4週

レクリエーションゲーム【実技】【リアクションペーパー】

第5週～第6週

音楽に合わせてからだを動かそう【実技】【リアクションペーパー】

第7週～第8週

あそびからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第10週

様々な動きからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第11週～第14週

テレビで流れるコマーシャル、映画、音楽など、私たちにとって身近なものの中にダンスがどのような形で存在しているのかを探る。そして、それらをもとに課題を設定し、グループワークや発表などを行う。【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第15週 まとめ【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行う創作活動のテーマについて、各自調べておくこと。(60分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、授業内で紹介した映像資料を見ておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

平常点50点(グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など)、毎回の授業における理解や気づきに関するリアクションペーパーの作成20点、まとめのレポート30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標2) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標3) まとめレポート30点

【フィードバック】リアクションペーパーを確認し、質問等への回答を記載した上で翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)?

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Vクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

中学、高等学校保健体育科教諭を長年務め、日本サッカー協会A級ライセンス、インストラクターやライフセイビングの資格、大学スポーツの理事、スポーツマネージャー資格、日本体育協会上級指導員の資格など多数を持つ。また一般社団法人十文字スポーツクラブの理事を務め、実社会でのセミプロスポーツクラブと地域発展事業に現在も携わる教員が担当する。その経験を活かした授業を実践し指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを目指す。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴。スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。

科目の概要

テニス、バドミントン、卓球などを行う。またウォーキングやポーリングなどの健康づくり運動を行う予定で授業を構成している。テニス、バドミントン、卓球では、初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして授業内容を整理する学習カードやノートの記述、および授業の総まとめレポートの作成提出を行う。【レポート(知識)】【実技】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 「 -1」心身の健康

内容

- 1 ガイダンス (履修上の諸注意等) ・ 班分け 平服でアリーナに集合してください

- 2 バドミントンの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 3 バドミントン シングルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 4 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 5 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 6 バドミントン ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 7 ウォーキング 実践 リアクションペーパー・実技
- 8 卓球の基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 9 卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
- 10 卓球のゲーム ダブルス リアクションペーパー・実技
- 11 テニスの基礎基本技術の習得 リアクションペーパー・実技
- 12 テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 13 テニス ダブルスゲームの実践 リアクションペーパー・実技
- 14 ボーリング リアクションペーパー・実技
- 15 総まとめ 実技テストなど 資料提出

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

シラバス等を予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通す。(20分)

【事後学修】

授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる(60分)

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度(授業への取り組みで評価、60点)、運動の質(実技チェック:20点)、毎回の授業における理解や気づきに関するコメント表の作成及びまとめのレポート(20点)の観点から総合的に行うとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

授業の最初に前回授業の振り返りと質疑等に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しないが、必要に応じてプリントなどの資料を配布

【推薦書】必要に応じて、授業内で紹介

【参考図書】必要に応じて、授業内で紹介

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

まずは安全留意して、各種目の特性を理解しながら、楽しみつつ学修してください。

ボーリングの単元は、ゲーム代金とレンタルシューズなどの自己負担金が生じます。

初講時は平服でメインアリーナに筆記用部持参で集合してください。

ボーリング、ウォーキングは 学外活動届を提出します。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針 1 . 2 . 3 を踏まえて実施する。体育実技 (運動) を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。(人間生活学部の学位授与方針 1 . に該当)

科目の概要

2年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。【実技】

到達目標

1. グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
2. 豊かな人間性・感受性を醸成する
3. 学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
4. 生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1心身の健康

内容

身体運動 では、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし、学生生活を活発・健全に送るための体力、生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢やスキルが身についているかを総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

科目名	身体運動		
担当教員名	佐藤 典子		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

レクリエ - ション有資格者の教員が担当し、各種レクリエ - ションスポ - ツ体験の他、レクリエ - ション支援についても学べるように進めていく。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1.2.3を踏まえ、身体運動を通して受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。また学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有し、学科間、学年間の交流を促す機会にもしたい。

科目の概要

いろいろなレクリエ - ションゲ - ムやレクリエ - ションスポ - ツを体験することができる。また他者に楽しんでもらうための企画を考えグル - プで実施・運営する。

授業の方法 (AL含む)

本科目は実技中心に授業を展開する。毎時間授業を振り返り学習カ - ドに記入し提出する。【実技】

到達目標

- 1) クラス内での交流を基盤として、身体を動かす積極的な姿勢を身に着ける。
- 2) 自分に合った身体を動かす楽しさを見つけ、生涯を通じて運動を楽しむ素地を養う。
- 3) レクリエ - ションの楽しさを他者に支援する基盤を体得する。

ディプロマ・ポリシー - との関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシー - の以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -3協働する力
-1心身の健康

内容

1	ガイダンス (内容・注意事項・評価についての説明) *更衣の必要なし
2	コミュニケ - ションワ - ク (アイスプレ - キング・ホスピタリティトレ - ニング等) 【実技】
3	レクリエ - ションゲ - ム 【実技】

4	レクリエ - ションスポ - ツ【実技】
5	フロアボ - ル 【実技】
6	フライングディスク【実技】
7	ソフトバレ - ボ - ル【実技】
8	キンボ - ル【実技】
9	火気取扱い実習【実技】
10	グル - プ活動（グル - プ分け・企画話し合い・運営準備）【創作・制作】
11	受講生考案 レクリエ - ション 【実技】
12	受講生考案 レクリエ - ション 【実技】
13	受講生考案 レクリエ - ション 【実技】
14	受講生考案 レクリエ - ション 【実技】
15	まとめ【レポ - ト（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行うスポ - ツの特性やル - ルを事前に調べておくこと(60分)

【事後学修】各自授業内容を記録し、振り返りをする(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組・協調性・関心・態度）60%、毎時の授業のまとめ（学習力 - ド）30%、学生企画評価10%。特に積極的に授業に参加し楽しもうとする姿勢を重要視します。また技能レベルでは評価をしない。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1)授業への参加度（30%/60%）) 学習力 - ドの整理（10%/30%）

到達目標 2)授業への参加度（30%/60%）) 学習力 - ドの整理（10%/30%）

到達目標 3)学生企画評価0（10%/10%）) 学習力 - ドの整理（10%/30%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は必要としない。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容は、当日の天候・施設の状況・受講者数により変更することがある。

着用する服・靴はふさわしい物を着用しなければ出席にならない（初回に説明します）。

体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	若葉 京良		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状(情報) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(国語) / 高等学校教諭一種免許状(国語) / 中学校教諭一種免許状(保健体育) / 高等学校教諭一種免許状(保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針 1 . 2 . 3 を踏まえ、身体運動(体育の実技)を通して、受講生同士のコミュニケーションを図るとともに、受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有する。

科目の概要

バスケットボール、バレーボール、キンボール、タグラグビーなどの種目をゲーム中心でおこなう。

授業の方法 (AL含む)

本科目は実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容をまとめた振り返りシートを作成する。授業の総まとめとして課題レポートを提出する。【実技】【レポート】

到達目標

1. クラス内での交流を通じて、生涯を通じて運動に親しむ素地を養う。
2. 自らの意欲・能力・技能に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。
3. 自らの動きを理解し、動きを言語化できる能力を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 1 心身の健康

内容

受講人数等により内容を変更する場合がある。

1	オリエンテーション(服装:私服で構わない)
2	からだの使い方を知る、コーディネーションゲーム【実技】
3	バスケットボール:チーム編成、基本練習、ゲーム【実技】
4	バスケットボール:基本練習、ゲーム【実技】
5	バスケットボール:基本練習、ゲーム【実技】
6	キンボール:基本練習、ゲーム【実技】
7	キンボール:基本練習、ゲーム【実技】

8	バレーボール：チーム編成、基本練習、ゲーム【実技】
9	バレーボール：基本練習、ゲーム【実技】
10	バレーボール：基本練習、ゲーム【実技】
11	ラグビー：チーム編成、基本練習、ゲーム【実技】
12	ラグビー：基本練習、ゲーム【実技】
13	ドッジビー：基本練習、ゲーム【実技】
14	アルティメット：基本練習、ゲーム【実技】
15	まとめ【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、課題レポート20%とし、総合60点以上を合格とする。

到達目標1 授業への参加度（30%/60%）、振り返りシート（5%/20%）

到達目標2 授業への参加度（30%/60%）、振り返りシート（5%/20%）

到達目標3 振り返りシート（10%/20%）、課題レポート（20%/20%）

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。と協力する、主体的に取り組む姿勢で臨むこと。

運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4 対 4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5 対 5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール/メインアリーナに集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

なし

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

共通科目保健体育の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

ラケットスポーツとして、テニスを9回、卓球を6回の予定で授業を構成している。テニスではフォアハンドストローク、サーブ、ボレーに関して初歩的な技能を身につけ、最終的にはダブルスのゲームができるようになることを目指す。卓球ではダブルスゲームの特性を理解し、楽しめるようになることを目指す。

授業の方法 (ALを含む)

履修者全体を対象とした技能獲得のためのレッスンと並行し、各自の技能習得レベルにあわせたアドバイスを実施する。また、ダブルスのゲームを実際に行いながら、ルールや動き方、楽しみ方等について指導していく。

到達目標

1. 仲間との交流を深めながら、協働力や協調性を高めていくこと
2. フォアハンドストローク、サーブ、ボレーの基本的な技能を修得すること
3. ゲームのルールを理解し、テニスや卓球のゲーム (ダブルス) ができるようになること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容	
1	ガイダンス (履修上の諸注意等) ・ 班分け
2	ストロークの基本 ショートコートでのラリー
3	ストロークの基本 サーブ
4	サーブ ボレー
5	サーブ ボレー オールコートでのラリー
6	ボールコントロールとサーブのチェック
7	3対3のゲーム
8	テニスのゲーム (ダブルス)

9	テニスのゲーム（ダブルス）
10	卓球のゲーム（ダブルス）
11	卓球のゲーム（ダブルス）
12	卓球のゲーム（ダブルス）
13	卓球のゲーム（ダブルス）
14	卓球のゲーム（ダブルス）
15	卓球のゲーム（ダブルス）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

各授業での技能修得やルールの理解が追いつかない場合は、各自で復習しておくこと

評価方法および評価の基準

評価は、運動量及び協働力や協調性の達成度（授業への取り組みで評価、60点）、運動の質（実技チェック：ボールコントロールとサーブ、30点）3割、ルールやマナーの理解（10点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

運動着や運動靴を忘れた者は、安全管理上、実技への参加は認められない（見学扱い）。

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席すること。

実技実施上不安なことがある場合（既往症など）は、第1回目の授業で必ず教員へ相談すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Tクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目である。教職課程を志す者には、必要な単位となる。

科目の概要

体育実技科目なので、受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける機会を提供する。

学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成で、身体運動の楽しさを共有する。身体運動を通じて学科間、学年間の交流を促す機会にもしたい。

授業の方法

集団球技 (サッカー , バドミントン , バスケットボールなど) を中心とした実技を , 3 ~ 5 週を単位に継続的に行う。

到達目標

- クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高め、生涯を通じて運動に親しむ素地を養う。
- 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。
- 集まった人たち、活用できる環境、参加者の身体能力などに応じて、全員が楽しめるよう、柔軟にルールを工夫する能力を涵養する。

ディプロマポリシーとの関係

共通科目のディプロマポリシーと深く関係するのは、

- 3協働する力、
- 1心身の健康である。

内容

集団球技を中心に実技を進める。テーマは「競創」とする。

集団球技はゲームであり、勝敗がつく。勝つと嬉しいし、負けると悔しい。

まずはこの身体から湧き出るリアルな感情を味わう。

そして集団球技にはチームメイトと対戦相手が要る。

ゲームでの勝敗を「結果」とすれば、チームメイトや対戦相手とのやり取りは「過程」である。

この科目ではこの「過程」を重視する。

身体を使ったチームメイトや対戦相手との交流を通じて、独自の創意工夫や楽しみ方を見つけてほしい。

このようなクラスメイトとの協同・競争を通じて、自分や他人を尊重する態度が養われると考える。

予定している種目は以下の通りである。履修者の人数や意欲・希望に応じて種目を選択する

- ・陣取り型：サッカーやバスケットボール
- ・ネット型：テニス，バドミントン，

これらの中から3種目を5週を単位として継続する。

ゲームを主体に実技を進め、チームでの話し合いにも時間を割く。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

授業外学習内容の編集 【事前予習】十分な睡眠時間を確保し，朝食を摂り，運動できる体調を整えておく[各授業に対して45分]。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め，自らの身体についての理解を深める[各授業に対して15分]。

評価方法および評価の基準

初回授業でこの科目のシャトルカードを配布する。これに毎回の実技内容と，自らの気付きを記入し，毎回提出する。学修目標a)，b)はシャトルカードの内容で，c)については実技中の動きや発言で評価する。シャトルカード50%と平常点50%を総合して評価し，合計60%以上を合格とする。平常点では技能レベルや勝敗，記録での評価はしない。欠席が4回を超える場合には評価の対象としない。また遅刻・早退は2回で欠席1回分に数える。体調不良などによる見学は出席とみなすことがある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

履修人数の上限を40名程度とする。

名前入りゼッケンを着用し，毎週，グラウンド用，体育館用2種類の靴を用意すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	清水 文子		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4対4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5対5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール/メインアリーナに集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間生活学部の共通科目、保健体育領域の学位授与方針 1 に該当します。

この授業は、生涯を通じた健康づくりとしてのスポーツの楽しみ方とその方法について学習します。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

健康づくりのための運動プログラムの基礎や基礎的な指導法について学習します。様々な健康づくりの方法を学習することで、自分の体をコントロールする感覚や他者に指導する際の注意点を体験的に学べる構成にしています。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

体力向上や疾病・障害予防を目的としたトレーニングプログラムの効用や指導時の注意点について説明できることを目標にします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

内容

1. 体操・補強運動の基本的理論とその実際
2. ウォームアップとクールダウン
3. ウェイトトレーニング
4. 補強運動 (アイソメトリック)
5. 補強運動 (アイソトニック)
6. 補強運動 (アイソキネティック)
7. 補強運動 (フリーウエイト)
8. 補強運動 (マシン)
9. 補強運動 (サーキット)

10. 有酸素トレーニング(1)
11. 有酸素トレーニング(2)
12. ヨガ(1)
13. ヨガ(2)
14. ヨガ(3)
15. 振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各種運動方法について調べておく。

【事後学修】各種運動方法をまとめておく。

評価方法および評価の基準

平常点：80%（参加点が基本。時間厳守。20分以上の遅刻は欠席） レポート：20% とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】リアクションペーパーを確認し、コメントを翌週以降に返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Sクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

リズムエクササイズ (リズムに合わせた運動) を中心とした実技を、3~5週単位として継続的に行う。

授業の方法 (ALを含む)

グループワークを通じて、ステップ練習や発想のトレーニング、フォーメーションの工夫、衣装のデザインのアイディア、最終的には楽しみながらの創作へと展開し、発表へつなげる。【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

1. クラス内での交流を通じて、からだを動かすことが主体的にできる。
2. 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることができる。
3. これらの運動から生涯を通じて運動に親しむ素地を養い、協働することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力 -2自己を理解する力 -1心身の健康

内容

グループワークやディスカッションを取り入れ、リズムに合わせた運動から、トレーニング的な動きやダンス的な動きを通じてからだを引き締めるようにする等、様々なダンス的身体運動へのアプローチをしていく。

第1週目 オリエンテーション

第2~5週目 リズムエクササイズ【グループワーク】【リアクションペーパー】

第6~7週目 トレーニング的エクササイズ【グループワーク】【リアクションペーパー】

第8～10周目 リズムムーブメント【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

第11～13周目 ダンスムーブメント【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】

第14～15周目 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】十分な睡眠時間を確保し，朝食を摂り，運動できる体調を整えておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】実技を通じて体感した「気付き」を書き留め，自らの身体についての理解を深める（各授業に対して45分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）40%、リアクションペーパー20%、実技テスト30%として、総合的に評価し、6割以上を合格とする。

到達目標 1．平常点10%/40%、リアクションペーパー10%、実技テスト5%

到達目標 1．平常点10%/40%、リアクションペーパー5%、実技テスト10%

到達目標 1．平常点20%/40%、リアクションペーパー5%、実技テスト15%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて推薦書を授業内に紹介）。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

着用する服、靴などは必ずふさわしいものを着用すること。

長髪の場合は髪をまとめるとともに、危険防止のため装飾品は禁止。

自ら前向きに取り組めるような姿勢で臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Rクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目です。教職課程を志す人には、必要な単位です。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かす楽しみ」を見つける機会を提供します。また、この授業は、複数の学科や学年で構成されるので、仲間づくりやチーム作りの手段と方法についても学習し、相互に交流する機会を提供します。

授業の方法 (ALを含む)

集団球技 (ティーボール, サッカー, バasketボールなど) を中心とした実技を、およそ3週を単位に継続的に行います。

到達目標

- 1) クラス内の交流を通じて、実技で扱う種目の技能や楽しみ方について理解できる。
- 2) 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」や「生涯を通じた健康づくり」の大切さを理解できる。
- 3) 参加者の身体能力や活動できる環境に応じて、仲間が楽しめるように、柔軟にルールや内容を工夫できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 協働する力, -2 自己を理解する力, -1 心身の健康

です。

内容

集団球技を中心に進めます。

「身体運動を通して、自分と仲間がともに楽しむ」が目標です。

予定している種目は以下の通りです。

- ・テニス
- ・サッカー
- ・バスケットボール
- ・バドミントン
- ・バレーボール

ゲームを主体に行います。

チームや対戦相手の特徴に応じた戦術・戦略について、チームで話し合う時間を用意します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠，バランスの取れた食事を摂取するなど，体調を整えておく（45分）

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め，生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%，最終レポートを20%として，総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	扇原 淳		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

科目の性格

繰り返し受講可能な共通科目です。教職課程を志す人には、必要な単位です。また、一部健康運動実践指導者受験資格取得のために必要な授業内容です。

科目の概要

受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かす楽しみ」を見つける機会を提供します。また、この授業は、複数の学科や学年で構成されるので、仲間づくりやチーム作りの手段と方法についても学習し、相互に交流する機会を提供します。

授業の方法 (ALを含む)

集団球技 (ティーボール, サッカー, バスケットボールなど) を中心とした実技を, およそ3週を単位に継続的に行います。

到達目標

- 1) クラス内の交流を通じて, 実技で扱う種目の技能や楽しみ方について理解できる。
- 2) 自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」や「生涯を通じた健康づくり」の大切さを理解できる。
- 3) 参加者の身体能力や活動できる環境に応じて, 仲間が楽しめるように, 柔軟にルールや内容を工夫できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、大学のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

-3 協働する力, -2 自己を理解する力, -1 心身の健康

です。

内容

集団球技を中心に進めます。

「身体運動を通して、自分と仲間がともに楽しむ」が目標です。

予定している種目は以下の通りです。

- ・テニス
- ・サッカー
- ・バスケットボール
- ・バドミントン
- ・バレーボール

ゲームを主体に行います。

チームや対戦相手の特徴に応じた戦術・戦略について、チームで話し合う時間を用意します。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前日7時以上の睡眠、バランスの取れた食事を摂取するなど、体調を整えておく（45分）

【事後学修】授業を通じて感じた体の使い方や運動・スポーツの楽しみ方を書き留め、生涯を通じた運動・スポーツの楽しみ方の理解を深める（15分）

評価方法および評価の基準

授業ごとの振り返りを含む平常点を80%、最終レポートを20%として、総合評価60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に資料を配布します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施します。グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意してください。見学者も運動できる服装に着替えて出席してください。実技科目のため、授業への出席を重視します。平常点では、技能レベルや勝敗、記録での評価は行いません。欠席が4回を超える場合は、評価の対象としません。授業開始時刻から20分以上の遅刻と早退については、2回で欠席1回分とします。やむを得ない理由で見学の場合は、出席とみなす場合があります。

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無
有

実務経験および科目との関連性

小学校教員として体育科実技指導に携わった経験を持つ教員が担当し、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

ボールを手や道具で打つ動作を主体にしたスポーツ種目を継続的に実施する。具体的には、ゴルフ・バドミントン・卓球・ソフトバレーボール等を2～5週間を単位にして行う予定である。

授業の方法 (A L 含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カードやノートの記述、および授業の総まとめレポートの作成提出を行う。【レポート(知識)】【実技】

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3協働する力
- 1心身の健康

内容

1	オリエンテーション (運動のできる服装で集合・グループ作り・ゴルフの基本を理解) 【実技】
2	ゴルフ (個人技能練習 : 小さいスイングで打つ、グリップ) 【実技】
3	ゴルフ (個人技能練習 : 大きなスイングで打つ) 【実技】
4	ゴルフ (個人技能練習 : 様々なスイングで打つ・ショートゲームの理解と実践) 【実技】
5	ゴルフ (ショートゲームの理解と実践) 【実技】
6	ゴルフ (ショートゲーム大会) 【実技】

7	卓球（個人技能練習：サーブ、ラリーの継続）【実技】
8	卓球（トーナメント大会：ダブルス戦）【実技】
9	火気使用実習【実技】
10	ソフトバレーボール（チーム作り、個人技能練習：パス、サーブ）【実技】
11	ソフトバレーボール（スパイク等の連係プレー練習、練習試合）【実技】
12	ソフトバレーボール（チーム対抗リーグ戦）【実技】
13	バドミントン（チーム作り、個人技能練習：サーブ、ラリーの継続）【実技】
14	バドミントン（ダブルス戦の進め方を理解、練習試合）【実技】
15	バドミントン（チーム対抗リーグ戦）～まとめ【実技】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組むスポーツ種目を理解する（60分）。

【事後学修】毎回の授業内容をノートまたは学習カードに整理する（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度（運動への取組、協働性、意欲や関心など）50%、ノートまたは学習カードの整理（提出2回）30%、およびレポート20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標 1) 授業への参加度（25%/50%） ノートまたは学習カードの整理（15%/30%）

到達目標 2) 授業への参加度（25%/50%） ノートまたは学習カードの整理（15%/30%）

到達目標 3) レポート（20%/20%）

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の確認を行い学習理解を深める。提出した学習カードやノート等はコメントを記載し翌週以降に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に使用しないが、講義の中で随時、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

天候や授業の進度に応じて、グラウンドと体育館（アリーナ）とを使い分けて授業を実施するため、グラウンド用と体育館用の2種類の靴を用意すること。見学者も運動着に着替えて出席すること。

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しなし。体調を整えて授業に臨むこと。

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟、平田 智秋、若葉 京良、鈴木 康弘 他		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Uクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

スノーボードの指導員資格を有する教員を含め、義務教育等のスキー実習の実践に深く携わった教員が担当し、初心者でも安全なスキー及びスノーボードの講習を実施する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目であるが、2年生の受講を優先する。3泊4日の雪上実習と2～3回の事前オリエンテーションを通じて、スキーやスノーボードの基礎技術はもとより、集団生活による自律した行動・態度を身につける学びの場を提供する。前期に行う身体運動 の抽選登録対象外とし、別の方法で履修登録を行う (読書入門・身体運動 のパンフ参照)。繰り返し受講が可能。

科目の概要

本学湯の丸山荘 (長野県) に宿泊し、湯の丸スキー場においてスキーまたはスノーボードの実習を行う。

授業の方法 (A L 含む)

本科目では、午前2時間30分・午後2時間30分のスキーまたはスノーボード実技講習、夕食後1時間の講義・班別ミーティングの日程で3泊4日の学外実習を実施する。実習の総まとめとして、レポートの作成提出を行う。【レポート (知識) 】【実技】

到達目標

- 1) 自然との関わりの深いスキーまたはスノーボードの特性について理解し、その知識と技術を身につける。
- 2) 自然界のすばらしさと厳しさを味わい、生涯を通じて自然に親しむ態度を養う。
- 3) 健康管理への気付き、学年や学科を超えた交流の中から仲間意識を高める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力 -1心身の健康

内容

実習と講義を通じて、以下の技能を体得するとともに、集団生活を通して自律した行動と態度の意義を再確認する。実習終了時にレポートを作成し提出する。【実技】【レポート (知識) 】

スキー初級

- 雪や用具になれる：スキーの着脱、転倒起立、歩行、方向変換、推進滑降、登行
 初歩的な滑降：直滑降、ブルーク、ブルーク・ボーゲン

スキー中級

基本的な構えとスキー操作を学ぶ：斜滑降、横滑り、山回り、プルーク・ターン
リズムとバランス感覚を学ぶ：シュテム・ターンなど

スキー上級

スピードをコントロールし、回転動作を洗練する：パラレル・ステップターン
制限コースや雪質、斜面などへの対応力を高める：制限滑降、深雪滑降

スノーボード初級

装備の着脱，転び方と起き方、スケーティング
リフトの乗り降り、サイドスリップと木の葉落とし（かかと、つま先の両側で）

スノーボード中級

Jターン（かかと、つま先の両方で）、ノーズドロップ
ずらしを利用した連続ターン

スノーボード上級

カービングターン、大回り和小回り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前オリエンテーションで紹介した推薦書の自主的講読(60分)。

【事後学修】実習のまとめとして指示した実習ノートの整理(30分)。レポートの作成、提出(2時間)。

評価方法および評価の基準

オリエンテーションへの参加および実習における技能習得・講義・生活態度(70%)、レポート作成提出(30%)を総合して評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1) 実習への参加(40%/70%) レポート(20%/30%)

到達目標 2) 実習への参加(10%/70%) 講義：安全管理、等(10%/70%)

到達目標 3) 実習への参加(10%/70%) レポート(10%/30%)

【フィードバック】実技実習中の夜の活動プログラムとして、スキーとスノーボード講習中の映像等をもとに振り返りを行い、学習理解を深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】オリエンテーションで紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・実施時期、実施場所等：2021年2月中旬に3泊4日で実施。履修人数を30～35名程度に制限する予定。上位学年(特に2年生)の履修優先とし、繰り返し受講も可能。

・実施場所及び宿泊施設：湯の丸スキー場、本学湯の丸山荘。

・実習参加費(予定)：35,000円程度(宿泊費・3泊9食、交通費、保険料、リフト代、用具レンタル代等)～ウェアのレンタルはない(各自で準備)。

・受講希望者は後期履修登録前に行うオリエンテーションに必ず参加すること。

科目名	身体運動		
担当教員名	藤生 栄一郎		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として保健体育科の実技指導に携わった経験をもつ教員が担当し、授業内で扱う各スポーツ種目の進め方やルール等も、受講者の技能レベルを考慮してアレンジして指導する。また、高校までの体育実技授業の意味や大学における体育実技の意義も伝えたい。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成、実施方針 1 . 2 . 3 . を踏まえ、身体運動を通して、受講生自らの意欲、興味、関心、能力に応じて、体を動かすことの楽しみを見出すことを支援し、身体づくりとともに、学科や学年を越えた学生同士の交流や仲間づくりを促す機会にもしたい。

教員免許や各種視覚取得の必修科目である。

科目の概要

ネット型球技 (バレーボール、バドミントン、卓球) の技術練習とゲームを中心に、様々な運動を行い、身体を動かすことの楽しさを味わい、積極的に動ける身体づくりを目指すとともに、学生同士の交流やコミュニケーション能力の向上も目的の一つとする。

授業の方法 (A Lを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回、授業のふりかえりとして、授業内容を整理する学習カードの記入及び提出と、最終的にはまとめプリントの提出をする。【実技】

到達目標

- ・身体を動かすことの楽しさを味わう中で、積極性とチャレンジ精神をより高め、実技技能も高める。
- ・ウォーミングアップを兼ねて、ストレッチ、体操、トレーニングなども行なう。
- ・また、それらを通して自らの身体づくりや健康増進、体力向上、ストレス解消などにも役立てる。
- ・スポーツ・運動を積極的に楽しめる感覚や考え方、知識を身につける。
- ・仲間と過ごす活動の楽しさ、協働、協調、協力、チームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップなどを学ぶ。
- ・生涯に渡ってスポーツ・運動に取り組む姿勢を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全額共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

内容

ネット型球技として、バレーボール、バドミントン、卓球の技術的な練習とゲームを中心に、様々な身体活動運動を行なう。

- 第1回 オリエンテーション（授業概要説明）体ほぐし運動、バレーボール（1）
- 第2回 バレーボール（2）バレーボールの基礎技能、グループ分け、簡単なゲーム
- 第3回 バレーボール（3）フォーメーションの理解とゲーム
- 第4回 バレーボール（4）戦術の理解とゲーム
- 第5回 バレーボール（5）戦術の理解とゲーム(2)
- 第6回 バドミントン（1）バドミントンの基礎技能、簡単なゲーム
- 第7回 バドミントン（2）バドミントンのルールの理解とシングルスゲーム、ダブルスゲーム
- 第8回 バドミントン（3）グルーピングと団体戦のやり方
- 第9回 バドミントン（4）団体戦(1)
- 第10回 バドミントン（5）団体戦(2)
- 第11回 卓球（1）卓球の基礎技能と簡単なゲーム
- 第12回 卓球（2）卓球のルールの理解とシングルのゲーム
- 第13回 卓球（3）ダブルスルールの理解とダブルスのゲーム
- 第14回 卓球（4）ダブルス、シングルスによる団体戦
- 第15回 卓球（5）団体戦(2)、身体運動 のまとめプリントの作成

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業で取り組むスポーツ種目の概要を理解する。（30分）
前回授業内容等を整理し、課題や目標を明確にする。（10分）
- 【事後学修】毎回の授業内容を学習カードに整理する。（10分）
日常的に体を動かす習慣を確立し、身体づくりを継続する。（30分）

評価方法および評価の基準

- 平常点：授業への参加度（運動への取り組み、積極性、協調性、意欲、関心など）60点、
毎回の学習カード整理20点、実技まとめプリント20点による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】学習カードに記載された授業内での疑問点などは、翌週以降の授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて授業内で紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・主に屋内での活動を予定しているので、上記種目が実施可能な体育館シューズ（高校時代までに使用していたもので構わないが、紐で絞める屋内専用シューズとする）を用意すること。
- また、服装は特に指定しないが、いわゆるジャージの上下やTシャツ、ハーフパンツ、短パン等を着用することとし、ストレッチ素材のジーンズやスキニーパンツ等は、動きが制限される可能性があるので着用しないこと。
- ・実技技能レベルでは評価をしない。これまでの経験の有無を問わず、何よりも積極的に実技に取り組み、楽しもうとする姿勢を重視する。
- ・実技科目のため、授業への出席と実動を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認められないので、体

調を整えて授業に臨むこと。なお、見学も出席である。

科目名	身体運動		
担当教員名			
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年		ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	実技	単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として保健体育科の実技指導に携わった経験をもつ教員が担当し、授業内で扱う各スポーツ種目の進め方やルール等も、受講者の技能レベルを考慮してアレンジして指導する。また、高校までの体育実技授業の意味や大学における体育実技の意義も伝えたい。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	-----------------	------	----------------

科目の性格

体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成、実施方針 1 . 2 . 3 . を踏まえ、身体運動を通して、受講生自らの意欲、興味、関心、能力に応じて、体を動かすことの楽しみを見出すことを支援し、身体づくりとともに、学科や学年を越えた学生同士の交流や仲間づくりを促す機会にもしたい。

教員免許や各種視覚取得の必修科目である。

科目の概要

ネット型球技 (バレーボール、バドミントン、卓球) の技術練習とゲームを中心に、様々な運動を行い、身体を動かすことの楽しさを味わい、積極的に動ける身体づくりを目指すとともに、学生同士の交流やコミュニケーション能力の向上も目的の一つとする。

授業の方法 (A Lを含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回、授業のふりかえりとして、授業内容を整理する学習カードの記入及び提出と、最終的にはまとめプリントの提出をする。【実技】

到達目標

- ・身体を動かすことの楽しさを味わう中で、積極性とチャレンジ精神をより高め、実技技能も高める。
- ・ウォーミングアップを兼ねて、ストレッチ、体操、トレーニングなども行ない、それらを通して自らの身体づくりや健康増進、体力向上、ストレス解消などにも役立てる。
- ・スポーツ・運動を積極的に楽しめる感覚や考え方、知識を身につける。
- ・仲間と過ごす活動の楽しさ、協働、協調、協力、チームワーク、リーダーシップ、フォロワーシップなどを学ぶ。
- ・生涯に渡ってスポーツ・運動に取り組む姿勢を身につける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全額共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質、能力を育成することを目的とする。

内容

ネット型球技として、バレーボール、バドミントン、卓球の技術的な練習とゲームを中心に、様々な身体活動運動を行なう。

- 第1回 オリエンテーション（授業概要説明）体ほぐし運動、バレーボール（1）【実技】【グループワーク】
- 第2回 バレーボール（2）バレーボールの基礎技能、グループ分け、簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第3回 バレーボール（3）フォーメーションの理解とゲーム【実技】【グループワーク】
- 第4回 バレーボール（4）戦術の理解とゲーム【実技】【グループワーク】
- 第5回 バレーボール（5）戦術の理解とゲーム(2)【実技】【グループワーク】
- 第6回 バドミントン（1）バドミンントンの基礎技能、簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第7回 バドミントン（2）バドミンントンのルールの理解とシングルスゲーム、ダブルスゲーム【実技】【グループワーク】
- 第8回 バドミントン（3）グルーピングと団体戦のやり方【実技】【グループワーク】
- 第9回 バドミントン（4）団体戦(1)【実技】【グループワーク】
- 第10回 バドミントン（5）団体戦(2)【実技】【グループワーク】
- 第11回 卓球（1）卓球の基礎技能と簡単なゲーム【実技】【グループワーク】
- 第12回 卓球（2）卓球のルールの理解とシングルのゲーム【実技】【グループワーク】
- 第13回 卓球（3）ダブルスルールの理解とダブルスのゲーム【実技】【グループワーク】
- 第14回 卓球（4）ダブルス、シングルスによる団体戦【実技】【グループワーク】
- 第15回 卓球（5）団体戦(2)、身体運動 のまとめプリントの作成【実技】【グループワーク】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業で取り組むスポーツ種目の概要を理解する。（30分）
前回授業内容等を整理し、課題や目標を明確にする。（10分）
- 【事後学修】毎回の授業内容を学習カードに整理する。（10分）
日常的に体を動かす習慣を確立し、身体づくりを継続する。（30分）

評価方法および評価の基準

- 平常点：授業への参加度（運動への取り組み、積極性、協調性、意欲、関心など）60点、
毎回の学習カード整理20点、実技まとめプリント20点による評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】学習カードに記載された授業内での疑問点などは、翌週以降の授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定なし（必要に応じて授業内で紹介）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

- ・主に屋内での活動を予定しているので、上記種目が実施可能な体育館シューズ（高校時代までに使用していたもので構わないが、紐で絞める屋内専用シューズとする）を用意すること。
- また、服装は特に指定しないが、いわゆるジャージの上下やTシャツ、ハーフパンツ、短パン等を着用することとし、ストレッチ素材のジーンズやスキニーパンツ等は、動きが制限される可能性があるので着用しないこと。
- ・実技技能レベルでは評価をしない。これまでの経験の有無を問わず、何よりも積極的に実技に取り組み、楽しもうとする姿勢を重視する。

・実技科目のため、授業への出席と実動を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認められないので、体調を整えて授業に臨むこと。なお、見学も出席である。

科目名	身体運動		
担当教員名	神田 俊平		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子ども～高齢者まで幅広い対象者の運動指導にかかわってきた教員が担当し、スポーツやレクリエーション活動の楽しさを味わえる運動種目を扱う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

教員免許取得のための必修科目である。この科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針 1 . 2 . 3 を踏まえて実施する。体育実技 (運動) を通して、受講生相互の活発なコミュニケーションを生み出すことで、大学生活における修学の基礎を育むこと、さらには集団活動を通して、大学や学科への帰属意識を高めるきっかけとすることを目的とする。

科目の概要

1 年次前期に学科クラスごとに履修し、2～5 週を単位に協働型および競争型の集団スポーツをおこなう。多様なスポーツを楽しみながら、仲間との交流を深める。

授業の方法 (ALを含む)

毎回1つのスポーツ種目を取り上げて、実践する。【実技】

到達目標

1. グループで協力して活動し、リーダーシップを育み、幅広い交友関係を構築する
2. 豊かな人間性・感受性を醸成する
3. 学生生活を活発・健全に送るための体力をつける
4. 生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につける

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1心身の健康

内容

身体運動 では、スポーツを通じた仲間作りを目標に、スポーツやレクリエーション活動、リズムエクササイズ、球技等を実施する。スポーツの面白さや楽しさを体験するために「気付く」「考える」「工夫する」「話し合う」など、主体的な活動を積極的に取り入れ、授業を進める。

【第1週】オリエンテーション（運動できる服装に着替えて集合）

【第2週】体力測定

【第3週～】実技（レクリエーションスポーツなど）

【第5週～】実技（ボールゲームなど）

【第11週～】実技（ニュースポーツなど）

【第15週】まとめ

受講者数などにより内容が変更になる場合もある。

運動に適した服装でなければ出席と認めない。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを予め確認し、授業で紹介した文献や資料の自主的な講読を行い、授業で取り組む運動やスポーツ種目を理解する（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

評価方法および評価の基準

平常点（授業に対する意欲、関心、態度を含む）60%、毎回のまとめ（振り返りシート）20%、実技テスト20%とし、学生生活を活発・健全に送るための体力、生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢やスキルが身についているかを総合的に評価し、6割以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題にはコメントを付して返却し、実技テストにはテスト終了後にコメントをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】は適宜授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講生同士の積極的な交流を期待する。

科目名	身体運動		
担当教員名	仁科 幸		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

舞台上演や教育現場といった多様な形態でのダンス実践や指導の経験のある教員が授業を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目「保健体育」の選択必修科目である。体育の実技科目を通して、受講生が自らの意欲や興味、能力に応じて「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。学科や学年を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科や学年の異なる受講生の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必修科目である。

科目の概要

私たちの身体はどんな動きができるのか、ということに着目し、動き方を工夫しながらさまざまなダンスやゲームに取り組む。

授業の方法

2~5週を単位に数種類の体育実技を行う。【実技】【グループワーク】

授業終了後に毎回、リアクションペーパーの記入を求め、翌週以降にフィードバックを行う。【リアクションペーパー】

授業のまとめとして、レポートの提出を求める。【レポート(知識)】

到達目標

- 1、クラス内での交流を通じて、実技で扱う種目の技能を高める。
- 2、生涯を通じて運動に親しむ意欲や態度を身につける。
- 3、自らの意欲・能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-3協働する力 -1心身の健康

内容

このクラスでは、片時も離れることのできない自分の「からだ」を労りながら、今まで気づかなかった「からだ」の感覚や可能性を探ることを目的とする。

そのためにまず、授業の最初に健やかな「からだ」の土台を作るストレッチングやエクササイズを行った後、さまざまなダンスやゲームを行う。自分の「からだ」への労りや気づきがやがて、仲間の「からだ」への労りや気づきへと繋がって行くことを実感して欲しい。

第1週 オリエンテーション (平服 / 筆記用具持参) 【リアクションペーパー】

第2週 ストレッチング&エクササイズ【実技】【リアクションペーパー】

第3週～第4週

レクリエーションゲーム【実技】【リアクションペーパー】

第5週～第6週

音楽に合わせてからだを動かそう【実技】【リアクションペーパー】

第7週～第8週

あそびからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第9週～第10週

様々な動きからダンスへ【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第11週～第14週

テレビで流れるコマーシャル、映画、音楽など、私たちにとって身近なものの中にダンスがどのような形で存在しているのかを探る。そして、それらをもとに課題を設定し、グループワークや発表などを行う。【実技】【グループワーク】【リアクションペーパー】

第15週 まとめ【レポート(知識)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業で行う創作活動のテーマについて、各自調べておくこと。(60分)

【事後学修】授業で行った内容について、各自ノート等に記録を取っておくこと。また、授業内で紹介した映像資料を見ておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

平常点50点(グループワークへの貢献、授業に対する積極性、意欲、態度など)、毎回の授業における理解や気づきに関するリアクションペーパーの作成20点、まとめのレポート30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標2) 平常点25点/50点、リアクションペーパー10点/20点

到達目標3) まとめレポート30点

【フィードバック】リアクションペーパーを確認し、質問等への回答を記載した上で翌週以降に返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)?

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	身体運動		
担当教員名	山本 悟、清水 文子		
ナンバリング	KKb223		
学 科	人間生活学部 (K) - 共通科目 - 身体運動		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態	実技	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 健康運動実践指導者 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 養護教諭一種免許状 / 栄養教諭一種免許状 / 栄養教諭二種免許状 / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (国語) / 高等学校教諭一種免許状 (国語) / 中学校教諭一種免許状 (保健体育) / 高等学校教諭一種免許状 (保健体育)		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高等学校教員として体育科の実技指導に携わっている経験を活かし、授業で扱うスポーツ種目の進め方やルール等も受講者の技能レベルを考慮してアレンジしながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

共通科目の学位授与方針1. に該当する。体育の実技科目である。

本科目は共通科目保健体育の教育課程編成・実施方針1. 2. 3を踏まえ、身体運動を通して、クラス内のコミュニケーションを図るとともに、大学や学科への帰属意識を高め、4年間の学園生活に臨む修学態度の基礎を養う。受講生それぞれの意欲や興味、能力に応じた「身体を動かすことの楽しみ」を見つけることを支援する。そして学科や学年の枠を超えた多彩なクラス編成が本科目の特徴であり、スポーツや身体運動を通して学科間、学年間の交流が深まることを期待している。教員免許や各種資格取得の必須科目である。繰り返し受講が可能。

科目の概要

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、バドミントンなど様々な種目を行う。またゲーム中心で十分な運動量を確保したい。

授業の方法 (AL含む)

本科目は体育実技を中心に授業を展開する。毎回の授業の振り返りとして、授業内容を整理する学習カーの記述および授業の総まとめレポートの作成し提出する。

到達目標

- 1) クラス内の交流を基盤にして、身体を動かす積極的な姿勢を身につける。
- 2) 自らの意欲・能力に応じて、身体を動かすことの楽しみを見つけ、実技技能を高める。
- 3) 運動を言葉で表現する活動により、スポーツの新しいとらえ方に気づき、理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、全学共通科目のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 協働する力
- 1 心身の健康

内容

天候や施設状況によって、授業内容が変わることがあります。毎時間感想を記入しそれを元に出席管理を行います。

1	オリエンテーション
2	ボール慣らし、ドッジボール
3	パス・シュート練習、簡易ゲーム (4 対 4)
4	パス・シュート練習、連携プレーからシュートへの展開簡易ゲーム (5 対 5)

5	バスケットボール、パス・シュート練習、ゲーム
6	バレーボール、トス・スパイク・サーブ練習、ゲーム
7	バドミントン(シングル)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
8	バドミントン(ダブルス)、ラリー・サーブ練習、ゲーム
9	火気取扱演習
10	テーブルゲーム(1)シングル
11	テーブルゲーム(2)ダブルス
12	フットサル、練習～ゲーム
13	ユニホッケー、練習～ゲーム
14	からだを知る、ストレッチ・筋力トレーニングなど
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】競技種目のルールを事前に調べ理解しておくこと。(各授業に対して60分)

【事後学修】毎回の授業内容を振り返り、ノートや学習カードに整理する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度(運動への取組、協調性、意欲や関心)50%、学習シート整理30%、試験(レポート)20%による評価を行い、総合60点以上を合格とする。

到達目標1) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標2) 授業への参加度(25%.50%)、学習シート整理(15%.30%)

到達目標3) レポート(20%.20%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定なし(必要に応じて推薦書を授業内に紹介)

初回授業の案内

初回授業は記念ホール/メインアリーナに集まってください。更衣をせず運動靴を準備してください。また、学習シートを作成しますので筆記用具・顔写真も忘れず準備してください。

私物(靴・手荷物)はすべて実施場所へ持参してください。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実技科目のため、授業への出席を重視する。10回以上の出席が確認できない場合は単位を認定しない。体調を整えて授業に臨むこと。